

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-205370

(P2017-205370A)

(43) 公開日 平成29年11月24日(2017.11.24)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0 2 C 3 3 3

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 84 頁)

(21) 出願番号 特願2016-100985 (P2016-100985)
 (22) 出願日 平成28年5月20日 (2016. 5. 20)

(71) 出願人 000144153
 株式会社三共
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
 (72) 発明者 小倉 敏男
 東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
 式会社三共内
 Fターム(参考) 2C333 AA11 CA50 CA57 CA74 CA77
 EA04 EA10

(54) 【発明の名称】 遊技機

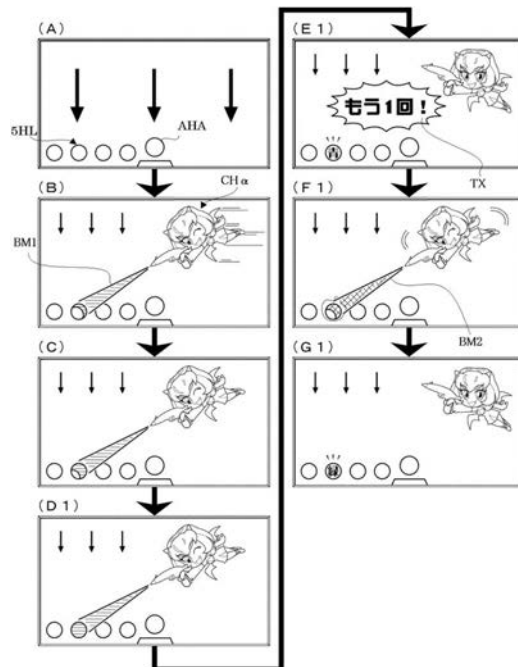
(57) 【要約】

【課題】表示態様の变化に関する興趣を向上できる遊技機を提供する。

【解決手段】アクティブ表示部A H Aにおけるアクティブ表示や、第1保留表示部5 H L、第2保留表示部5 H Rにおける保留表示を、大当りの期待度に応じた複数の色の態様のいずれかで表示可能であるとともに、その態様が変化するか否かを報知する変化演出A及び変化演出Bが実行可能である。変化演出Aにおいてアクティブ表示の色が2段階以上の変化となる割合は、変化演出Bにおいてアクティブ表示の色の変化が2段階以上の変化となる割合よりも高く、且つ、変化演出Aではアクティブ表示の色が白、青、緑、赤の順で変化し得る。また、変化演出Aにおいて保留表示の色が2段階以上の変化となる割合は、変化演出Bにおいて保留表示の色の変化が2段階以上の変化となる割合よりも高く、且つ、変化演出Aでは保留表示の色が白、青、緑、赤の順で変化し得る。

【選択図】 図 3 0

【図30】
 変化演出Aの表示変化パターンYHP1-3、表示変化タイプXTPA3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
可変表示の実行中に、当該可変表示に対応する対応表示を、前記有利状態に制御される
期待度に対応した複数の表示態様のいずれかで表示可能な対応表示手段と、

対応表示の表示態様が変化するか否かを報知する特別演出及び特定演出を実行可能な変
化演出実行手段と、

を備え、

前記特定演出では、前記特別演出よりも対応表示の表示態様が複数段階で変化する場合
が高く、

前記特定演出では、対応表示の表示態様が複数段階で変化する場合に、対応表示の段階
的な表示態様の変化を連続的に表示可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

未だ開始されていない可変表示に対応する特定表示を、前記有利状態に制御される期待
度に対応した複数の表示態様のいずれかで表示可能な特定表示手段と、

特定表示の表示態様が変化するか否かを報知する特別演出及び特定演出を実行可能な変
化演出実行手段と、

を備え、

前記特定演出では、前記特別演出よりも特定表示の表示態様が複数段階で変化する場合
が高く、

前記特定演出では、特定表示の表示態様が複数段階で変化する場合に、特定表示の段階
的な表示態様の変化を連続的に表示可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

未だ開始されていない可変表示に対応する特定表示の表示態様を変化させる第 1 変化演
出を実行する第 1 変化演出実行手段と、

可変表示の実行中に表示され当該可変表示に対応する対応表示の表示態様を変化させる
第 2 変化演出を実行する第 2 変化演出実行手段と、

を備え、

前記第 1 変化演出が実行された後に表示される特定表示の表示態様は、前記第 2 変化演
出が実行された後に対応表示の表示態様として表示されない第 1 特殊態様を含み、

前記第 2 変化演出が実行された後に表示される対応表示の表示態様は、前記第 1 変化演
出が実行された後に特定表示の表示態様として表示されない第 2 特殊態様を含む、

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機として、遊技球などの遊技媒体を発射装置によって遊技領域に発射し、所定の入
賞領域に遊技媒体が入賞する（始動入賞が発生する）と特別図柄等の識別情報を可変表示
（「変動」ともいう）可能な可変表示装置が設けられ、可変表示装置において識別情報の
可変表示の表示結果が特別遊技結果（大当り図柄）となった場合に遊技者にとって有利な
遊技価値である特定遊技状態に制御される（例えば大当り遊技状態に制御される）ように
構成されたものがある。このような遊技機においては、開始条件が成立していない可変表
示に対応する保留表示の表示態様が変化し、且つ、表示態様の変化の割合や、表示態様
の変化の段階数の選択割合が異なるものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

20

30

40

50

【 0 0 0 3 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 1 4 - 1 8 3 8 7 3 号 公 報

【 発 明 の 概 要 】

【 発 明 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

【 0 0 0 4 】

しかし、上述した従来の遊技機では、表示態様が一度に複数段階で変化する場合には、その表示態様が複数段階で変化したことを遊技者が認識しづらく、表示態様の変化に関する興味が不十分であった。

【 0 0 0 5 】

この発明は、上記実状に鑑みてなされたものであり、表示態様の変化に関する興趣を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

10

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

【 0 0 0 6 】

(1) 上記目的を達成するため、本願の第 1 の観点に係る遊技機は、

可変表示（例えば、識別情報の可変表示）を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当りの遊技状態）に制御可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

可変表示の実行中に、当該可変表示に対応する対応表示（例えば、アクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示）を、前記有利状態に制御される期待度に対応した複数の表示態様（例えば、複数の色の態様）のいずれかで表示可能な対応表示手段（例えば、ステップ S 3 4 1 b、S 3 4 3 の処理を実行してアクティブ表示の色を変化させる演出制御用 C P U 1 2 0）と、

20

対応表示の表示態様が変わるか否かを報知する特別演出（例えば、変化演出 B）及び特定演出（例えば、変化演出 A）を実行可能な変化演出実行手段（例えば、ステップ S 3 4 1 b、S 3 4 3 の処理を実行してアクティブ表示の色の変化中の演出を行う演出制御用 C P U 1 2 0）と、

を備え、

前記特定演出では、前記特別演出よりも対応表示の表示態様が複数段階で変化する割合が高く（例えば、変化演出 A の場合において、図 1 6 の決定割合により表示変化パターンが Y H P 1 - 1 以外に決定されて、アクティブ表示の色が 2 段階以上の変化となる割合が、変化演出 B の場合において、図 2 0 の決定割合により表示変化パターンが Z H P 1 - 1

30

以外に決定されて、アクティブ表示の色が 2 段階以上の変化となる割合よりも高いこと）、

前記特定演出では、対応表示の表示態様が複数段階で変化する場合に、対応表示の段階的な表示態様の変化を連続的に表示可能であること（例えば、変化演出 A ではアクティブ表示の色が白、青、緑、赤の順で変化すること）を特徴とする。

【 0 0 0 7 】

このような構成によれば、対応表示の段階的な表示態様の変化を連続的に表示することによって、対応表示の表示態様が複数段階で変化したことを遊技者が認識可能となり、表示態様の変化に関する興趣を向上させることができる。

【 0 0 0 8 】

40

(2) 上記目的を達成するため、本願の第 2 の観点に係る遊技機は、

可変表示（例えば、識別情報の可変表示）を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当りの遊技状態）に制御可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

未だ開始されていない可変表示に対応する特定表示（例えば、第 1 保留表示部 5 H L、第 2 保留表示部 5 H R における保留表示）を、前記有利状態に制御される期待度に対応した複数の表示態様（例えば、複数の色の態様）のいずれかで表示可能な特定表示手段（例えば、ステップ S 3 4 1 b、S 3 4 3 の処理を実行して保留表示の色を変化させる演出制御用 C P U 1 2 0）と、

特定表示の表示態様が変わるか否かを報知する特別演出（例えば、変化演出 B）及び特定演出（例えば、変化演出 A）を実行可能な変化演出実行手段（例えば、ステップ S 3

50

4 1 b、S 3 4 3 の処理を実行して保留表示の色の変化中の演出を行う演出制御用 CPU 1 2 0) と、

を備え、

前記特定演出では、前記特別演出よりも特定表示の表示態様が複数段階で変化する割合が高く（例えば、変化演出 A の場合において、図 1 6 の決定割合により表示変化パターンが Y H P 1 - 1 以外に決定されて、保留表示の色が 2 段階以上の変化となる割合が、変化演出 B の場合において、図 2 0 の決定割合により表示変化パターンが Z H P 1 - 1 以外に決定されて、保留表示の色が 2 段階以上の変化となる割合よりも高いこと）、

前記特定演出では、特定表示の表示態様が複数段階で変化する場合に、特定表示の段階的な表示態様の変化を連続的に表示可能であること（例えば、変化演出 A では保留表示の色が白、青、緑、赤の順で変化すること）を特徴とする。

10

【 0 0 0 9 】

このような構成によれば、特定表示の段階的な表示態様の変化を連続的に表示することによって、特定表示の表示態様が複数段階で変化したことを遊技者が認識可能となり、表示態様の変化に関する興味を向上させることができる。

【 0 0 1 0 】

(3) 上記 (1) 又は (2) の遊技機において、

未だ開始されていない可変表示に対応する特定表示の表示態様を変化させる第 1 変化演出（例えば変化演出 B ）を実行する第 1 変化演出実行手段（例えばステップ S 3 4 3 の処理を実行する演出制御用 CPU 1 2 0 ）と、

20

可変表示の実行中に表示され当該可変表示に対応する対応表示の表示態様を変化させる第 2 変化演出（例えばアイコン表示変化演出）を実行する第 2 変化演出実行手段（例えばステップ S 3 4 3 の処理を実行する演出制御用 CPU 1 2 0 ）と、

を備え、

前記第 1 変化演出が実行された後に表示される特定表示の表示態様は、前記第 2 変化演出が実行された後に対応表示の表示態様として表示されない第 1 特殊態様（例えば「秘」の表示など）を含み、

前記第 2 変化演出が実行された後に表示される対応表示の表示態様は、前記第 1 変化演出が実行された後に特定表示の表示態様として表示されない第 2 特殊態様（例えば「チャンス」や「NEXT」、「激熱」の表示など）を含む、ようにしてもよい。

30

【 0 0 1 1 】

このような構成によれば、第 1 変化演出と第 2 変化演出によって、興味をより向上させることができる。

【 0 0 1 2 】

(4) 上記 (1) ~ (3) のいずれかの遊技機において、

前記変化演出実行手段は、前記特定演出の実行後に、対応表示又は特定表示の表示態様に変化する割合を低くし（例えば、変化演出 A の表示変化パターンの決定により可変表示 2 回分の表示変化パターン（Y H P 3 - 1、3 - 2）に決定される割合が、変化演出 A の可変表示 1 回分の表示変化パターン（Y H P 1 - 1 ~ 1 - 3、2 - 1、2 - 2）に決定される割合よりも低いこと）、

40

前記変化演出実行手段は、前記特定演出の実行後に、対応表示又は特定表示を前記有利状態に制御される期待度が高い表示態様に変化させること（例えば、大当りの場合には、変化演出 A の表示変化パターンの決定により可変表示 2 回分の表示変化パターン（Y H P 3 - 1、3 - 2）に決定される割合がハズレの場合よりも高いこと）ようにしてもよい。

【 0 0 1 3 】

このような構成によれば、遊技者に、特定演出後の対応表示の態様変化をより一層注目させることができる。

【 0 0 1 4 】

(5) 上記 (1) ~ (4) のいずれかの遊技機において、

前記変化演出実行手段は、前記特定演出の実行が決定されているとき（例えば、ステッ

50

ブ S 3 0 4、S 3 0 9 において変化演出 A の表示変化パターンが決定されたとき)に、前記特定演出の実行前の前記特別演出の実行を制限してもよい(例えば、変化演出 A より前の変化演出 B の実行を不可とする、あるいは、変化演出 A より前の変化演出 B における保留表示やアクティブ表示の色の変化を不可とすること)。

【0015】

このような構成によれば、特定演出における対応表示の態様変化をより強調することができる。

【0016】

(6) 上記(1)~(5)のいずれかの遊技機において、

前記特定演出では、特定表示又は対応表示の表示態様が変化するか否かを報知するときに、変化後の候補の表示態様と変化前の表示態様とを領域を分けて視認可能に表示し、変化後の候補の表示態様の領域が変化前の表示態様の領域よりも拡大したこと、又は、変化後の候補の表示態様の領域が特定表示又は対応表示の全領域に至ったことに基づいて、特定表示又は対応表示の表示態様を変化させる(例えば、図30(B)~(E1)に示すように、キャラクタCH からの青のビームBM1を浴びて保留表示部5HRにおける保留表示の色が白から青に徐々に変化すること)ようにしてもよい。

10

【0017】

このような構成によれば、領域変化によって態様変化するか否かを報知するため、遊技者に認識しやすい演出を実現できる。

【図面の簡単な説明】

20

【0018】

【図1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図3】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】始動入賞判定処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】入賞時乱数値判定処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】各種コマンドの設定例を示す図である。

【図7】特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。

【図8】変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図9】この実施の形態における変動パターンを示す説明図である。

30

【図10】変動パターンの決定例を示す説明図である。

【図11】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図12】保留表示データ記憶部の構成例を示す説明図である。

【図13】保留表示設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図14】変化演出Aの決定例を示す説明図である。

【図15】変化演出Aの表示変化内容の一例を示す説明図である。

【図16】変化演出Aの表示変化パターンの決定例を示す説明図である。

【図17】変化演出Aの表示変化タイミングパターンの決定例を示す説明図である。

【図18】変化演出Bの決定例を示す説明図である。

【図19】変化演出Bの表示変化パターンと表示変化タイミングパターンの設定例を示す説明図である。

40

【図20】変化演出Bの表示変化パターンの決定例を示す説明図である。

【図21】変化演出Bの表示変化パターンの決定例を示す説明図である。

【図22】変化演出Bの表示変化タイミングパターンの決定例を示す説明図である。

【図23】変化演出Bの表示変化タイミングパターンの決定例を示す説明図である。

【図24】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図25】変化演出A設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図26】変化演出B設定処理の一例を示すフローチャートなどである。

【図27】アイコン表示変化パターンの設定例を示す説明図である。

【図28】アイコン表示変化パターンの決定例を示す説明図である。

50

【図 29】可変表示中演出処理の一例を示すフローチャートである。

【図 30】演出実行例を示す図である。

【図 31】演出実行例を示す図である。

【図 32】演出実行例を示す図である。

【図 33】演出実行例を示す図である。

【図 34】演出実行例を示す図である。

【図 35】演出実行例を示す図である。

【図 36】演出実行例を示す図である。

【図 37】演出実行例を示す図である。

【図 38】演出実行例を示す図である。

【図 39】演出実行例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、図面を参照しつつ、本発明の一実施形態を詳細に説明する。図 1 は、本実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、ガイドレールによって囲まれた、ほぼ円形状の遊技領域が形成されている。この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0020】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、第 1 特別図柄表示装置 4 A と、第 2 特別図柄表示装置 4 B とが設けられている。第 1 特別図柄表示装置 4 A と第 2 特別図柄表示装置 4 B はそれぞれ、例えば 7 セグメントやドットマトリクス of LED（発光ダイオード）等から構成され、可変表示ゲームの一例となる特図ゲームにおいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報（特別識別情報）である特別図柄（「特図」ともいう）が、変動可能に表示（可変表示）される。例えば、第 1 特別図柄表示装置 4 A と第 2 特別図柄表示装置 4 B はそれぞれ、「0」～「9」を示す数字や「-」を示す記号、あるいは数字や記号に限定されない各セグメントの点灯パターン等から構成される複数種類の特別図柄を可変表示する。以下では、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。

【0021】

第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B により可変表示される複数種類の特別図柄には、それぞれを識別するための図柄番号が付されていればよい。一例として、「-」の記号を示す特別図柄には図柄番号として「0」が付されている他、複数種類の点灯パターンに対する図柄番号として「1」～「9」が付されていればよい。

【0022】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には、画像表示装置 5 が設けられている。画像表示装置 5 は、例えば LCD（液晶表示装置）等から構成され、各種の演出画像を表示する表示領域を形成している。画像表示装置 5 の画面上では、特図ゲームにおける第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図の可変表示や第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図の可変表示のそれぞれに対応して、例えば 3 つといった複数の可変表示部となる飾り図柄表示エリアにて、各々を識別可能な複数種類の識別情報（装飾識別情報）である飾り図柄が可変表示される。この飾り図柄の可変表示も、可変表示ゲームに含まれる。

【0023】

一例として、画像表示装置 5 の画面上には、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリアが配置されている。そして、特図ゲームにおいて第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図の変動と第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図の変動のうち、いずれかが開始されることに伴って、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリアにおいて飾り図柄の変動（例えば上下方向のスクロール表示）が開始される。その後、特図ゲームに

10

20

30

40

50

おける可変表示結果として確定特別図柄が停止表示されるときに、画像表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリアにて、飾り図柄の可変表示結果となる確定飾り図柄（最終停止図柄）が停止表示される。

【0024】

このように、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲーム、または、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームと同期して、各々が識別可能な複数種類の飾り図柄の可変表示を行い、可変表示結果となる確定飾り図柄を導出表示（あるいは単に「導出」ともいう）する。なお、例えば特別図柄や飾り図柄といった、各種の表示図柄を導出表示するとは、飾り図柄等の識別情報を停止表示（完全停止表示や最終停止表示ともいう）して可変表示を終了させることである。これに対して、飾り図柄の可変表示を開始してから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでの可変表示中には、飾り図柄の変動速度が「0」となって、飾り図柄が停留して表示され、例えば微少な揺れや伸縮などを生じさせる表示状態となることがある。このような表示状態は、仮停止表示ともいい、可変表示における表示結果が確定的に表示されていないものの、スクロール表示や更新表示による飾り図柄の変動が進行していないことを遊技者が認識可能となる。なお、仮停止表示には、微少な揺れや伸縮なども生じさせず、所定時間（例えば 1 秒間）よりも短い時間だけ、飾り図柄を完全停止表示することなどが含まれてもよい。

10

【0025】

画像表示装置 5 の画面上には、第 1 保留表示部 5 H L と、第 2 保留表示部 5 H R と、アクティブ表示部 A H A とが配置されている。第 1 保留表示部 5 H L は、第 1 特図保留記憶数を特定可能に表示する。第 1 特図保留記憶数は、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームに対応する可変表示の保留数である。第 2 保留表示部 5 H R は、第 2 特図保留記憶数を特定可能に表示する。第 2 特図保留記憶数は、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームに対応する可変表示の保留数である。特図ゲームに対応した可変表示の保留は、普通入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口や、普通可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を、遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生する。すなわち、特図ゲームや飾り図柄の可変表示といった可変表示ゲームを実行するための始動条件（「実行条件」ともいう）は成立したが、先に成立した開始条件に基づく可変表示ゲームが実行中であることやパチンコ遊技機 1 が大当り遊技状態に制御されていることなどにより、可変表示ゲームの開始を許容する開始条件が成立していないときに、成立した始動条件に対応する可変表示の保留が行われる。

20

30

【0026】

例えば、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）する第 1 始動入賞の発生により、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームの始動条件（第 1 始動条件）が成立したときに、当該第 1 始動条件の成立に基づく第 1 特図を用いた特図ゲームを開始するための第 1 開始条件が成立しなければ、第 1 特図保留記憶数が 1 加算（インクリメント）され、第 1 特図を用いた特図ゲームの実行が保留される。また、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）する第 2 始動入賞の発生により、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームの始動条件（第 2 始動条件）が成立したときに、当該第 2 始動条件の成立に基づく第 2 特図を用いた特図ゲームを開始するための第 2 開始条件が成立しなければ、第 2 特図保留記憶数が 1 加算（インクリメント）され、第 2 特図を用いた特図ゲームの実行が保留される。これに対して、第 1 特図を用いた特図ゲームの実行が開始されるときには、第 1 特図保留記憶数が 1 減算（デクリメント）され、第 2 特図を用いた特図ゲームの実行が開始されるときには、第 2 特図保留記憶数が 1 減算（デクリメント）される。なお、第 1 始動入賞が発生したときに、第 1 特図保留記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達していれば、第 1 始動条件は成立せず、その始動入賞に基づく特図ゲームは無効とされ、賞球の払出しのみが行われてもよい。また、第 2 始動入賞が発生したときに、第 2 特図保留記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達していれば、第 2 始動条件は成立せず、その始動入賞に基づく特図ゲームは無効とされ、賞球の払出しのみが行われて

40

50

もよい。

【 0 0 2 7 】

第 1 保留表示部 5 H L では、第 1 特図を用いた特図ゲームの保留記憶に対応する保留表示が行われる。第 2 保留表示部 5 H R では、第 2 特図を用いた特図ゲームの保留記憶に対応する保留表示が行われる。第 1 特図保留記憶数と第 2 特図保留記憶数とを加算した可変表示の保留記憶数は、特に、合計保留記憶数ともいう。単に「特図保留記憶数」というときには、通常、第 1 特図保留記憶数、第 2 特図保留記憶数及び合計保留記憶数のいずれも含む概念を指すが、特に、これらの一部（例えば第 1 特図保留記憶数と第 2 特図保留記憶数を含む一方で合計保留記憶数は除く概念）を指すこともあるものとする。

【 0 0 2 8 】

第 1 保留表示部 5 H L は、例えば右詰めで第 1 保留表示が行われるように構成されていればよい。第 1 保留表示部 5 H L には、第 1 特図保留記憶数の上限値である「 4 」にあわせた 4 つの表示部位が設けられ、右端から順に保留番号「 1 」、「 2 」、「 3 」、「 4 」と対応付けられていればよい。第 1 始動条件の成立により第 1 特図を用いた特図ゲームの保留数が増加したときには、第 1 保留表示部 5 H L に他の第 1 保留表示がなければ、第 1 保留表示部 5 H L において保留番号「 1 」に対応した右端の表示部位にて、増加分の第 1 特図保留記憶数に対応する保留表示として、新たな第 1 保留表示を追加する。第 1 保留表示部 5 H L に他の第 1 保留表示があれば、新たな第 1 保留表示を、他の第 1 保留表示が行われている表示部位の左隣にて非表示となっている表示部位（保留番号「 2 」～「 4 」のいずれかに対応）に追加する。第 1 保留表示部 5 H L に複数の第 1 保留表示がある場合に、新たな第 1 開始条件の成立により第 1 特図を用いた特図ゲームが開始されるときには、第 1 保留表示部 5 H L において保留番号「 1 」に対応した右端の表示部位における第 1 保留表示を消去（消化）するとともに、他の保留番号「 2 」～「 4 」に対応した表示部位における第 1 保留表示のそれぞれを、消去した表示部位の方向（右側）に移動（シフト）させる。

【 0 0 2 9 】

第 2 保留表示部 5 H R は、例えば左詰めで第 2 保留表示が行われるように構成されていればよい。第 2 保留表示部 5 H R には、第 2 特図保留記憶数の上限値である「 4 」にあわせた 4 つの表示部位が設けられ、左端から順に保留番号「 1 」、「 2 」、「 3 」、「 4 」と対応付けられていればよい。第 2 始動条件の成立により第 2 特図を用いた特図ゲームの保留数が増加したときには、第 2 保留表示部 5 H R に他の第 2 保留表示がなければ、第 2 保留表示部 5 H R において保留番号「 1 」に対応した左端の表示部位にて、増加分の第 2 特図保留記憶数に対応する保留表示として、新たな第 2 保留表示を追加する。第 2 保留表示部 5 H R に他の第 2 保留表示があれば、新たな第 2 保留表示を、他の第 2 保留表示が行われている表示部位の右隣にて非表示となっている表示部位（保留番号「 2 」～「 4 」のいずれかに対応）に追加する。第 2 保留表示部 5 H R に複数の第 2 保留表示がある場合に、新たな第 2 開始条件の成立により第 2 特図を用いた特図ゲームが開始されるときには、第 2 保留表示部 5 H R において保留番号「 1 」に対応した左端の表示部位における第 2 保留表示を消去（消化）するとともに、他の保留番号「 2 」～「 4 」に対応した表示部位における第 2 保留表示のそれぞれを、消去した表示部位の方向（左側）に移動（シフト）させる。なお、低ベース制御状態においては、第 2 保留表示部 5 H R を非表示とし、高ベース制御状態においては、第 1 保留表示部 5 H L を非表示としてもよい。また、所定のリーチ演出の大当り演出などを実行する際に、アクティブ表示部 A H A、第 1 保留表示部 5 H L 及び第 2 保留表示部 5 H R を非表示としてもよい。

【 0 0 3 0 】

アクティブ表示部 A H A は、実行中の可変表示に対応して、保留表示と同一の演出画像または異なる演出画像を表示する。アクティブ表示部 A H A における表示は、アクティブ表示（可変表示対応表示、消化時表示あるいは今回表示などともいう）と称する。アクティブ表示部 A H A では、例えば第 1 開始条件の成立により第 1 特図を用いた特図ゲームが開始されることに伴って、第 1 保留表示部 5 H L にて消去（消化）された第 1 保留表示

10

20

30

40

50

に応じたアクティブ表示が行われる。また、アクティブ表示部 A H A では、例えば第 2 開始条件の成立により第 2 特図を用いた特図ゲームが開始されることに伴って、第 2 保留記憶部 5 H L にて消去（消化）された第 2 保留表示に応じたアクティブ表示が行われる。なお、第 1 保留表示や第 2 保留表示とアクティブ表示とは、色彩や模様が共通するものであればよく、例えばアクティブ表示は第 1 保留表示や第 2 保留表示よりも大きく表示されるものであってもよい。ただし、この実施の形態におけるアクティブ表示の表示態様は、アクティブ表示変化演出が実行されることにより、第 1 保留表示や第 2 保留表示の表示態様とは異なる表示態様に変化する場合がある。

【0031】

図 1 に示された画像表示装置 5 の表示領域には、第 1 保留表示部 5 H L と第 2 保留表示部 5 H R との間にアクティブ表示部 A H A が配置されている。これに対し、アクティブ表示部 A H A は、第 1 保留表示部 5 H L と第 2 保留表示部 5 H R との間に配置されるものに限定されず、画像表示装置 5 の表示領域における任意の位置に配置されていればよい。また、第 1 保留表示部 5 H L や第 2 保留表示部 5 H R の配置も任意に変更可能であり、例えば第 1 保留表示部 5 H L と第 2 保留表示部 5 H R とを入れ替えて配置したものでよい。

【0032】

第 1 保留表示部 5 H L や第 2 保留表示部 5 H R とともに、あるいは第 1 保留表示部 5 H L や第 2 保留表示部 5 H R に代えて、特図保留記憶数を表示する表示器を設けるようにしてもよい。図 1 に示す例では、第 1 保留表示部 5 H L や第 2 保留表示部 5 H R とともに、第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B の上部に、特図保留記憶数を特定可能に表示するための第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とが設けられている。第 1 保留表示器 2 5 A は、第 1 特図保留記憶数を特定可能に表示する。第 2 保留表示器 2 5 B は、第 2 特図保留記憶数を特定可能に表示する。第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B はそれぞれ、例えば第 1 特図保留記憶数と第 2 特図保留記憶数のそれぞれにおける上限値（例えば「4」）に対応した個数（例えば 4 個）の LED を含んで構成されている。

【0033】

画像表示装置 5 の下方には、普通入賞球装置 6 A と、普通可変入賞球装置 6 B とが設けられている。普通入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる始動領域（第 1 始動領域）としての第 1 始動入賞口を形成する。普通可変入賞球装置 6 B は、図 2 に示す普通電動役物用のソレノイド 8 1 によって垂直位置となる閉鎖状態と傾動位置となる開放状態とに変化する一対の可動翼片を有する電動チューリップ型役物（普通電動役物）を備え、第 2 始動入賞口を形成する。一例として、普通可変入賞球装置 6 B は、普通電動役物用のソレノイド 8 1 のオン状態・オフ状態の変化によって、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）可能な開放状態または拡大開放状態といった第 1 可変状態と、遊技球が通過（進入）不可能な閉鎖状態または通過（進入）困難な通常開放状態といった第 2 可変状態とに、変化できるように構成されている。

【0034】

普通入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口に進入した遊技球は、例えば図 2 に示す第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって検出される。普通可変入賞球装置 6 B に形成された第 2 始動入賞口に進入した遊技球は、例えば図 2 に示す第 2 始動口スイッチ 2 2 B によって検出される。第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって遊技球が検出されたことに基づき、所定個数（例えば 3 個）の遊技球が賞球（景品遊技媒体）として払い出され、第 1 保留記憶数が所定の上限値（例えば「4」）以下であれば、第 1 始動条件が成立する。第 2 始動口スイッチ 2 2 B によって遊技球が検出されたことに基づき、所定個数（例えば 3 個）の遊技球が賞球として払い出され、第 2 保留記憶数が所定の上限値以下であれば、第 2 始動条件が成立する。

【0035】

なお、第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって遊技球が検出されたことに基づいて払い出される賞球の個数と、第 2 始動口スイッチ 2 2 B によって遊技球が検出されたことに基づい

10

20

30

40

50

て払い出される賞球の個数は、互いに同一の個数であってもよいし、異なる個数であってもよい。パチンコ遊技機 1 は、賞球となる遊技球を直接に払い出すものであってもよいし、賞球となる遊技球の個数に対応した得点を付与するものであってもよい。

【0036】

普通入賞球装置 6 A と普通可変入賞球装置 6 B の下方には、特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、図 2 に示す大入賞口扉用となるソレノイド 8 2 によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。一例として、特別可変入賞球装置 7 の特定領域としての大入賞口は、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 のオン状態・オフ状態の変化によって、遊技球が通過（進入）しやすく遊技者にとって有利な開放状態と、遊技球が通過（進入）できず遊技者にとって不利な閉鎖状態とに変化する。なお、遊技球が大入賞口を通過（進入）できない閉鎖状態に代えて、あるいは閉鎖状態の他に、遊技球が大入賞口を通過（進入）しにくい一部開放状態を設けてもよい。

10

【0037】

大入賞口を通過（進入）した遊技球は、例えば図 2 に示すカウントスイッチ 2 3 によって検出される。カウントスイッチ 2 3 によって遊技球が検出されたことに基づき、所定個数（例えば 1 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。こうして、特別可変入賞球装置 7 において開放状態となった大入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口といった、他の入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出される。したがって、特別可変入賞球装置 7 において大入賞口が開放状態となれば、その大入賞口に遊技球が進入可能となり、遊技者にとって有利な第 1 状態となる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 において大入賞口が閉鎖状態となれば、大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることが不可能または困難になり、遊技者にとって不利な第 2 状態となる。

20

【0038】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左側方）には、普通図柄表示器 2 0 が設けられている。一例として、普通図柄表示器 2 0 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B と同様に 7 セグメントやドットマトリクス of LED 等から構成され、特別図柄とは異なる複数種類の識別情報である普通図柄（「普図」あるいは「普通図」ともいう）を変動可能に表示（可変表示）する。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲーム（「普通図ゲーム」ともいう）と称される。普通図柄表示器 2 0 の上方には、普図保留表示器 2 5 C が設けられている。普図保留表示器 2 5 C は、例えば 4 個の LED を含んで構成され、通過ゲート 4 1 を通過した有効通過球数としての普図保留記憶数を表示する。

30

【0039】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。また、第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口及び大入賞口とは異なる入賞口として、例えば所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれ所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球を賞球として払い出すための単一または複数の一般入賞口が設けられてもよい。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

40

【0040】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果ランプ 9 が設けられている。パチンコ遊技機 1 の遊技領域における各構造物（例えば普通入賞球装置 6 A、普通可変入賞球装置 6 B、特別可変入賞球装置 7 等）の周囲には、装飾用 LED が配置されていてもよい。遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技媒体としての遊技球を遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）が設けられている。例えば、打球操作ハンドルは、遊技者等による操作量（回転量）に応じて遊技球の弾発力を調整する。

50

【 0 0 4 1 】

そのほかに、遊技機用枠 3 には、上皿（打球供給皿）と、下皿と、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ 3 1 A と、プッシュボタン 3 1 B とが設けられている。スティックコントローラ 3 1 A は、遊技者が把持する操作桿を含み、操作桿の所定位置（例えば遊技者が操作桿を把持したときに操作手の人差し指が掛かる位置など）には、トリガボタンが設けられている。また、遊技者によるスティックコントローラ 3 1 A の操作は、コントローラセンサユニット 3 5 A によって検知される。プッシュボタン 3 1 B は、遊技者からの押下操作などによる所定の指示操作を、機械的、電氣的、あるいは、電磁的に、検出できるように構成されていけばよい。プッシュボタン 3 1 B の設置位置における上皿の本体内部などには、プッシュボタン 3 1 B に対してなされた遊技者の操作行為を検知するプッシュセンサ 3 5 B が設けられていけばよい。

10

【 0 0 4 2 】

パチンコ遊技機 1 には、例えば図 2 に示すような主基板 1 1、演出制御基板 1 2、音声制御基板 1 3、ランプ制御基板 1 4 といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機 1 には、主基板 1 1 と演出制御基板 1 2 との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板 1 5 なども搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機 1 における遊技盤などの背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、インタフェース基板、タッチセンサ基板などといった、各種の基板が配置されている。

【 0 0 4 3 】

主基板 1 1 は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板 1 1 は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板 1 2 などからなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能などを備えている。また、主基板 1 1 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A と第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する各 LED（例えばセグメント LED）などの点灯 / 消灯制御を行って第 1 特図や第 2 特図の可変表示を制御することや、普通図柄表示器 2 0 の点灯 / 消灯 / 発色制御などを行って普通図柄表示器 2 0 による普通図柄の可変表示を制御することといった、所定の表示図柄の可変表示を制御する機能も備えている。

20

【 0 0 4 4 】

主基板 1 1 には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 やスイッチ回路 1 1 0、ソレノイド回路 1 1 1 などが搭載されている。スイッチ回路 1 1 0 は、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に伝送する。ソレノイド回路 1 1 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 からのソレノイド駆動信号を、普通電動役物用のソレノイド 8 1 や大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に伝送する。

30

【 0 0 4 5 】

演出制御基板 1 2 は、主基板 1 1 とは独立したサブ側の制御基板であり、中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から伝送された制御信号を受信して、画像表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R 及び遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED といった演出用の電気部品による演出動作を制御するための各種回路が搭載されている。すなわち、演出制御基板 1 2 は、画像表示装置 5 における表示動作や、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力動作の全部または一部、遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED などにおける点灯 / 消灯動作の全部または一部といった、演出用の電気部品に所定の演出動作を実行させるための制御内容を決定する機能を備えている。

40

【 0 0 4 6 】

音声制御基板 1 3 は、演出制御基板 1 2 とは別個に設けられた音声出力制御用の制御基板であり、演出制御基板 1 2 からの指令や制御データなどにに基づき、スピーカ 8 L、8 R から音声を出力させるための音声信号処理を実行する処理回路などが搭載されている。ランプ制御基板 1 4 は、演出制御基板 1 2 とは別個に設けられたランプ出力制御用の制御基

50

板であり、演出制御基板 1 2 からの指令や制御データなどに基づき、遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED などにおける点灯 / 消灯駆動を行うランプドライバ回路などが搭載されている。

【 0 0 4 7 】

図 2 に示すように、主基板 1 1 には、ゲートスイッチ 2 1、始動口スイッチ（第 1 始動口スイッチ 2 2 A および第 2 始動口スイッチ 2 2 B）、カウントスイッチ 2 3 といった、各種スイッチからの検出信号を伝送する配線が接続されている。なお、各種スイッチは、例えばセンサと称されるものなどのように、遊技媒体としての遊技球を検出できる任意の構成を有するものであればよい。また、主基板 1 1 には、第 1 特別図柄表示装置 4 A、第 2 特別図柄表示装置 4 B、普通図柄表示器 2 0 などの表示制御を行うための指令信号を伝送する配線が接続されている。

10

【 0 0 4 8 】

主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に向けて伝送される制御信号は、中継基板 1 5 によって中継される。中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置 5 における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED の点灯動作などを制御するために用いられるランプ制御コマンドが含まれている。これらの演出制御コマンドはいずれも、例えば 2 バイト構成であり、1 バイト目は MODE（コマンドの分類）を示し、2 バイト目は EXT（コマンドの種類）を表す。MODE データの先頭ビット（ビット 7）は必ず「1」となり、EXT データの先頭ビットは「0」となるように、予め設定されていけばよい。

20

【 0 0 4 9 】

主基板 1 1 に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、例えば 1 チップのマイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶する ROM（Read Only Memory）1 0 1 と、遊技制御用のワークエリアを提供する RAM（Random Access Memory）1 0 2 と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行う CPU（Central Processing Unit）1 0 3 と、CPU 1 0 3 とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路 1 0 4 と、I / O（Input/Output port）1 0 5 とを備えて構成される。

30

【 0 0 5 0 】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 では、CPU 1 0 3 が ROM 1 0 1 から読み出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU 1 0 3 が ROM 1 0 1 から固定データを読み出す固定データ読出動作や、CPU 1 0 3 が RAM 1 0 2 に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU 1 0 3 が RAM 1 0 2 に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、CPU 1 0 3 が I / O 1 0 5 を介して遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の外部から各種信号の入力を受け付ける受信動作、CPU 1 0 3 が I / O 1 0 5 を介して遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の外部へと各種信号を出力する送信動作なども行われる。

40

【 0 0 5 1 】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 を構成する 1 チップのマイクロコンピュータは、少なくとも CPU 1 0 3 の他に RAM 1 0 2 が内蔵されていけばよく、ROM 1 0 1 や乱数回路 1 0 4、I / O 1 0 5 などは外付けされてもよい。

【 0 0 5 2 】

遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 では、例えば乱数回路 1 0 4 などにより、遊技の進行を制御するために用いられる各種の乱数値を示す数値データが更新可能にカウントされる。遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。遊技用乱数は、乱数回路 1 0 4 などのハードウェアによって更新されるものであってもよいし、遊

50

技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することでソフトウェアによって更新されるものであってもよい。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM102の所定領域(遊技制御カウンタ設定部など)に設けられたランダムカウンタや、RAM102とは別個の内部レジスタに設けられたランダムカウンタに、所定の乱数値を示す数値データを格納し、CPU103が定期的または不定期的に格納値を更新することで、乱数値の更新が行われるようにしてもよい。

【0053】

遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるROM101には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種の選択用データ、テーブルデータなどが格納されている。例えば、ROM101には、CPU103が各種の判定や決定、設定を行うために用意された複数の判定テーブルや決定テーブル、設定テーブルなどを構成するデータが記憶されている。また、ROM101には、CPU103が主基板11から各種の制御コマンドとなる制御信号を送信するために用いられる複数のコマンドテーブルを構成するテーブルデータや、変動パターンを複数種類格納する変動パターンテーブルを構成するテーブルデータなどが、記憶されている。遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102には、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するために用いられる各種データが書換可能に一時記憶される。

10

【0054】

演出制御基板12には、プログラムに従って制御動作を行う演出制御用CPU120と、演出制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM121と、演出制御用CPU120のワークエリアを提供するRAM122と、画像表示装置5における表示動作の制御内容を決定するための処理などを実行する表示制御部123と、演出制御用CPU120とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

20

【0055】

一例として、演出制御基板12では、演出制御用CPU120がROM121から読み出した演出制御用のプログラムを実行することにより、演出用の電気部品による演出動作を制御するための処理が実行される。このときには、演出制御用CPU120がROM121から固定データを読み出す固定データ読出動作や、演出制御用CPU120がRAM122に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、演出制御用CPU120がRAM122に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、演出制御用CPU120がI/O125を介して演出制御基板12の外部から各種信号の入力を受け付ける受信動作、演出制御用CPU120がI/O125を介して演出制御基板12の外部へと各種信号を出力する送信動作なども行われる。

30

【0056】

演出制御用CPU120、ROM121、RAM122は、演出制御基板12に搭載された1チップの演出制御用マイクロコンピュータに含まれてもよい。演出制御基板12には、画像表示装置5に対して映像信号を伝送するための配線や、音声制御基板13に対して音番号データを示す情報信号としての効果音信号を伝送するための配線、ランプ制御基板14に対してランプデータを示す情報信号としての電飾信号を伝送するための配線などが接続されている。さらに、演出制御基板12には、スティックコントローラ31Aに対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号としての操作検出信号を、コントローラセンサユニット35Aから伝送するための配線や、プッシュボタン31Bに対する遊技者の操作行為を検出したことを示す情報信号としての操作検出信号を、プッシュセンサ35Bから伝送するための配線も接続されている。

40

【0057】

演出制御基板12では、例えば乱数回路124やRAM122の所定領域に設けられた演出用ランダムカウンタなどにより、演出動作を制御するために用いられる各種の乱数値を示す数値データが更新可能にカウントされる。こうした演出動作を制御するために用い

50

られる乱数は、演出用乱数ともいう。一例として、演出制御基板 1 2 の側では、飾り図柄の可変表示における停止図柄決定用の乱数値や、予告演出決定用の乱数値といった、各種の演出決定用の乱数値を示す数値データがカウント可能に制御される。

【 0 0 5 8 】

図 2 に示す演出制御基板 1 2 に搭載された R O M 1 2 1 には、演出制御用のプログラムの他にも、演出動作を制御するために用いられる各種のデータテーブルなどが格納されている。例えば、R O M 1 2 1 には、演出制御用 C P U 1 2 0 が各種の判定や決定、設定を行うために用意された複数の判定テーブルや決定テーブルを構成するテーブルデータ、各種の演出制御パターンを構成するパターンデータなどが記憶されている。演出制御パターンは、例えば演出制御プロセスタイマ判定値と対応付けられた演出制御実行データ（表示制御データ、音声制御データ、ランプ制御データ、操作検出制御データなど）や終了コードなどを含んだプロセスデータから構成されている。演出制御基板 1 2 に搭載された R A M 1 2 2 には、演出動作を制御するために用いられる各種データが記憶される。

10

【 0 0 5 9 】

演出制御基板 1 2 に搭載された表示制御部 1 2 3 は、演出制御用 C P U 1 2 0 からの表示制御指令などに基づき、画像表示装置 5 における表示動作の制御内容を決定する。例えば、表示制御部 1 2 3 は、画像表示装置 5 の表示画面内に表示させる演出画像の切替タイミングを決定することなどにより、飾り図柄の可変表示や各種の演出表示を実行させるための制御を行う。一例として、表示制御部 1 2 3 には、V D P (Video Display Processor)、C G R O M (Character Generator ROM)、V R A M (Video RAM)、L C D 駆動回路などが搭載されていればよい。なお、V D P は、G P U (Graphics Processing Unit)、G C L (Graphics Controller LSI)、あるいは、より一般的に D S P (Digital Signal Processor) と称される画像処理用のマイクロプロセッサであってもよい。C G R O M は、例えば書換不能な半導体メモリであってもよいし、フラッシュメモリなどの書換可能な半導体メモリであってもよく、あるいは、磁気メモリ、光学メモリといった、不揮発性記録媒体のいずれかを用いて構成されたものであればよい。

20

【 0 0 6 0 】

演出制御基板 1 2 に搭載された I / O 1 2 5 は、例えば主基板 1 1 などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、演出制御基板 1 2 の外部へと各種信号を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。例えば、I / O 1 2 5 の出力ポートからは、画像表示装置 5 へと伝送される映像信号や、音声制御基板 1 3 へと伝送される指令（効果音信号）、ランプ制御基板 1 4 へと伝送される指令（電飾信号）などが出力される。

30

【 0 0 6 1 】

パチンコ遊技機 1 においては、遊技媒体としての遊技球を用いた所定の遊技が行われ、その遊技結果に基づいて所定の遊技価値が付与可能となる。遊技球を用いた遊技の一例として、パチンコ遊技機 1 における筐体前面の右下方に設置された打球操作ハンドルが遊技者によって所定操作（例えば回転操作）されたことに基づいて、所定の打球発射装置が備える発射モータなどにより、遊技媒体としての遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技領域を流下した遊技球が、普通入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口（第 1 始動領域）を通過（進入）すると、図 2 に示す第 1 始動口スイッチ 2 2 A によって遊技球が検出されたことなどにより第 1 始動条件が成立する。その後、例えば前回の特図ゲームや大当り遊技状態が終了したことなどにより第 1 開始条件が成立したことに基づいて、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームが開始される。

40

【 0 0 6 2 】

また、遊技球が普通可変入賞球装置 6 B に形成された第 2 始動入賞口（第 2 始動領域）を通過（進入）すると、図 2 に示す第 2 始動口スイッチ 2 2 B によって遊技球が検出されたことなどにより第 2 始動条件が成立する。その後、例えば前回の特図ゲームや大当り遊技状態が終了したことなどにより第 2 開始条件が成立したことに基づいて、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームが開始される。ただし、普通可変入賞球

50

装置 6 B が第 2 可変状態としての通常開放状態や閉鎖状態であるときには、第 2 始動入賞口を遊技球が通過困難または通過不可能である。

【 0 0 6 3 】

通過ゲート 4 1 を通過した遊技球が図 2 に示すゲートスイッチ 2 1 によって検出されたことに基づいて、普通図柄表示器 2 0 にて普通図柄の可変表示を実行するための普通図柄始動条件が成立する。その後、例えば前回の普通図柄ゲームが終了したことといった、普通図柄の可変表示を開始するための普通図柄開始条件が成立したことに基づいて、普通図柄表示器 2 0 による普通図柄ゲームを開始される。この普通図柄ゲームでは、普通図柄の変動を開始させた後、所定時間が経過すると、普通図柄の可変表示結果となる確定普通図柄を停止表示（導出表示）する。このとき、確定普通図柄として特定の普通図柄（普通図柄当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の可変表示結果が「普通図柄当り」となる。その一方、確定普通図柄として普通図柄当り図柄以外の普通図柄が停止表示されれば、普通図柄の可変表示結果が「普通図柄ハズレ」となる。普通図柄の可変表示結果が「普通図柄当り」となったことに対応して、普通可変入賞球装置 6 B を構成する電動チューリップの可動翼片が傾動位置となる開放制御や拡大開放制御が行われ、所定時間が経過すると垂直位置に戻る閉鎖制御や通常開放制御が行われる。

10

【 0 0 6 4 】

第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームが開始されるときや、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームが開始されるときには、特別図柄の可変表示結果を、予め定められた特定表示結果としての「大当り」にするか否かが、その可変表示結果を導出表示する以前に決定（事前決定）される。そして、可変表示結果の決定に基づく所定割合で、変動パターンの決定などが行われ、可変表示結果や変動パターンを指定する演出制御コマンドが、図 2 に示す主基板 1 1 の遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から演出制御基板 1 2 に向けて伝送される。

20

【 0 0 6 5 】

こうした可変表示結果や変動パターンの決定に基づいて特図ゲームが開始された後、例えば変動パターンに対応して予め定められた可変表示時間が経過したときには、可変表示結果となる確定特別図柄が導出表示される。第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B による特別図柄の可変表示に対応して、画像表示装置 5 の画面上に配置された「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R では、特別図柄とは異なる飾り図柄（演出図柄）の可変表示が行われる。「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R で可変表示される飾り図柄は、それぞれ左図柄、中図柄、右図柄ともいう。第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームや、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームにおいて、特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄が導出表示されるときには、画像表示装置 5 において飾り図柄の可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示される。

30

【 0 0 6 6 】

特別図柄の可変表示結果として予め定められた大当り図柄が導出表示されたときには、可変表示結果（特図表示結果）が「大当り」（特定表示結果）となり、遊技者にとって有利な特定遊技状態としての大当り遊技状態に制御される。すなわち、大当り遊技状態に制御されるか否かは、可変表示結果が「大当り」となるか否かに対応しており、その可変表示結果を導出表示する以前に決定（事前決定）される。特別図柄の可変表示結果として、大当り図柄が導出表示されず、ハズレ図柄が導出表示されたときには、可変表示結果（特図表示結果）が「ハズレ」（非特定表示結果）となる。

40

【 0 0 6 7 】

第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B に大当り図柄が停止表示（導出）されて可変表示結果が「大当り」となる場合には、画像表示装置 5 の表示領域において、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出表示される。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における所定の有効ライン上に同一の飾り図柄が揃って停止表示されることにより、大当り組合せとなる確定飾り

50

図柄が導出表示されればよい。

【 0 0 6 8 】

大当り遊技状態では、大入賞口が開放状態となって特別可変入賞球装置 7 が遊技者にとって有利な第 1 状態となる。そして、所定の開放上限時間（例えば 29.5 秒間または 0.1 秒間）が経過するまでの期間、あるいは所定個数（例えば 9 個）の遊技球が大入賞口に進入して入賞球が発生するまでの期間にて、大入賞口を継続して開放状態とするラウンド遊技（単に「ラウンド」ともいう）が実行される。こうしたラウンド遊技の実行期間以外の期間では、大入賞口が閉鎖状態となり、入賞球が発生困難または発生不可能となる。大入賞口に遊技球が進入したときには、カウントスイッチ 23 により入賞球が検出され、その検出ごとに所定個数（例えば 15 個）の遊技球が賞球として払い出される。大当り遊技状態におけるラウンド遊技は、所定の上限回数（例えば「2」または「15」など）に達するまで繰返し実行される。

10

【 0 0 6 9 】

可変表示結果が「大当り」となる場合には、大当り種別が「非確変」、「確変」、「突確」のいずれかとなる場合が含まれていればよい。大当り種別が「非確変」または「確変」となった場合には、大当り遊技状態におけるラウンド遊技として、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態（大入賞口を開放状態）とする上限時間が比較的長い時間（例えば 29.5 秒間など）となる通常開放ラウンドが実行される。一方、大当り種別が「突確」となった場合には、大当り遊技状態におけるラウンド遊技として、特別可変入賞球装置 7 を第 1 状態（大入賞口を開放状態）とする上限時間が比較的短い時間（例えば 0.1 秒間など）となる短期開放ラウンドが実行される。通常開放ラウンドが実行される大当り遊技状態は、第 1 特定遊技状態ともいう。短期開放ラウンドが実行される大当り遊技状態は、第 2 特定遊技状態ともいう。

20

【 0 0 7 0 】

大当り種別が「突確」である場合の大当り遊技状態では、短期開放ラウンドにて特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させる上限時間（大入賞口扉により大入賞口を開放状態とする期間の上限）が、通常開放ラウンドにおける第 1 期間よりも短い第 2 期間（例えば 0.1 秒間）となる。なお、短期開放ラウンドにて大入賞口の開放期間が第 2 期間となるように制御される以外は、通常開放ラウンドが実行される場合と同様の制御が行われるようにしてもよい。あるいは、短期開放ラウンドが実行される場合には、ラウンド遊技の実行回数が、通常開放ラウンドの実行回数である第 1 ラウンド数（例えば「15」）よりも少ない第 2 ラウンド数（例えば「2」）となるようにしてもよい。すなわち、短期開放ラウンドが実行される大当り遊技状態は、通常開放ラウンドが実行される大当り遊技状態に比べて、各ラウンド遊技にて大入賞口を遊技球が通過（進入）しやすい第 1 状態に変化させる期間が第 1 期間よりも短い第 2 期間となることと、ラウンド遊技の実行回数が第 1 ラウンド数よりも少ない第 2 ラウンド数となることのうち、少なくともいずれか一方となるものであればよい。

30

【 0 0 7 1 】

このような短期開放ラウンドが実行される場合には、大入賞口に遊技球が入賞すれば所定個数（例えば 15 個）の出玉（賞球）が得られる。しかし、大入賞口の開放期間が第 2 期間（0.1 秒間など）であることなどにより、実質的には出玉（賞球）が得られない大当り遊技状態となる。したがって、大当り種別が「突確」となったことに基づく大当り遊技状態（第 2 特定遊技状態）は、大当り種別が「非確変」または「確変」となったことに基づく大当り遊技状態（第 1 特定遊技状態）よりも、遊技者にとって不利な遊技状態となる。こうして、大当り種別が「非確変」または「確変」となったことに基づいて、通常開放ラウンドが実行される大当り遊技状態となった場合には、大入賞口を遊技球が通過しやすい第 1 変化態様で、特別可変入賞球装置 7 を第 1 状態（開放状態）と第 2 状態（閉鎖状態）とに変化させる制御が行われる。一方、大当り種別が「突確」となったことに基づいて、短期開放ラウンドが実行される大当り遊技状態となった場合には、大入賞口を遊技球が通過しにくい第 2 変化態様で、特別可変入賞球装置 7 を第 1 状態（開放状態）と第 2 状

40

50

態（閉鎖状態）とに変化させる制御が行われる。

【0072】

大当り遊技状態が終了した後は、所定の確変制御条件が成立したことに基づいて、可変表示結果が「大当り」となる確率（大当り確率）が通常状態よりも高くなる確変状態に制御されることがある。確変状態は、所定回数（例えば200回）の可変表示が実行されること、または可変表示の実行回数が所定回数に達する以前に大当り遊技状態が開始されることなど、所定の確変終了条件が成立するまで継続するように制御される。なお、確変終了条件は、可変表示の実行回数にかかわらず、次回の大当り遊技状態が開始されるときに成立するようにしてもよい。大当り遊技状態が終了した後は、平均的な可変表示時間が通常状態よりも短くなる時短状態に制御されることがある。時短状態は、所定回数（例えば100回）の可変表示が実行されたこと、または可変表示の実行回数が所定回数に達する以前に大当り遊技状態が開始されることなど、所定の時短終了条件が成立するまで継続するように制御される。一例として、大当り種別が「非確変」である場合に大当り遊技状態が終了した後は、遊技状態が時短状態となる。一方、大当り種別が「確変」または「突確」である場合に大当り遊技状態が終了した後は、遊技状態が確変状態となる。

10

【0073】

確変状態や時短状態では、通常状態よりも第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）しやすい有利変化態様で、普通可変入賞球装置6Bを第1可変状態（開放状態または拡大開放状態）と第2可変状態（閉鎖状態または通常開放状態）とに変化させる。例えば、普通図柄表示器20による普図ゲームにおける普通図柄の変動時間（普図変動時間）を通常状態のときよりも短くする制御や、各回の普図ゲームで普通図柄の可変表示結果が「普図当り」となる確率を通常状態のときよりも向上させる制御、可変表示結果が「普図当り」となったことに基づく普通可変入賞球装置6Bにおける可動翼片の傾動制御を行う傾動制御時間を通常状態のときよりも長くする制御、その傾動回数を通常状態のときよりも増加させる制御により、普通可変入賞球装置6Bを有利変化態様で第1可変状態と第2可変状態とに変化させればよい。なお、これらの制御のいずれか1つが行われるようにしてもよいし、複数の制御が組み合わされて行われるようにしてもよい。このように、普通可変入賞球装置6Bを有利変化態様で第1可変状態と第2可変状態とに変化させる制御は、高開放制御（「高ペース制御」ともいう）と称される。こうした確変状態や時短状態に制御されることにより、次に可変表示結果が「大当り」となるまでの所要時間が短縮され、通常状態よりも遊技者にとって有利な特別遊技状態となる。なお、確変状態にて確変制御が行われるときでも、高開放制御が行われない場合があってもよい。

20

30

【0074】

画像表示装置5において、最終停止図柄（例えば左図柄、中図柄、右図柄のうちの中図柄）となる図柄以外の飾り図柄が、所定時間継続して大当り組合せと一致している状態で停止、揺動、拡大縮小もしくは変形している状態、または、複数の飾り図柄が同一図柄で同期して変動したり、表示位置が入れ替わっていたりして、最終結果が表示される前で大当り発生の可能性が継続している状態（以下、これらの状態をリーチ状態という。）において行われる演出を、リーチ演出という。リーチ演出として、画像表示装置5の画面上に飾り図柄とは異なるキャラクタ画像（人物等を模した演出画像）を表示させることや、背景画像の表示態様を変化させること、飾り図柄とは異なる動画像を再生表示させることといった、飾り図柄の変動態様を変化させることとは異なる演出動作が実行されてもよい。画像表示装置5における表示動作のみならず、スピーカ8L、8Rによる音声出力動作や、遊技効果ランプ9などの発光体における点灯動作（点滅動作）などを、リーチ態様となる以前の動作態様とは異なる動作態様とすることが、リーチ演出に含まれていてもよい。リーチ状態やその様子をリーチ態様という。さらに、リーチ演出を含む可変表示をリーチ可変表示という。そして、画像表示装置5の画面上で変動表示される図柄の表示結果が大当り組合せでない場合には「ハズレ」となり、変動表示状態は終了する。

40

【0075】

リーチ演出における演出動作としては、互いに動作態様（演出態様）が異なる複数種類

50

の演出パターン（リーチパターンともいう）が、予め用意されていればよい。そして、それぞれのリーチ演出における演出態様に応じて、「大当り」となる可能性（信頼度、あるいは大当り信頼度ともいう）が異なる。すなわち、複数種類のリーチ演出のいずれが実行されるかに応じて、可変表示結果が「大当り」となる可能性を異ならせることができる。この実施の形態では、一例として、ノーマルのリーチ演出（ノーマルリーチ）とスーパーのリーチ演出（スーパーリーチ）が予め設定されている。そして、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行された場合には、ノーマルリーチにおけるリーチ演出が実行された場合に比べて、可変表示結果が「大当り」となる可能性（大当り期待度）が高くなる。なお、スーパーリーチとなるリーチ演出には、他のスーパーリーチに比べて大当り期待度が高くなる特定のリーチ演出を実行するスーパーリーチを含む複数種類のリーチ演出があってもよい。

10

【0076】

飾り図柄の可変表示中には、リーチ演出とは異なり、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性があることや、可変表示結果が「大当り」となる可能性があることなどを、飾り図柄の可変表示態様などにより遊技者に報知するための可変表示演出が実行されることがある。一例として、飾り図柄の可変表示中には「擬似連」の可変表示演出が実行可能であればよい。「擬似連」の可変表示演出は、主基板11の側で変動パターンが決定されることなどに対応して実行するか否かが決定されればよい。

【0077】

「擬似連」の可変表示演出では、特図ゲームの開始条件が1回成立したことに伴って、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄（最終停止図柄）が導出表示されるまでに一旦仮停止させた後、再び変動（擬似連変動）させる演出表示を、所定回（例えば最大3回）まで行うことができる。擬似連変動の回数は、飾り図柄の可変表示が開始されてから全部の飾り図柄が最初に一旦仮停止するまでの初回変動を除く、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける全部にて飾り図柄が再変動する回数であればよい。

20

【0078】

「擬似連」の可変表示演出では、一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにて、特殊組合せの擬似連チャンス目として予め定められた複数種類のハズレ組合せのいずれかとなる飾り図柄が仮停止表示される。「擬似連」の可変表示演出において初回変動を含む複数回の変動表示に伴って、再変動演出となる画像表示などの所定演出が実行されてもよい。なお、再変動演出は、画像表示装置5の画面上にて画像表示を行うことによるものに限定されず、各種の演出装置を用いた任意の演出動作を含んでいてもよい。

30

【0079】

画像表示とは異なる再変動演出の一例として、「擬似連」の可変表示演出による各変動表示（初回変動を含む）の期間中に、遊技領域の内部または外部に設けられた複数の装飾用LEDのうちで点灯されるものが1つずつ増えていくように制御されてもよい。また、各変動表示（初回変動を含む）の期間中に、装飾用LEDの表示色が変化するように制御されてもよいし、複数の装飾用LEDのうちで点灯されるものが変化するように制御されてもよい。

40

【0080】

画像表示とは異なる再変動演出のさらなる一例として、「擬似連」の可変表示演出による各変動表示（初回変動を含む）の期間中に、遊技領域の内部または外部に設けられた演出用模型（可動部材）が動作するように制御されてもよい。このとき、各変動表示（初回変動を含む）の期間中に、演出用模型（可動部材）の動作態様が変化するように制御されてもよいし、複数の演出用模型（可動部材）のうちで動作するものが変化するように制御されてもよい。

【0081】

「擬似連」の可変表示演出による各変動表示（初回変動を含む）の期間中に、画像表示

50

装置5の画面上に特定のキャラクタ画像といった所定の演出画像を表示するように制御されてもよい。また、再変動演出として、例えば擬似連チャンス目となる飾り図柄が仮停止表示されるときなどに、特殊な効果音となる音声をスピーカ8L、8Rから出力するように制御されてもよい。こうした再変動演出の一部または全部に加えて、あるいは、これらの再変動演出の一部または全部に代えて、装飾用LEDの点灯や点滅、演出用模型の動作、演出画像の表示、効果音の出力のうち、一部または全部を組み合わせた再変動演出を実行するように制御されてもよい。このとき、1種類の演出態様のみで再変動演出が実行される場合よりも、複数種類の演出態様を組み合わせた再変動演出が実行される期間を含んでいる場合や、複数回の再変動演出における演出態様が変化する場合に、可変表示結果が「大当たり」となる可能性(大当たり期待度)といった、所定の遊技価値が付与される可能性が高まるようにしてもよい。

10

【0082】

この実施の形態では、「擬似連」の可変表示演出において、擬似連変動(再変動)が1回~3回行われることにより、第1開始条件あるいは第2開始条件が1回成立したことに基つき、飾り図柄の可変表示があたかも2回~4回続けて開始されたかのように見せることができる。そして、擬似連変動(再変動)の繰返し実行回数(擬似連回数)が多くなったときには、擬似連回数が少ないときよりも、可変表示結果が「大当たり」となる可能性(大当たり期待度)が高くなる。また、擬似連変動の繰返し実行回数(擬似連回数)によって演出の発生割合が変化するように制御されてもよい。例えば擬似連変動が2回行われることにより「リーチ確定」となり、擬似連変動が3回行われることにより「スーパーリーチ確定」となるようにしてもよい。なお、「擬似連」の可変表示演出における擬似連変動(再変動)の回数は、例えば4回や5回といった、1回~3回よりも多くの回数まで実行できるようにしてもよい。

20

【0083】

こうした飾り図柄の可変表示動作を利用した可変表示演出としては、「擬似連」の他にも、例えば「滑り」や「発展チャンス目」、「発展チャンス目終了」、「チャンス目停止後滑り」といった、各種の演出動作が実行されてもよい。ここで、「滑り」の可変表示演出では、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける全部にて飾り図柄を変動させてから、単一または複数の飾り図柄表示エリア(例えば「左」及び「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rなど)にて飾り図柄を仮停止表示させた後、その仮停止表示した飾り図柄表示エリアのうち所定数(例えば「1」または「2」)の飾り図柄表示エリア(例えば「左」の飾り図柄表示エリア5Lと「右」の飾り図柄表示エリア5Rのいずれか一方または双方)にて飾り図柄を再び変動させた後に停止表示させることで、停止表示する飾り図柄を変更させる演出表示が行われる。

30

【0084】

「発展チャンス目」の可変表示演出では、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける全部にて、予め定められた特殊組合せに含まれる発展チャンス目を構成する飾り図柄を仮停止表示させた後、飾り図柄の可変表示状態をリーチ状態として所定のリーチ演出が開始される。一方、「発展チャンス目終了」の可変表示演出では、飾り図柄の可変表示が開始された後に、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける全部にて、発展チャンス目として予め定められた組合せの飾り図柄を、確定飾り図柄として導出表示させる演出表示が行われる。「チャンス目停止後滑り」の可変表示演出では、「擬似連」の可変表示演出と同様に、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける全部にて擬似連チャンス目となるハズレ組合せ(特殊組合せ)の飾り図柄を一旦仮停止表示させた後、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの全部にて飾り図柄を再び変動させる「擬似連」の可変表示演出とは異なり、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの一部にて飾り図柄を再び変動さ

40

50

せることで、停止表示する飾り図柄を変更させる演出表示が行われる。

【0085】

飾り図柄の可変表示中には、リーチ演出あるいは「擬似連」などの可変表示演出とは異なり、例えば所定の演出画像を表示することや、メッセージとなる画像表示や音声出力などのように、飾り図柄の可変表示動作とは異なる演出動作により、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性があることや、スーパーリーチによるリーチ演出が実行される可能性があること、可変表示結果が「大当り」となる可能性があることなどを、遊技者に予め告知するための予告演出が実行されることがある。

【0086】

予告演出となる演出動作は、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの全部にて飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示態様がリーチ態様となるより前（「左」及び「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにて飾り図柄が仮停止表示されるより前）に実行（開始）されるものであればよい。また、可変表示結果が「大当り」となる可能性があることを報知する予告演出には、飾り図柄の可変表示態様がリーチ態様となった後に実行されるものが含まれていてもよい。このように、予告演出は、特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定特別図柄や確定飾り図柄が導出されるまでの所定タイミングにて、大当り遊技状態となる可能性を予告できるものであればよい。こうした予告演出を実行する場合における演出動作の内容（演出態様）に対応して、複数の予告パターンが予め用意されている。

【0087】

予告演出のうちには、先読み予告演出（先読み演出ともいう）となるものが含まれている。先読み予告演出は、可変表示結果が「大当り」となる可能性などが予告される対象（予告対象）となる可変表示が実行されるより前に、演出態様に依りて可変表示結果が「大当り」となる可能性を予告可能な予告演出である。特に、複数回の特図ゲームに対応して複数回実行される飾り図柄の可変表示にわたり連続して予告する先読み予告演出は、連続予告演出ともいう。先読み予告演出では、予告対象となる可変表示が開始されるより前に、例えば始動入賞の発生による特図ゲームの保留記憶などに基づいて可変表示結果が「大当り」となる可能性などを予告するための演出動作が開始される。先読み予告演出との対比において、予告対象となる可変表示が開始された後に実行が開始される予告演出は、単独予告演出（単独予告、当該変動予告、あるいは可変表示中予告演出ともいう）と称される。

【0088】

この実施の形態では、先読み予告演出の一例として、第1保留表示部5HLにおける第1保留表示の表示部位や第2保留表示部5HRにおける第2保留表示の表示部位を、通常時における表示態様とは異なる表示態様に変化させることにより、予告対象となる可変表示において「大当り」となる可能性などを予告する「保留表示変化」の先読み予告演出が実行される。より具体的には、特図保留記憶数を特定可能に表示する表示部位における表示色を、通常時における所定色（例えば白色）とは異なる特定色（例えば赤色、緑色、青色のいずれかなど）とすることにより、可変表示結果が「大当り」となる可能性が通常よりも高いことを報知できればよい。また、第1保留表示や第2保留表示における表示柄を通常時とは異なる特定柄や特定色（例えばサクラ柄や虹色など）とすることにより、可変表示結果が「大当り」となる可能性が通常よりも高いことを報知できるようにしてもよい。あるいは、第1保留表示や第2保留表示として所定のメッセージ（例えば「秘」など）を示す表示態様とすることにより、表示色が特定色に変化する可能性が通常よりも高いことを報知（示唆）できるようにしてもよい。こうした表示態様が特定態様に変化する可能性が高いことを示唆する保留表示は、示唆保留表示ともいう。

【0089】

「保留表示変化」の演出は、前述のアクティブ表示の表示態様変化を含めて変化演出ともいい、この実施の形態では変化演出Aと変化演出Bとがある。変化演出A及び変化演出Bは、第1保留表示部5HLにおける保留表示、第2保留表示部5HRにおける保留表示

10

20

30

40

50

の表示、及び、アクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示の少なくともいずれかが変化する演出である。

【 0 0 9 0 】

始動入賞の発生に基づいて実行される先読み予告演出は、始動入賞が発生した後に、先読み予告演出による予告内容が実現されるか否かを遊技者が判別できるよりも前に実行（開始）されるものであればよい。例えば、ある始動入賞の発生によりリーチ状態となる可能性があることを予告する先読み予告演出は、少なくとも始動入賞の発生に基づく飾り図柄の変表示状態がリーチ状態（または非リーチ状態）となるよりも前に実行（開始）されるものであればよい。また、ある始動入賞の発生により可変表示結果が「大当り」となる可能性があることを予告する先読み予告演出は、少なくとも始動入賞の発生に基づく可変表示において確定飾り図柄が停止表示されるよりも前に実行（開始）されるものであればよい。

10

【 0 0 9 1 】

変化演出 A において保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色が 2 段階以上の変化となる割合は、変化演出 B において保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色が 2 段階以上の変化となる割合よりも高い。また、変化演出 A は、変化前の色から変化後の色に徐々に変化する態様となる。ここで、「徐々に変化する」とは、時間経過に従って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの変化後の候補の態様の領域と、変化前の態様との両方が示された状態において、変化後の候補の態様の領域が拡大するような変化の態様をいう。

20

【 0 0 9 2 】

変化演出 B が実行されるときには、保留表示の表示態様が増加する場合と変化しない場合とがある。変化演出 B のうち、保留表示の表示態様が増加する演出は、保留表示変化成功演出ともいう。変化演出 B のうち、保留表示の表示態様が増加しない演出は、保留表示変化失敗演出ともいう。その他、変化演出 B には、保留表示変化共通演出が含まれている。変化演出 B が実行されるときには、まず、保留表示の表示態様を増加させるときと増加させないときとで共通で実行される保留表示変化共通演出が実行される。保留表示変化共通演出は、例えば所定のキャラクタを示す演出画像を画像表示装置 5 の表示領域に表示させ、予告対象となる可変表示に対応する保留表示に作用を及ぼすような作用演出を含んでいけばよい。保留表示変化共通演出における作用演出は、第 1 保留表示部 5 H L における第 1 保留表示や第 2 保留表示部 5 H R における第 2 保留表示のいずれかに作用を及ぼすことにより、その保留表示の表示態様が増加する可能性があることを示唆する表示演出であればよい。このような表示演出に伴い、スピーカ 8 L、8 R から所定の効果音を出力させたり、遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED といった発光体の一部または全部を所定の点灯態様で点灯させたり、演出用の可動部材を所定の動作態様で動作させたりしてもよい。

30

【 0 0 9 3 】

保留表示変化共通演出が実行された後、保留表示変化成功演出を実行したときには、作用演出により作用を及ぼした保留表示の表示態様を増加させる。このように、保留表示変化共通演出における作用演出が実行された後、作用を及ぼした保留表示の表示態様が増加する演出は、第 1 成功演出としての変化演出 B ともいう。一方、保留表示変化共通演出が実行された後、保留表示変化失敗演出を実行したときには、作用演出により作用を及ぼした保留表示の表示態様を増加させない。このように、保留表示変化共通演出における作用演出が実行されたものの、作用を及ぼした保留表示の表示態様が増加しない演出は、第 1 失敗演出としての保留変化ガセ演出ともいう。

40

【 0 0 9 4 】

この実施の形態では、アクティブ表示部 A H A における演出画像の表示を、通常時における表示態様とは異なる表示態様に変化させることにより、開始条件が成立した可変表示において「大当り」となる可能性などを予告する「アクティブ表示変化」の予告演出が実行される。より具体的には、アクティブ表示部 A H A における表示色を、通常時における所定色（例えば白色）とは異なる特定色（例えば赤色、緑色、青色のいずれかなど）や特

50

定色（例えばサクラ柄や虹色など）とすることにより、可変表示結果が「大当り」となる可能性が通常よりも高いことを報知できればよい。ここで、保留表示及びアクティブ表示の態様（表示色等）の大当りに対する期待度は、例えば、通常が表示態様である白色表示を最も低い期待度としたときに、白、青、緑、赤、サクラ柄、虹色の順に（段階的に）高くなるように予め設定されている。

【0095】

また、アクティブ表示部 A H A に表示されるアイコンを、通常時における丸型無地とは異なる特定アイコンとすることにより、例えば「?」、「チャンス」、「激熱」などのメッセージを報知して、可変表示結果が「大当り」となる可能性を示唆できればよい。その他、アクティブ表示部 A H A に表示されるアイコンには、例えば「NEXT」などのメッセージを報知して、「擬似連」の可変表示演出における擬似連変動が実行されることを報知するアイコンがあってもよい。「アクティブ表示変化」の予告演出は、アクティブ表示変化演出ともいう。

10

【0096】

アクティブ表示変化演出が実行されるときには、アクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示の表示色やアイコンなどの表示態様が増える場合と変化しない場合とがある。アクティブ表示変化演出のうち、アクティブ表示の表示態様が増える演出は、アクティブ表示変化成功演出ともいう。アクティブ表示変化演出のうち、アクティブ表示の表示態様が増えない演出は、アクティブ表示変化失敗演出ともいう。その他、アクティブ表示変化演出には、アクティブ表示変化共通演出が含まれている。アクティブ表示変化演出が実行されるときには、まず、アクティブ表示の表示態様を増やせるときと増やせないときとで共通で実行されるアクティブ表示変化共通演出が実行される。アクティブ表示変化共通演出は、保留表示変化共通演出と同様に、例えば所定のキャラクタを示す演出画像を画像表示装置 5 の表示領域に表示させ、アクティブ表示に作用を及ぼすような作用演出を含んでいれればよい。アクティブ表示変化共通演出における作用演出は、アクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示に作用を及ぼすことにより、アクティブ表示の表示態様が増える可能性があることを示唆する表示演出であればよい。このような表示演出に伴い、スピーカ 8 L、8 R から所定の効果音を出力させたり、遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED といった発光体の一部または全部を所定の点灯態様で点灯させたり、演出用の可動部材を所定の動作態様で動作させたりしてもよい。

20

30

【0097】

アクティブ表示変化共通演出が実行された後、アクティブ表示変化成功演出を実行したときには、作用演出により作用を及ぼしたアクティブ表示の表示態様を増やさせる。このように、アクティブ表示変化共通演出における作用演出が実行された後、作用を及ぼしたアクティブ表示の表示態様が増える演出は、第 2 成功演出としてのアクティブ変化演出ともいう。一方、アクティブ表示変化共通演出が実行された後、アクティブ表示変化失敗演出を実行したときには、作用演出により作用を及ぼしたアクティブ表示の表示態様を増やさせない。このように、アクティブ表示変化共通演出における作用演出が実行されたものの、作用を及ぼしたアクティブ表示の表示態様が増えない演出は、第 2 失敗演出としてのアクティブ変化ガセ演出ともいう。

40

【0098】

保留表示の表示色やアクティブ表示の表示色を増やさせる演出は、表示色変化演出ともいう。保留表示の表示態様を、所定のメッセージ（例えば「秘」など）を示す表示態様に変化させる演出は、特殊表示変化演出ともいう。アクティブ表示部 A H A に表示されるアイコンを通常時の丸型無地とは異なる特定アイコンに変化させる演出は、アイコン表示変化演出ともいう。

【0099】

第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B にハズレ図柄が停止表示（導出）されて可変表示結果が「ハズレ」となる場合には、可変表示態様が「非リーチ」（「通常ハズレ」ともいう）となる場合と、可変表示態様が「リーチ」（「リーチハズレ」

50

ともいう)となる場合とが含まれている。可変表示態様が「非リーチ」となる場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態とならずに、リーチにならない所定の飾り図柄の組合せ(非リーチ組合せ)が停止表示(導出)される。可変表示態様が「リーチ」となる場合には、飾り図柄の可変表示が開始されてから、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後にリーチ演出が実行され、最終的に大当り組合せとはならない所定の飾り図柄の組合せ(リーチ組合せ)が停止表示(導出)される。非リーチ組合せやリーチ組合せを構成する飾り図柄は、ハズレ図柄となる特別図柄とともに、非特定表示結果に含まればよい。

【0100】

次に、本実施例におけるパチンコ遊技機1の動作(作用)を説明する。

10

【0101】

主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。遊技制御メイン処理を開始すると、CPU103は、割込み禁止に設定した後、必要な初期設定を行う。この初期設定では、例えばRAM101がクリアされる。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されたCTC(カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定を行う。これにより、以後、所定時間(例えば、2ミリ秒)ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。初期設定が終了すると、割込みを許可した後、ループ処理に入る。なお、遊技制御メイン処理では、パチンコ遊技機1の内部状態を前回の電力供給停止時における状態に復帰させるための処理を実行してから、ループ処理に入るようにしてもよい。

20

【0102】

このような遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、割込み禁止状態に設定して、所定の遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。遊技制御用タイマ割込み処理には、例えばスイッチ処理やメイン側エラー処理、情報出力処理、遊技用乱数更新処理、特別図柄プロセス処理、普通図柄プロセス処理、コマンド制御処理といった、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するための処理が含まれている。

【0103】

スイッチ処理は、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23といった各種スイッチから入力される検出信号の状態を判定する処理である。メイン側エラー処理は、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする処理である。情報出力処理は、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報、始動情報、確率変動情報などのデータを出力する処理である。遊技用乱数更新処理は、主基板11の側で用いられる複数種類の遊技用乱数のうち、少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための処理である。

30

【0104】

一例として、主基板11の側で用いられる遊技用乱数には、特図表示結果決定用の乱数値MR1と、大当り種別決定用の乱数値MR2と、変動パターン決定用の乱数値MR3と、普図表示結果決定用の乱数値MR5とが含まれていればよい。特図表示結果決定用の乱数値MR1は、特図ゲームにおける特別図柄などの可変表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かの決定に用いられる乱数値である。大当り種別決定用の乱数値MR2は、可変表示結果を「大当り」とする場合に、大当り種別を「非確変」、「確変」、「突確」のいずれかといった、複数種別のいずれかに決定するために用いられる乱数値である。変動パターン決定用の乱数値MR3は、特別図柄や飾り図柄の可変表示における変動パターンを、予め用意された複数パターンのいずれかに決定するために用いられる乱数値である。普図表示結果決定用の乱数値MR5は、普図ゲームにおける普通図柄の可変表示結果を「普図当り」として普通可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口を

40

50

閉鎖状態（通常開放状態）よりも高い頻度で遊技球が通過（進入）しやすい開放状態（拡大開放状態）に制御するか否かの決定に用いられる乱数値である。

【0105】

遊技制御用タイマ割込処理に含まれる特別図柄プロセス処理では、RAM 102に設けられた特図プロセスフラグの値をパチンコ遊技機1における遊技の進行状況に応じて更新し、特別図柄表示装置4における表示動作の制御や、特別可変入賞球装置7における大入賞口の開閉動作設定などを、所定の手順で行うために、各種の処理が選択されて実行される。普通図柄プロセス処理は、普通図柄表示器20における表示動作（例えばセグメントLEDの点灯、消灯など）を制御して、普通図柄の可変表示や普通可変入賞球装置6Bにおける可動翼片の傾動動作設定などを可能にする処理である。普通図柄プロセス処理では、時短制御に伴う高開放制御として、普通図柄表示器20による普図ゲームにおける普通図柄の変動時間（普図変動時間）を通常状態のときよりも短くする制御や、各回の普図ゲームで普通図柄の可変表示結果が「普図当り」となる確率を通常状態のときよりも向上させる制御、可変表示結果が「普図当り」となったことに基づく普通可変入賞球装置6Bにおける可動翼片の傾動制御を行う傾動制御時間を通常状態のときよりも長くする制御、その傾動回数を通常状態のときよりも増加させる制御の一部または全部が行われる。

10

【0106】

コマンド制御処理は、主基板11から演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して制御コマンドを送信させる処理である。一例として、コマンド制御処理では、RAM 102に設けられた送信コマンドバッファの値によって指定されたコマンド送信テーブルにおける設定に対応して、I/O 105に含まれる出力ポートのうち、演出制御基板12に対して演出制御コマンドを送信するための出力ポートに制御データをセットした後、演出制御INT信号の出力ポートに所定の制御データをセットして演出制御INT信号を所定時間にわたりオン状態としてからオフ状態とすることなどにより、コマンド送信テーブルでの設定に基づく演出制御コマンドの伝送を可能にする。コマンド制御処理を実行した後は、割込み許可状態に設定してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

20

【0107】

図3は、特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU 103は、まず、始動入賞判定処理を実行する（ステップS101）。始動入賞判定処理を実行した後、CPU 103は、RAM 102の所定領域（遊技制御フラグ設定部など）に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110～S117の処理のいずれかを選択して実行する。

30

【0108】

図4は、始動入賞判定処理として、図3のステップS101にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図4に示す始動入賞判定処理を開始すると、CPU 103は、まず、普通入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口に対応して設けられた第1始動口スイッチ22Aからの検出信号に基づき、第1始動口スイッチ22Aがオンであるか否かを判定する（ステップS201）。このとき、第1始動口スイッチ22Aがオンであれば（ステップS201；Yes）、第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第1特図保留記憶数が、所定の上限値（例えば「4」）となっているか否かを判定する（ステップS202）。このとき、CPU 103は、RAM 102の所定領域（遊技制御カウンタ設定部など）に設けられた第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第1特図保留記憶数を特定できればよい。ステップS202にて第1特図保留記憶数が上限値ではないときには（ステップS202；No）、RAM 102の所定領域（遊技制御バッファ設定部など）に設けられた始動口バッファの格納値である始動口バッファ値を、「1」に設定する（ステップS203）。

40

【0109】

ステップS201にて第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや（ステップS201；No）、ステップS202にて第1特図保留記憶数が上限値に達しているときには（ステップS202；Yes）、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応

50

して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する(ステップS204)。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば(ステップS204; Yes)、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第2特図保留記憶数が、所定の上限値(例えば「4」となっている)かを判定する(ステップS205)。このとき、CPU103は、RAM102の所定領域(遊技制御カウンタ設定部など)に設けられた第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特定できればよい。ステップS205にて第2特図保留記憶数が上限値ではないときには(ステップS205; No)、始動口パuffa値を「2」に設定する(ステップS206)。

【0110】

ステップS203、S206の処理のいずれかを実行した後は、始動口パuffa値に応じた保留記憶数カウンタ値を1加算するように更新する(ステップS207)。例えば、始動口パuffa値が「1」であるときには第1保留記憶数カウンタ値を1加算する一方で、始動口パuffa値が「2」であるときには第2保留記憶数カウンタ値を1加算する。こうして、第1保留記憶数カウンタ値は、第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第1特図を用いた特図ゲームに対応した第1始動条件が成立したときに、1増加(インクリメント)するように更新される。また、第2保留記憶数カウンタ値は、第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第2特図を用いた特図ゲームに対応した第2始動条件が成立したときに、1増加(インクリメント)するように更新される。こうして、第1始動条件が成立したときには第1特図保留記憶数が1増加するように更新され、第2始動条件が成立したときには第2特図保留記憶数が1増加するように更新される。このときには、RAM102の所定領域(遊技制御カウンタ設定部など)に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウンタ値を、1加算するように更新する(ステップS208)。

【0111】

ステップS208の処理を実行した後に、CPU103は、始動入賞の発生時に対応した所定の遊技用乱数を抽出する(ステップS209)。一例として、ステップS209の処理では、乱数回路104やRAM102の所定領域(遊技制御カウンタ設定部など)に設けられたランダムカウンタ等によって更新される数値データのうちから、特図表示結果決定用の乱数値MR1や大当り種別決定用の乱数値MR2、変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データが抽出される。こうして抽出された各乱数値を示す数値データが保留データとして、始動口パuffa値に応じた特図保留記憶部における空きエントリの先頭にセットされることで記憶される(ステップS210)。

【0112】

ステップS210の処理では、例えば始動口パuffa値が「1」であるときに、保留データが第1特図保留記憶部にセットされる一方、始動口パuffa値が「2」であるときに、保留データが第2特図保留記憶部にセットされる。第1特図保留記憶部は、普通入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第1始動入賞が発生したものの、未だ開始されていない特図ゲーム(第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲーム)について保留記憶として記憶する。第2特図保留記憶部は、普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第2始動入賞が発生したものの、未だ開始されていない特図ゲーム(第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲーム)について保留記憶として記憶する。

【0113】

第1特図保留記憶部は、例えば第1始動入賞口への入賞順(遊技球の検出順)に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過(進入)による第1始動条件の成立に基づいてCPU103が乱数回路104等から抽出した特図表示結果決定用の乱数値MR1や大当り種別決定用の乱数値MR2、変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値(例えば「4」)に達するまで記憶する。こうして第1特図保留記憶部に記憶された保留データは、第1特図を用いた特図ゲームの実行

10

20

30

40

50

が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける可変表示結果（特図表示結果）に基づき大当り遊技状態に制御すると決定されるか否かや、可変表示結果が「大当り」となる場合の大当り種別が複数種別のいずれとなるか、飾り図柄の可変表示態様が特定態様（例えばスーパーリーチのリーチ演出など）となるか否かなどを判定可能にする保留記憶情報となる。

【0114】

第2特図保留記憶部は、例えば第2始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）による第2始動条件の成立に基づいてCPU103が乱数回路104等から抽出した特図表示結果決定用の乱数値MR1や大当り種別決定用の乱数値MR2、変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第2特図保留記憶部に記憶された保留データは、第2特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける可変表示結果（特図表示結果）に基づき大当り遊技状態に制御すると決定されるか否かや、可変表示結果が「大当り」となる場合の大当り種別が複数種別のいずれとなるか、飾り図柄の可変表示態様が特定態様（例えばスーパーリーチのリーチ演出など）となるか否かなどを判定可能にする保留記憶情報となる。

10

【0115】

ステップS210の処理に続いて、予め用意された始動口入賞指定コマンドを演出制御基板12に対して送信するための設定を行う（ステップS211）。続いて、入賞時乱数値判定処理を実行する（ステップS212）。その後、予め用意された保留記憶数通知コマンドを演出制御基板12に対して送信するための設定を行う（ステップS213）。さらに、始動口バッファ値が「1」であるか「2」であるかを判定する（ステップS214）。このとき、始動口バッファ値が「2」であれば（ステップS214；「2」）、始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから（ステップS215）、始動入賞判定処理を終了する。これに対して、始動口バッファ値が「1」であるときには（ステップS214；「1」）、始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから（ステップS216）、ステップS204の処理に進む。これにより、第1始動口スイッチ22Aと第2始動口スイッチ22Bの双方が同時に有効な遊技球の始動入賞を検出した場合でも、確実に双方の有効な始動入賞の検出に基づく処理を完了できる。

20

30

【0116】

図5は、入賞時乱数値判定処理として、図4のステップS212にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この実施の形態において、特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるときには、後述する特別図柄通常処理（図3のステップS110、図7）において、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かの決定や、変動パターンの決定などが行われる。他方、これらの決定とは別に、遊技球が始動入賞口（第1始動入賞口または第2始動入賞口）にて検出された始動入賞タイミングで、CPU103がステップS212の入賞時乱数値判定処理を実行することにより、特図表示結果として大当り図柄を導出すると決定される乱数値MR1であるか否かの判定や、飾り図柄の可変表示状態をリーチ状態とする変動パターンに決定される乱数値MR3であるか否かの判定などを行う。これにより、始動入賞口を通過（進入）した遊技球の検出に基づく特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるより前に、特図表示結果が「大当り」となるか否かや、飾り図柄の可変表示中にリーチ状態となるか否かを予測し、この予測結果に基づいて、演出制御基板12の側で演出制御用CPU120などにより、先読み演出となる予告演出を実行するか否かを、決定することができる。

40

【0117】

図5に示す入賞時乱数値判定処理において、CPU103は、まず、例えばRAM102の所定領域（遊技制御フラグ設定部など）に設けられた時短フラグや確変フラグの状態を確認することなどにより、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を特定する（ステップS401）。より具体的には、確変フラグがオンであるときには遊技状態が確変状態

50

であること、確変フラグがオフで時短フラグがオンであるときには遊技状態が時短状態であること、確変フラグと時短フラグがともにオフであるときには通常状態であることを、それぞれ特定すればよい。また、RAM 102の所定領域（遊技制御フラグ制御部など）に設けられた特図プロセスフラグの値を確認することなどにより、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態が大当り遊技状態であるか否かを特定できればよい。

【0118】

CPU103は、こうして特定された遊技状態が大当り遊技状態となっている大当り中であるか否かを判定する（ステップS402）。このとき、大当り中でないと判定された場合には、さらに確変状態や時短状態において時短制御に伴う高開放制御が行われている高ベース中であるか否かを判定する（ステップS403）。ステップS402にて大当り中であると判定されたときや（ステップS402；Yes）、ステップS403にて高ベース中であると判定されたときには（ステップS403；Yes）、始動口バッファ値が「2」であるか否かを判定する（ステップS404）。

10

【0119】

ステップS403にて高ベース中ではないと判定されたときや（ステップS403；No）、ステップS404にて始動口バッファ値が「2」であると判定されたときには（ステップS404；Yes）、図4に示されたステップS209の処理で抽出した乱数値を用いて、各種の可変表示内容を判定する。この実施の形態において、始動入賞時に判定する可変表示内容には、「大当り」、「ハズレ時スーパーリーチ確定」、「ハズレ時リーチ確定」、「ハズレ時一般」がある。

20

【0120】

CPU101は、可変表示内容が「大当り」であるか否かを判定するために、大当り判定範囲を設定する。例えば、予めROM101の所定領域に記憶するなどして用意された特定表示結果決定テーブルから、現在の遊技状態に対応して特図表示結果の決定に用いられるデータ（特図表示結果決定用テーブルデータ）を選択する。この特図表示結果決定用テーブルデータにおいて、特図表示結果が「大当り」に割り当てられた決定値の範囲が、大当り判定範囲として設定されればよい。この大当り判定範囲は、ステップS209の処理で抽出した特図表示結果決定用の乱数値MR1と比較される。このとき、乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲内であれば、可変表示内容が「大当り」と判定される。

【0121】

乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲外であることに対応して、可変表示内容が「大当り」ではないと判定された場合には、ハズレ時のスーパーリーチ確定範囲やリーチ確定範囲を設定する。ハズレ時のスーパーリーチ確定範囲やリーチ確定範囲は、特図保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチあるいはノーマルリーチを含めたリーチ演出を伴う変動パターンに決定することができる乱数値（変動パターン決定用の乱数値MR3）の範囲として、予め定められていけばよい。

30

【0122】

特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるときには、変動パターン決定用の乱数値MR3と、予めROM101の所定領域に記憶するなどして用意された変動パターン決定テーブルとを用いて、予め用意された複数の変動パターンのうちから、今回の可変表示で使用される変動パターンが決定される。変動パターン決定テーブルでは、変動パターン決定用の乱数値MR3と比較される数値（決定値）が、複数の変動パターンのいずれかに割り当てられている。CPU103は、乱数値MR3と合致する決定値が割り当てられた変動パターンを、今回の可変表示で使用される変動パターンに決定する。例えば可変表示結果が「ハズレ」となるハズレ時に用いられる変動パターン決定テーブルでは、複数の変動パターンに対する決定値の割当てが、図10（B1）や図10（B2）に示すように、第1特図保留記憶数や第2特図保留記憶数に応じて異なっている。ただし、一部の決定値は、第1特図保留記憶数や第2特図保留記憶数にかかわらず同一（あるいは同一種）の変動パターンに割り当てられている。こうした変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータにおいて、スーパーリーチを伴う変動パターンに割り当てられた決定値のうちで、特

40

50

図保留記憶数にかかわらずスーパーリーチを伴う変動パターンに割り当てられた決定値の範囲が、スーパーリーチ確定範囲として予め定められていればよい。また、変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータにおいて、ノーマルリーチを含めたリーチ演出を伴う変動パターンに割り当てられた決定値のうちで、特図保留記憶数にかかわらずリーチ演出を伴う変動パターンに割り当てられた決定値の範囲が、リーチ確定範囲として予め定められていればよい。

【 0 1 2 3 】

パチンコ遊技機 1 における遊技状態が時短制御のない通常状態である通常時には、図 10 (B 1) に示すような決定値が変動パターンに割り当てられた変動パターン決定テーブルが用いられる。この場合、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 9 5 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、第 1 特図保留記憶数にかかわらずスーパーリーチを伴う変動パターンに決定されることが確定する。これに対し、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 7 1 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、第 1 特図保留記憶数に応じてスーパーリーチを伴うか否かは不確定であるものの、少なくとも第 1 特図保留記憶数にかかわらずノーマルリーチを含めたリーチ演出を伴う変動パターンに決定されることが確定する。

10

【 0 1 2 4 】

また、パチンコ遊技機 1 における遊技状態が時短制御を伴う確変状態や時短状態である時短中には、図 10 (B 2) に示すような決定値が変動パターンに割り当てられた変動パターン決定テーブルが用いられる。この場合、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 9 5 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、第 2 特図保留記憶数にかかわらずスーパーリーチを伴う変動パターンに決定されることが確定する。これに対し、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 8 9 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、第 2 特図保留記憶数にかかわらずノーマルリーチを伴う変動パターンに決定されることが確定する。

20

【 0 1 2 5 】

始動入賞が発生したときの特図保留記憶数 (第 1 特図保留記憶数、第 2 特図保留記憶数) は、実際に可変表示が開始されるときの特図保留記憶数と一致するとはかぎらず、始動入賞が発生した後、可変表示の実行や新たな始動入賞の発生により変化することがある。そのため、始動入賞時の判定結果と可変表示開始時における変動パターンの決定とで、特図保留記憶数の相違により選択されるテーブルデータが一致しない場合があり、始動入賞時に前もって特定の変動パターンに決定されるか否かを判定して予測することは一般に難しい。一方、この実施の形態における変動パターン決定テーブルでは、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に少なくともスーパーリーチを伴う変動パターンあるいはノーマルリーチを含めたリーチ演出を伴う変動パターンに割り当てられた決定値は、特図保留記憶数にかかわらず共通の決定値を含んでいる。したがって、パチンコ遊技機 1 における始動入賞時あるいは可変表示開始時における特図保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチを伴う変動パターンに決定されることが確定したか否かや、ノーマルリーチを含めたリーチ演出を伴う変動パターンに決定されることが確定したか否かを、判定することができる。

30

【 0 1 2 6 】

時短制御が行われていない通常時において、可変表示結果が「ハズレ」となる場合には、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 9 5 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、可変表示内容が「ハズレ時スーパーリーチ確定」とであると判定し、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 7 1 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、可変表示内容が「ハズレ時リーチ確定」とであると判定する。時短制御が行われている時短中において、可変表示結果が「ハズレ」となる場合には、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 9 5 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、可変表示内容が「ハズレ時スーパーリーチ確定」とであると判定し、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 が「 2 8 9 」 ~ 「 3 0 0 」の範囲内であれば、可変表示内容が「ハズレ時リーチ確定」とであると判定する。

40

【 0 1 2 7 】

図 5 に示すステップ S 4 0 4 にて始動口バッファ値が「 2 」ではなく「 1 」であると判定されたときには (ステップ S 4 0 4 ; N o)、ステップ S 4 0 5 の処理における入賞時

50

判定を制限するための設定を行う（ステップS406）。こうして、時短制御に伴う高開放制御が行われるときや、大当り遊技状態であるときには、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる始動入賞（第1始動入賞）の発生に基づく可変表示内容の判定が行われないように制限する。これにより、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行される場合に、高開放制御中や大当り遊技状態であるときには、第1始動入賞に基づく先読み予告が実行されないように制限して、遊技の健全性を確保することができる。

【0128】

その後、ステップS405の処理による判定結果やステップS406の処理による設定に応じ動入賞時の通知内容を設定する（ステップS407）。こうした通知内容に応じて、予め用意された入賞時判定結果コマンドを演出制御基板12に対して送信するための設定を行ってから（ステップS408）、入賞時乱数値判定処理を終了する。

10

【0129】

図6は、始動口入賞指定コマンド（第1始動口入賞指定コマンドおよび第2始動口入賞指定コマンド）、保留記憶数通知コマンド（第1保留記憶数通知コマンドおよび第2保留記憶数通知コマンド）、入賞時判定結果コマンドの設定例を示している。この実施の形態では、始動口入賞指定コマンドとして、第1始動口入賞指定コマンドとなるコマンドB100Hと、第2始動口入賞指定コマンドとなるコマンドB200Hとが、予め用意されている。なお、添字Hは16進数であることを示している。また、保留記憶数通知コマンドとして、第1保留記憶数通知コマンドとなるコマンドC1XXHと、第2保留記憶数通知コマンドとなるコマンドC2XXHとが、予め用意されている。なお、XXHは不特定の16進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。保留記憶数通知コマンドでは、特図保留記憶数に応じて、異なるEXTデータ（例えば00H～04Hのいずれか）が設定される。さらに、入賞時判定結果コマンドとなるコマンドC4XXHが、予め用意されている。

20

【0130】

普通入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第1始動口スイッチ22Aにより検出されて始動入賞（第1始動入賞）が発生したときには、図4に示すステップS202の処理で第1特図保留記憶数が上限値に達していないと判定されることにより、第1始動条件が成立する。第1始動条件は、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームを実行するための条件である。第1始動条件が成立したときには、図4に示すステップS203の処理で始動口バッファ値を「1」に設定してからステップS211の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基板12に対して第1始動口入賞指定コマンドが送信される。また、図5に示すステップS408の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基板12に対して入賞時判定結果コマンドが送信される。さらに、始動口バッファ値が「1」であるときに図4に示すステップS213の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基板12に対して第1保留記憶数通知コマンドが送信される。

30

【0131】

普通可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第2始動口スイッチ22Bにより検出されて始動入賞（第2始動入賞）が発生したときには、図4に示すステップS205の処理で第2特図保留記憶数が上限値に達していないと判定されることにより、第2始動条件が成立する。第2始動条件は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームを実行するための条件である。第2始動条件が成立したときには、図4に示すステップS206の処理で始動口バッファ値を「2」に設定してからステップS211の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基板12に対して第2始動口入賞指定コマンドが送信される。また、図5に示すステップS408の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基板12に対して入賞時判定結果コマンドが送信される。さらに、始動口バッファ値が「2」であるときに図4に示すステップS213の処理による送信設定を行うことで、主基板11から演出制御基

40

50

板 1 2 に対して第 2 保留記憶数通知コマンドが送信される。

【 0 1 3 2 】

演出制御基板 1 2 の側では、第 1 始動口入賞指定コマンドを受信することで第 1 始動条件の成立を検知でき、第 2 始動口入賞指定コマンドを受信することで第 2 始動条件の成立を検知できる。このように、第 1 始動口入賞指定コマンドは、第 1 始動条件の成立を通知する演出制御コマンドである。第 2 始動口入賞指定コマンドは、第 2 始動条件の成立を通知する演出制御コマンドである。入賞時判定結果コマンドは、第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球の検出時である第 1 始動入賞時や、第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球の検出時である第 2 始動入賞時に、乱数回路 1 0 4 等から抽出した遊技用乱数（特図表示結果決定用の乱数値 M R 1 など）を用いた比較結果（入賞時判定結果）を、演出制御基板 1 2 の側に対して通知する。第 1 保留記憶数通知コマンドは、第 1 特図保留記憶数を通知する。第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 2 特図保留記憶数を通知する。この実施の形態において、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 始動入賞口と第 2 始動入賞口とのいずれを遊技球が通過（進入）して始動入賞が発生したかを通知するとともに、第 1 特図保留記憶数と第 2 特図保留記憶数とのいずれが増加したかを指定する保留通知情報として送信される。

10

【 0 1 3 3 】

なお、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したときに、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。あるいは、保留記憶数が増加したときに、第 1 特図保留記憶数または第 2 特図保留記憶数が増加したことを示す保留記憶数加算指定コマンド（第 1 保留記憶数加算指定コマンドまたは第 2 保留記憶数加算指定コマンド）を送信する一方、保留記憶数が減少したときに、第 1 特図保留記憶数または第 2 特図保留記憶数が減少したことを示す保留記憶数減算指定コマンド（第 1 保留記憶数減算指定コマンドまたは第 2 保留記憶数減算指定コマンド）を送信するようにしてもよい。第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドに代えて、あるいは第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドとともに、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

20

【 0 1 3 4 】

図 6 (B) は、入賞時判定結果コマンドによる通知内容を例示している。図 6 (B) に示す入賞時判定結果コマンドのうち、コマンド C 4 0 2 H、コマンド C 2 0 3 H、コマンド C 4 0 4 H は、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 が大当たり判定範囲内ではない場合に送信されることがあり、可変表示結果が「ハズレ」に決定されて大当たり遊技状態には制御されないとの入賞時判定結果を通知する。一方、コマンド C 4 0 1 H は、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 が大当たり判定範囲内である場合に送信され、可変表示結果が「大当たり」に決定されて大当たり遊技状態に制御されるとの入賞時判定結果（可変表示内容が「大当たり」）を通知する。コマンド C 4 0 2 H は、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 がハズレ時のスーパーリーチ確定範囲内である場合に送信され、ハズレ時にスーパーリーチを伴う変動パターンに決定されるとの入賞時判定結果（可変表示内容が「ハズレ時スーパーリーチ確定」）を通知する。コマンド C 4 0 3 H は、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 がハズレ時のリーチ確定範囲内である場合に送信され、ハズレ時にリーチ演出を伴う変動パターンに決定されるとの入賞時判定結果（可変表示内容が「ハズレ時リーチ確定」）を通知する。コマンド C 4 0 4 H は、変動パターン決定用の乱数値 M R 3 がハズレ時のスーパーリーチ確定範囲内でもリーチ確定範囲内でもない場合に送信され、リーチ演出を伴う変動パターンに決定されない可能性があるとの入賞時判定結果（可変表示内容が「ハズレ時一般」）を通知する。このように、入賞時判定結果コマンドは、始動入賞時に抽出された遊技用乱数を用いて、可変表示結果が「大当たり」に決定されるか否かや特定の変動パターンに決定されるか否かの入賞時判定結果を通知する判定結果情報として送信される。

30

40

【 0 1 3 5 】

50

図3に示すステップS110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”のときに実行される。この特別図柄通常処理では、第1特図保留記憶部や第2特図保留記憶部といった、RAM102の所定領域に記憶されている保留データの有無などに基づいて、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bによる特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、特図表示結果決定用の乱数値MR1を示す数値データに基づき、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当り」とするか否かを、その可変表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。このとき、可変表示結果が「大当り」に決定された場合には、大当り種別を複数種別のいずれかに決定する。大当り種別の決定結果を示すデータがRAM102の所定領域（例えば遊技制御バッファ設定部）に設けられた大当り種別バッファに格納されることにより、大当り種別が記憶される。さらに、特別図柄通常処理では、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示結果に対応して、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bによる特図ゲームにおける確定特別図柄（大当り図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。特別図柄通常処理では、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を事前決定したときに、特図プロセスフラグの値が“1”に更新される。

10

20

30

40

50

【0136】

ステップS111の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、可変表示結果を「大当り」とするか否かの事前決定結果などに基づいて、変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。特別図柄や飾り図柄の可変表示時間は、変動パターンに対応して予め設定されている。したがって、変動パターン設定処理にて変動パターンを決定することにより、特別図柄の可変表示を開始してから可変表示結果となる確定特別図柄を導出するまでの可変表示時間が決定される。また、変動パターン設定処理は、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に、飾り図柄の可変表示状態を「リーチ」とするか否かを決定する処理を含んでもよい。あるいは、変動パターン設定処理にて可変表示結果が「ハズレ」となる場合の変動パターンを所定割合で決定することにより、飾り図柄の可変表示状態を「リーチ」とするか否かが決定されてもよい。さらに、変動パターン設定処理は、特別図柄表示装置4において特別図柄の変動を開始させるための設定を行う処理を含んでもよい。変動パターン設定処理が実行されたときには、特図プロセスフラグの値が“2”に更新される。

【0137】

ステップS112の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、特別図柄表示装置4において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“3”に更新される。

【0138】

ステップS113の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“3”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、特別図柄表示装置4にて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄を停止表示させるための設定を行う処理が含まれている。そして、RAM102の所定領域（例えば遊技制御フラグ設定部）に設けられた大当りフラグがオンとなっているか否かの判定などが行われる。大当りフラグがオンである場合には、特図表示結果が「大当り」であることに基づく大当り遊技状態の開始を指定する当り開始指定コマンドの送信設定を行うとともに、特図プロセスフラグの値を“4”に更新する。大当りフラグがオフである場合には、特図プロセスフラグの値を“0”に更新する。

【0139】

ステップS114の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“4”のときに実行される。この大当り開放前処理には、可変表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンド遊技の実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大当り開放前処理が実行されたときには、特

図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される。

【 0 1 4 0 】

ステップ S 1 1 5 の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としての経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻したときには、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新される。

【 0 1 4 1 】

ステップ S 1 1 6 の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンド遊技の実行回数が所定の上限回数（例えば大当り種別に応じた「 2 」または「 1 5 」など）に達したか否かを判定する処理や、上限回数に達していない場合に次のラウンド遊技が開始されるまで待機する処理などが含まれている。そして、次のラウンド遊技が開始されるときには、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される一方、ラウンド遊技の実行回数が上限回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新される。

10

【 0 1 4 2 】

ステップ S 1 1 7 の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この大当り終了処理には、画像表示装置 5 やスピーカ 8 L、8 R、遊技効果ランプ 9 などといった演出装置により、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、確変制御条件の成否に対応して確変状態や時短状態に制御するための各種の設定を行う処理などが含まれている。そして、確変状態や時短状態に制御するための設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。

20

【 0 1 4 3 】

図 7 は、特別図柄通常処理として、図 3 のステップ S 1 1 0 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 7 に示す特別図柄通常処理において、CPU 1 0 3 は、まず、第 2 特図保留記憶数が「 0 」であるか否かを判定する（ステップ S 2 3 1）。第 2 特図保留記憶数は、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。CPU 1 0 3 は、第 2 保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「 0 」であるか否かを判定すればよい。

30

【 0 1 4 4 】

ステップ S 2 3 1 にて第 2 特図保留記憶数が「 0 」以外であるときには（ステップ S 2 3 1 ; N o）、第 2 特図保留記憶部の先頭領域（保留番号「 1 」に対応する記憶領域）に記憶されている保留データとして、所定の乱数値を示す数値データを読み出す（ステップ S 2 3 2）。これにより、図 4 に示すステップ S 2 0 9 の処理で第 2 始動入賞口における始動入賞（第 2 始動入賞）の発生に対応して抽出された遊技用乱数が読み出される。このとき読み出された数値データは、例えば変動用乱数バッファなどに格納されて、一時記憶されればよい。

40

【 0 1 4 5 】

ステップ S 2 3 2 の処理に続いて、例えば第 2 保留記憶数カウント値を 1 減算して更新することなどにより、第 2 特図保留記憶数を 1 減算させるように更新するとともに、第 2 特図保留記憶部における記憶内容をシフトさせる（ステップ S 2 3 3）。例えば、第 2 特図保留記憶部にて保留番号「 1 」より下位の記憶領域（保留番号「 2 」～「 4 」に対応する記憶領域）に記憶された保留データを、1 エントリずつ上位にシフトする。また、ステップ S 2 3 3 の処理では、合計保留記憶数を 1 減算するように更新してもよい。そして、RAM 1 0 2 の所定領域（遊技制御バッファ設定部など）に設けられた変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を、「 2 」に更新する（ステップ S 2 3 4）。

【 0 1 4 6 】

50

ステップS 2 3 1にて第2特図保留記憶数が「0」であるときには(ステップS 2 3 1; Yes)、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する(ステップS 2 3 5)。第1特図保留記憶数は、第1特別図柄表示装置4 Aによる第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。CPU 1 0 3は、第1保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。このように、ステップS 2 3 5の処理は、ステップS 2 3 1にて第2特図保留記憶数が「0」であると判定されたときに実行されて、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する。これにより、第2特図を用いた特図ゲームは、第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行が開始されることになる。

【0 1 4 7】

なお、第1始動入賞口であるか第2始動入賞口であるかにかかわらず、遊技球が始動入賞口を通過(進入)した順番で、特図ゲームが実行される場合には、第1始動入賞口と第2始動入賞口のいずれを遊技球が通過(進入)したかを示す始動口データを、保留データとともに、あるいは保留データとは別個に、保留番号と対応付けてRAM 1 0 2の所定領域に記憶させておき、それぞれの保留データに対応する特図ゲームについて、始動条件が成立した順番を特定可能にすればよい。

【0 1 4 8】

ステップS 2 3 6の処理に続いて、例えば第1保留記憶数カウント値を1減算して更新することなどにより、第1特図保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第1特図保留記憶部における記憶内容をシフトさせる(ステップS 2 3 7)。例えば、第1特図保留記憶部にて保留番号「1」より下位の記憶領域(保留番号「2」~「4」に対応する記憶領域)に記憶された保留データを、1エントリずつ上位にシフトする。また、ステップS 2 3 7の処理では、合計保留記憶数を1減算するように更新してもよい。そして、変動特図指定バッファ値を「1」に更新する(ステップS 2 3 8)。

【0 1 4 9】

ステップS 2 3 4、S 2 3 8の処理のいずれかを実行した後は、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果を、「大当り」と「ハズレ」のいずれかに決定する(ステップS 2 3 9)。一例として、ステップS 2 3 9の処理では、予めROM 1 0 1の所定領域に記憶するなどして用意された特図表示結果決定テーブルを選択し、特図表示結果を決定するための使用テーブルに設定する。特図表示結果決定テーブルでは、特図表示結果決定用の乱数値MR 1と比較される数値(決定値)が、特図表示結果を「大当り」と「ハズレ」のいずれとするかの決定結果に、割り当てられていなければならない。CPU 1 0 3は、変動用乱数バッファから読み出した特図表示結果決定用の乱数値MR 1を示す数値データに基づいて、特図表示結果決定テーブルを参照することにより、特図表示結果を決定すればよい。

【0 1 5 0】

ステップS 2 3 9の処理において、パチンコ遊技機1の遊技状態が確変状態であり確変制御が行われているときには、通常状態や時短状態にて確変制御が行われていないときよりも高い割合で、特図表示結果が「大当り」に決定される。確変状態は、例えば図3に示すステップS 1 1 7の大当り終了処理により、大当り種別が「確変」、「突確」のいずれかであった場合に対応して確変フラグがオン状態にセットされることで開始される。確変状態であるときには、通常状態や時短状態にて確変制御が行われていないときよりも、特図表示結果が「大当り」になりやすく、大当り遊技状態になりやすい。

【0 1 5 1】

CPU 1 0 3は、ステップS 2 3 9の処理により決定された特図表示結果が「大当り」であるか否かを判定する(ステップS 2 4 0)。特図表示結果が「大当り」に決定された場合には(ステップS 2 4 0; Yes)、RAM 1 0 2の所定領域(遊技制御フラグ設定部など)に設けられた大当りフラグをオン状態にセットする(ステップS 2 4 1)。また、大当り種別を複数種類のいずれかに決定する(ステップS 2 4 2)。一例として、ステップS 2 4 2の処理では、予めROM 1 0 1の所定領域に記憶するなどして用意された大当り種別決定テーブルを選択し、大当り種別を決定するための使用テーブルに設定する。大当り種別決定テーブルでは、変動特図が第1特図と第2特図のいずれであるかに応じて

10

20

30

40

50

、大当り種別決定用の乱数値と比較される数値（決定値）が、大当り種別を複数種類のいずれとするかの決定結果に、割り当てられていればよい。CPU 103は、変動用乱数バッファから読み出した大当り種別決定用の乱数値MR2を示す数値データに基づいて、大当り種別決定テーブルを参照することにより、大当り種別を決定すればよい。

【0152】

ステップS242の処理を実行した後は、大当り種別を記憶させる（ステップS243）。CPU103は、RAM102の所定領域（遊技制御バッファ設定部など）に設けられた大当り種別バッファに、大当り種別の決定結果を示すデータを格納することにより、大当り種別を記憶させればよい。

【0153】

ステップS240にて特図表示結果が「大当り」ではない場合や（ステップS240；No）、ステップS243の処理を実行した後は、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示結果となる確定特別図柄を決定する（ステップS244）。一例として、ステップS240にて特図表示結果が「大当り」ではないと判定された場合には、ハズレ図柄として予め定められた特別図柄を確定特別図柄に決定する。一方、ステップS240にて特図表示結果が「大当り」であると判定された場合には、ステップS242における大当り種別の決定結果に応じて、複数種類の大当り図柄として予め定められた特別図柄のいずれかを確定特別図柄に決定すればよい。

【0154】

ステップS244の処理を実行した後は、特図プロセスフラグの値を“1”に更新してから（ステップS245）、特別図柄通常処理を終了する。ステップS245にて特図プロセスフラグの値が“1”に更新されることにより、次のタイマ割込みが発生したときには、図3に示すステップS111の変動パターン設定処理が実行される。

【0155】

ステップS235にて第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数が「0」である場合には（ステップS235；Yes）、所定のデモ表示設定を行ってから（ステップS246）、特別図柄通常処理を終了する。このデモ表示設定では、例えば画像表示装置5において所定の演出画像を表示することなどによるデモンストレーション表示（デモ画面表示）を指定する演出制御コマンド（客待ちデモ指定コマンド）が、主基板11から演出制御基板12に対して送信済みであるか否かを判定する。このとき、送信済みであれば、そのままデモ表示設定を終了する。これに対して、未送信であれば、客待ちデモ指定コマンドを送信するための設定を行ってから、デモ表示設定を終了する。

【0156】

図8は、変動パターン設定処理として、図3のステップS111にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図8に示す変動パターン設定処理において、CPU103は、まず、大当りフラグがオンであるか否かを判定する（ステップS261）。そして、大当りフラグがオンである場合には（ステップS261；Yes）、特図表示結果が「大当り」となる大当り時に対応した変動パターンを決定する（ステップS262）。一方、大当りフラグがオフである場合には（ステップS261；No）、特図表示結果が「ハズレ」となるハズレ時に対応した変動パターンを決定する（ステップS263）。

【0157】

ステップS262の処理では、例えばROM101の所定領域に記憶するなどして用意された大当り変動パターン決定テーブルを用いて、大当り時の変動パターンが決定される。大当り変動パターン決定テーブルでは、変動パターン決定用の乱数値MR3と比較される数値（決定値）が、変動パターンの決定結果に、割り当てられていればよい。CPU103は、変動用乱数バッファから読み出した変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データに基づいて、大当り変動パターン決定テーブルを参照することにより、可変表示結果が「大当り」となる場合に対応した変動パターンを決定すればよい。また、ステップS263の処理では、例えばROM101の所定領域に記憶するなどして用意されたハズレ変動パターン決定テーブルを用いて、ハズレ時の変動パターンが決定される。ハズレ変

10

20

30

40

50

動パターン決定テーブルでは、変動パターン決定用の乱数値MR3と比較される数値（決定値）が、変動パターンの決定結果に、割り当てられていればよい。CPU103は、変動用乱数バッファから読み出した変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データに基づいて、ハズレ変動パターン決定テーブルを参照することにより、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に対応した変動パターンを決定すればよい。

【0158】

図9は、この実施の形態における変動パターンを示している。この実施の形態では、可変表示結果（特図表示結果）が「ハズレ」となる場合のうち、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態にはならない「非リーチ」である場合とリーチ状態になる「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、可変表示結果（特図表示結果）が「大当り」である場合などに対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。可変表示内容が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（非リーチハズレ変動パターンともいう）と称され、可変表示内容が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（リーチハズレ変動パターンともいう）と称される。非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に対応したハズレ変動パターンに含まれる。可変表示結果が「大当り」である場合に対応した変動パターンは、大当り変動パターンと称される。大当り変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチにおけるリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。

10

20

【0159】

図10は、大当り変動パターンやハズレ変動パターンの決定例を示している。図8に示すステップS262の処理では、例えば図10(A)に示すような割合で、大当り時の変動パターンが決定される。図10(A)に示す例では、大当り時の変動パターンとして、変動パターンPA3-1～変動パターンPA3-3、変動パターンPB3-1～変動パターンPB3-4のいずれかが、所定割合で使用パターンに決定される。図8に示すステップS263の処理では、時短制御が行われていない通常時であるときに、例えば図10(B1)に示すような割合で、ハズレ時の変動パターンが決定される。また、図8に示すステップS263の処理では、時短制御が行われている時短中であるときに、例えば図10(B2)に示すような割合で、ハズレ時の変動パターンが決定される。ステップS263の処理では、ハズレ時の変動パターンを決定することにより、可変表示結果が「ハズレ」となる場合に、飾り図柄の可変表示状態をリーチ状態とするか否かが決定される。なお、変動パターンの決定とは別個の処理により、可変表示結果が「ハズレ」となる場合にリーチ状態とするか否かが決定されてもよい。

30

【0160】

図10(A)に示す例では、変動パターンPB3-1～変動パターンPB3-4といった、スーパーリーチにおけるリーチ演出を伴う変動パターンに対して割り当てられた決定値が、変動パターンPA3-1～変動パターンPA3-3といった、ノーマルリーチにおけるリーチ演出を伴う変動パターンに対して割り当てられた決定値よりも多くなるように設定されている。一方、図10(B1)や図10(B2)に示す例では、変動パターンPA2-1～変動パターンPA2-3といった、ノーマルリーチにおけるリーチ演出を伴う変動パターンに対して割り当てられた決定値が、変動パターンPB2-1～変動パターンPB2-4といった、スーパーリーチにおけるリーチ演出を伴う変動パターンに割り当てられた決定値よりも多くなるように設定されている。これにより、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行されてから可変表示結果が導出されるときには、その可変表示結果が「大当り」となる可能性（大当り期待度）が高められる。

40

【0161】

図10(B1)に示す決定例では、第1特図保留記憶数が0、1または2以上のいずれであるかに応じて、異なる変動パターンに割り当てられる決定値が含まれている。具体的な一例として、「151」～「180」の範囲の決定値は、第1特図保留記憶数が0であれば変動パターンPA1-1に割り当てられ、第1特図保留記憶数が1であれば変動パタ

50

ーン P A 1 - 2 に割り当てられ、第 1 特図保留記憶数が 2 以上であれば変動パターン P A 1 - 3 に割り当てられている。このような設定により、第 1 特図保留記憶数に応じて、特別図柄や飾り図柄の平均的な可変表示時間を異ならせることができる。特に、第 1 特図保留記憶数が所定値（例えば「2」）以上であるときには、第 1 特図保留記憶数が所定値未満であるときよりも、平均的な可変表示時間を短くすることができるように、各変動パターンに決定値が割り当てられていればよい。時短制御が行われない通常時には、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）しにくく、第 2 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が低い。そのため、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、第 2 特図保留記憶数にかかわらず、第 1 特図保留記憶数が所定値（例えば「0」）である場合と同様のテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときの第 2 特図保留記憶数にかかわらず、その時点における第 1 特図保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されることに対応して、第 2 特図保留記憶数にかかわらず図 10（B 1）とは決定値の割当てが異なるテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 2 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、図 10（B 1）に示す「第 1 特図保留記憶数」を「第 2 特図保留記憶数」に読み替えて、第 2 特図保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。

10

20

【0162】

図 10（B 2）に示す決定例では、第 2 特図保留記憶数が 0、1 または 2 以上のいずれであるかに応じて、異なる変動パターンに割り当てられる決定値が含まれている。このような設定により、第 2 特図保留記憶数に応じて、特別図柄や飾り図柄の平均的な可変表示時間を異ならせることができる。特に、第 2 特図保留記憶数が所定値（例えば「2」）以上であるときには、第 2 特図保留記憶数が所定値未満であるときよりも、平均的な可変表示時間を短くすることができるように、各変動パターンに決定値が割り当てられていればよい。時短制御が行われている時短中には、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）しやすく、第 2 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が高い。第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行される場合には、時短中であれば第 2 特図を用いた特図ゲームが繰り返し実行される可能性が高く、第 1 特図を用いた特図ゲームを実行する頻度が低い。そして、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立するときには、第 2 特図保留記憶数が 0 になっている。そのため、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、第 1 特図保留記憶数にかかわらず、第 2 特図保留記憶数が所定値（例えば「0」）である場合と同様のテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 1 特図保留記憶数にかかわらず図 10（B 2）とは決定値の割当てが異なるテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。あるいは、第 1 特図を用いた特図ゲームの開始条件が成立したときには、図 10（B 2）に示す「第 2 特図保留記憶数」を「第 1 特図保留記憶数」に読み替えて、第 1 特図保留記憶数に応じたテーブルデータを参照して、変動パターンの決定が行われてもよい。

30

40

【0163】

ステップ S 2 6 2、S 2 6 3 の処理のいずれかを実行した後は、特別図柄の可変表示時間である特図変動時間を設定する（ステップ S 2 6 4）。特別図柄の可変表示時間となる特図変動時間は、特図ゲームにおいて特別図柄の変動を開始してから可変表示結果（特図表示結果）となる確定特別図柄が導出表示されるまでの所要時間である。特図変動時間は、図 9 に示すように、予め用意された複数の変動パターンに対応して、予め定められている。したがって、ステップ S 2 6 2、S 2 6 3 の処理にて変動パターンを決定することにより、特図変動時間が決定される。CPU 103 は、特図変動時間を設定することにより、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果が導出されるタイミングを設定できる。

【0164】

ステップ S 2 6 4 の処理に続いて、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用い

50

た特図ゲームと、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲームのうち、開始条件が成立したいずれかの特図ゲームを開始させるように、特別図柄の変動を開始させるための設定を行う(ステップS265)。一例として、変動特図指定バッファ値が「1」であれば、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図の表示を更新させる駆動信号を送信するための設定を行う。一方、変動特図指定バッファ値が「2」であれば、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図の表示を更新させる駆動信号を送信するための設定を行う。

【0165】

ステップS265の処理を実行した後は、特別図柄の変動開始時におけるコマンドの送信設定が行われる(ステップS266)。例えば、変動特図指定バッファ値が「1」である場合に、CPU103は、主基板11から演出制御基板12に対して第1変動開始コマンド、変動パターン指定コマンド、可変表示結果通知コマンド、第1保留記憶数通知コマンドを順次に送信するために、予め用意された第1変動開始用コマンドテーブルのROM101における記憶アドレス(先頭アドレス)を指定する。他方、変動特図指定バッファ値が「2」である場合に、CPU103は、主基板11から演出制御基板12に対して第2変動開始コマンド、変動パターン指定コマンド、可変表示結果通知コマンド、第2保留記憶数通知コマンドを順次に送信するために、予め用意された第2変動開始用コマンドテーブルのROM101における記憶アドレスを指定する。

10

【0166】

第1変動開始コマンドや第2変動開始コマンドは、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲームにおける変動開始や、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を、指定する演出制御コマンドである。変動パターン指定コマンドは、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rで可変表示される飾り図柄などの変動パターンを指定する演出制御コマンドである。可変表示結果通知コマンドは、特別図柄や飾り図柄などの可変表示結果を指定する演出制御コマンドである。

20

【0167】

ステップS266の処理を実行した後は、特図プロセスフラグの値を“2”に更新してから(ステップS267)、変動パターン設定処理を終了する。ステップS267にて特図プロセスフラグの値が“2”に更新されることにより、次のタイマ割込みが発生したときには、図3に示すステップS112の特別図柄変動処理が実行される。

30

【0168】

次に、演出制御基板12における動作を説明する。

【0169】

演出制御基板12では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU120が起動して、所定の演出制御メイン処理を実行する。演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU120は、まず、所定の初期化処理を実行して、RAM122のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたCTC(カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定等を行う。その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う。タイマ割込みフラグは、例えばCTCのレジスタ設定に基づき、所定時間(例えば2ミリ秒)が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば、待機する。

40

【0170】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11から演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板11からの演出制御INT信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用CPU120は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならないCPUを用いている場合には、割込み禁止命令(DI命令)を発行することが望

50

ましい。演出制御用CPU120は、演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O125に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドとなる制御信号を取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えばRAM122に設けられた演出制御コマンド受信バッファに格納する。その後、演出制御用CPU120は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0171】

タイマ割込みフラグがオンである場合には、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに、コマンド解析処理を実行する。コマンド解析処理では、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。

10

【0172】

一例として、コマンド解析処理では、演出制御コマンド受信バッファに格納された受信コマンドがある場合に、その受信コマンドのMODEデータを確認することなどにより、いずれの演出制御コマンドを受信したかを判定する。このとき、第1始動口入賞指定コマンドとともに入賞時判定結果コマンドおよび第1保留記憶数通知コマンドを受信した場合には、RAM122の所定領域（例えば演出制御バッファ設定部）などに設けられた第1始動入賞時コマンドバッファにおける空き領域のうちで、バッファ番号となる保留表示番号が最も小さい格納領域に、第1始動口入賞指定コマンドと第1保留記憶数通知コマンドを順番に記憶させる。一方、第2始動口入賞指定コマンドとともに第2保留記憶数通知コマンドを受信したときには、RAM122の所定領域（例えば演出制御バッファ設定部）などに設けられた第2始動入賞時コマンドバッファにおける空き領域のうちで、バッファ番号となる保留表示番号が最も小さい格納領域に、第2始動口入賞指定コマンドと第2保留記憶数通知コマンドを順番に記憶させる。

20

【0173】

第1始動入賞時コマンドバッファには、第1始動入賞の発生に対応して送信された1セットの演出制御コマンド（第1始動口入賞指定コマンドおよび第1保留記憶数通知コマンド）を対応付けて記憶できるように、格納領域が確保されている。演出制御用CPU120は、第1始動入賞が発生したときに受信した演出制御コマンドを、その受信順序に従って、第1始動入賞時コマンドバッファの保留表示番号「1」～「4」に対応する格納領域における空き領域の先頭から順番に格納していく。第1始動入賞時コマンドバッファにおける保留表示番号は、第1特図保留記憶数に対応している。

30

【0174】

第2始動入賞時コマンドバッファには、第2始動入賞の発生に対応して送信された1セットの演出制御コマンド（第2始動口入賞指定コマンドおよび第2保留記憶数通知コマンド）を対応付けて記憶できるように、格納領域が確保されている。演出制御用CPU120は、第2始動入賞が発生したときに受信した演出制御コマンドを、その受信順序に従って、第2始動入賞時コマンドバッファの保留表示番号「1」～「4」に対応する格納領域における空き領域の先頭から順番に格納していく。第2始動入賞時コマンドバッファにおける保留表示番号は、第2特図保留記憶数に対応している。

40

【0175】

コマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、遊技効果ランプ9および装飾用LEDなどの発光体における点灯動作といった、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され、演出制御に用いる各種の乱数値として、RAM122のランダムカウンタによってカウントされる演出用乱数を示す数値

50

データを、ソフトウェアにより更新する。

【0176】

図11は、演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。図11に示す演出制御プロセス処理では、まず、保留表示設定処理を実行する(ステップS161)。保留表示設定処理は、第1始動入賞や第2始動入賞が発生した始動入賞時に、第1保留表示部5HLでの第1保留表示や第2保留表示部5HRでの第2保留表示を更新するための処理を含んでいる。また、保留表示設定処理は、例えばRAM121の所定領域に設けられた保留表示データ記憶部の記憶データなどを用いて、「保留表示変化」の先読み予告演出を実行するための決定処理や設定処理などを含んでいる。

【0177】

図12は、保留表示データ記憶部の構成例を示している。保留表示データ記憶部は、第1特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることや、第2特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることに対応して、第1保留表示部5HLにて第1保留表示を行うための各種データや、第2保留表示部5HRにて第2保留表示を行うための各種データを、保留表示データとして記憶する。保留表示データ記憶部として、第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶表示に対応する第1保留表示データ記憶部と、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶表示とに対応する第2保留表示データ記憶部とが設けられていればよい。保留表示データ記憶部には、例えば第1特図保留記憶部や第2特図保留記憶部と同様の保留番号に関連付けて、入賞時判定結果、表示変化パターン、表示変化タイミングパターンを特定可能に示すデータを記憶するための格納領域が確保されている。入賞時判定結果は、入賞時判定結果コマンドに基づいて特定される特別図柄や飾り図柄の可変表示内容を示している。表示変化パターンは、「保留表示変化」の先読み予告演出において変化させる保留表示の表示態様の指定を含む演出パターンである。表示変化タイミングパターンは、「保留表示変化」の先読み予告演出を実行するタイミングの指定を含む演出パターンである。

【0178】

図13は、保留表示設定処理として、図11のステップS161にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図13に示す保留表示設定処理において、演出制御用CPU120は、まず、始動入賞時に伝送される演出制御コマンド(始動口入賞指定コマンド、入賞時判定結果コマンド、保留記憶数通知コマンドなど)の受信があったか否かを判定する(ステップS301)。ステップS301の処理では、演出制御用CPU120は、例えば第1始動入賞時コマンドバッファや第2始動入賞時コマンドバッファに、始動口入賞指定コマンドや入賞時判定結果コマンド、保留記憶数通知コマンドが新たに格納されているか否かを確認することにより、始動入賞時におけるコマンド受信の有無を判定すればよい。

【0179】

ステップS301にてコマンド受信がない場合には(ステップS301; No)、保留表示設定処理を終了する。一方、コマンド受信があると判定された場合には(ステップS301; Yes)、演出制御用CPU120は、受信した入賞時判定結果コマンドに応じた入賞時判定結果を特定する(ステップS302)。このときには、「入賞時判定制限中」が特定されたか否かを判定する(ステップS303)。

【0180】

「入賞時判定制限中」以外の入賞時判定結果である場合には(ステップS303; No)、演出制御用CPU120は、変化演出A及び変化演出Bの有無を決定する(ステップS304)。演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された変化演出決定テーブルを参照することなどにより、変化演出の有無を決定すればよい。変化演出Aの割合、変化演出Bの割合、及び、非実行の割合は、同一でもよいし、異なってもよい。例えば、入賞時判定結果コマンドが大当りを示す場合には、変化演出Aの割合を、変化演出Bの割合、及び、非実行の割合よりも高くし

10

20

30

40

50

、入賞時判定結果コマンドがハズレを示す場合には、変化演出 A の割合を、変化演出 B の割合、及び、非実行の割合よりも低くする等、適宜、設定可能である。なお、図 1 2 に示す保留表示データ記憶部に、変化演出 A に対応する表示変化パターン及び表示変化タイミングパターン（後述）を示すデータが既に記憶されている場合には、非実行に決定される。

【 0 1 8 1 】

続いて、演出制御用 CPU 1 2 0 は、ステップ S 3 0 4 の処理による決定結果が、変化演出 A 及び変化演出 B の双方の非実行を示す「変化演出なし」であるか否かを判定する（ステップ S 3 0 5）。

【 0 1 8 2 】

決定結果が「変化演出なし」でない場合（ステップ S 3 0 5 ; NO）、換言すれば、変化演出 A 及び変化演出 B のいずれかが決定された場合、演出制御用 CPU 1 2 0 は、予め用意された複数の表示変化パターンのいずれかに決定する（ステップ S 3 0 9）。

【 0 1 8 3 】

具体的には、変化演出 A が決定されたときには、まず、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変化演出 A の実行を示す「演出あり」と非実行を示す「演出なし」のいずれかに決定する。

【 0 1 8 4 】

図 1 4 は、変化演出 A の決定例を示している。ステップ S 3 0 9 の処理では、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば図 1 4 に示すような決定割合で、変化演出の実行を示す「演出あり」と非実行を示す「演出なし」のいずれかに決定する。図 1 4 に示す決定例では、保留番号や入賞時判定結果に応じて、変化演出 A の「演出あり」と「演出なし」との決定割合が異なっている。より具体的には、保留番号が「2」～「4」のいずれかである場合と、保留番号が「1」である場合とで、変化演出 A の「演出あり」と「演出なし」との決定割合が異なり、保留番号が「2」～「4」の場合の方が、保留番号が「1」の場合よりも「演出あり」の決定割合が高い。更に、入賞時判定結果が「ハズレ時一般」、「ハズレ時リーチ確定」、「ハズレ時スーパーリーチ確定」、「大当たり」のそれぞれの場合で、変化演出 A の「演出あり」と「演出なし」との決定割合が異なり、この順序で「演出あり」の決定割合が低くなっている。したがって、変化演出 A が実行されたときには、実行されなかったときに比べて、可変表示結果が「大当たり」となる可能性や、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行される可能性、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性などが高くなる。

【 0 1 8 5 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出 A 決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 1 2 1 に予め記憶されて用意された変化演出 A 決定テーブルを参照することなどにより、対応する保留記憶の保留番号と、入賞時判定結果とに基づいて、保留表示変化 A の「演出あり」又は「演出なし」を決定すればよい。

【 0 1 8 6 】

続いて、演出制御用 CPU 1 2 0 は、予め用意された変化演出 A の複数の表示変化パターンのいずれかに決定する。

【 0 1 8 7 】

図 1 5 は、変化演出 A の表示変化内容を示している。図 1 5 に示す例では、変化演出 A について、表示変化パターン YHP 1 - 1 ~ YHP 1 - 3、YHP 2 - 1、YHP 2 - 2、YHP 3 - 1、YHP 3 - 2 が予め用意されている。表示変化パターン YHP 1 - 1 は、1 回の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかが白 白 青の順で変化するパターン（1 段階の色の変化）を示す。表示変化パターン YHP 1 - 1 は、1 回の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかが白 白 緑の順で変化するパターン（2 段階の色の変化）を示す。表示変化パターン YHP 1 - 3 は、1 回の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかが白 青 緑の順で変化するパターン（2 段階の色の変化）を示す。表示変化パターン YHP 2 - 1 は、1 回

10

20

30

40

50

の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかが白 青 緑 緑の順で変化するパターン（２段階の色の変化）を示す。表示変化パターンＹＨＰ２－２は、１回の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかが白 青 緑 赤の順で変化するパターン（３段階の色の変化）を示す。表示変化パターンＹＨＰ３－１は、連続する２回の可変表示中に亘って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色の変化し、１回目の可変表示中は白 白 青の順、２回目の可変表示中は青 緑 赤の順で変化するパターン（１回目の１段階の色の変化と２回目の２段階の色の変化で、全体では３段階の色の変化）を示す。表示変化パターンＹＨＰ３－２は、連続する２回の可変表示中に亘って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色の変化し、１回目の可変表示中は白 青 青の順、２回目の可変表示中は青 緑 赤の順で変化するパターン（１回目の１段階の色の変化と２回目の２段階の色の変化で、全体では３段階の色の変化）を示す。

10

【 0 1 8 8 】

図 1 6 は、変化演出 A の表示変化パターンの決定例を示している。図 1 6 に示す示す例では、保留番号や入賞時判定結果に応じて、変化演出 A の表示変化パターンの決定割合が異なっている。より具体的には、保留番号が「 2 」～「 4 」のいずれかである場合と、保留番号が「 1 」である場合とで、決定可能な表示変化パターンが異なっている。表示変化パターンＹＨＰ３－１、ＹＨＰ３－２は、連続する２回の可変表示中に亘って実行されるものであるため、保留番号が「 1 」の場合には決定不能となっている。

20

【 0 1 8 9 】

更には、保留番号「 2 」、「 3 」、「 4 」の場合には、１回の可変表示中に変化演出 A が実行される表示変化パターンＹＨＰ１－１～ＹＨＰ１－３、ＹＨＰ２－１、ＹＨＰ２－２の決定割合が、連続する２回の可変表示中に亘って変化演出 A が実行される表示変化パターンＹＨＰ３－１、ＹＨＰ３－２の決定割合より高い。

【 0 1 9 0 】

また、入賞時判定結果が「大当たり」の場合と「ハズレ」の場合とで、変化演出 A の表示変化パターンの決定割合が異なっており、「大当たり」の場合には「ハズレ」の場合よりも、表示変化パターンＹＨＰ３－１、ＹＨＰ３－２の決定割合が高い。また、「大当たり」の場合には「ハズレ」の場合よりも、色の変化の段階数が多く、緑、赤に変化しやすくなっている。したがって、連続する２回の可変表示中に亘って変化演出 A が実行される時、色の変化の段階数が多いときには、それ以外の場合に比べて、可変表示結果が「大当たり」となる可能性が高くなる。

30

【 0 1 9 1 】

また、図 1 6 に示す変化演出 A における表示変化パターンの決定割合と、後述する図 2 0 に示す変化演出 A における表示変化パターンの決定割合とを比較すると、図 1 6 において、１段階の色の変化である表示変化パターンＹＨＰ１－１が決定される割合は、図 1 6 において、１段階の色の変化である表示変化パターンＹＨＰ１－１が決定される割合は、図 2 0 において、１段階の色の変化である表示変化パターンＺＨＰ１－１が決定される割合よりも低い。すなわち、変化演出 A において２段階以上の色の変化となる割合は、変化演出 B において２段階以上の色の変化となる割合よりも高い。

40

【 0 1 9 2 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出 A の表示変化パターン決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 1 2 1 に予め記憶されて用意された変化演出 A の表示変化パターン決定テーブルを参照することなどにより、変化演出 A の実行が決定された保留記憶の保留番号に基づいて、変化演出 A の表示変化パターンを決定すればよい。

【 0 1 9 3 】

一方、変化演出 B が決定されたときには、まず、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変化演出 B を実行しない場合における「変化演出なし」、あるいは変化演出 B を実行する場合における「変化演出あり（ 1 ）」または「変化演出あり（ 2 ）」のいずれかを決定する。

50

【 0 1 9 4 】

図 1 8 は、変化演出 B と表示変化有無の決定例を示している。ステップ S 3 0 9 の処理では、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば図 1 8 (A) に示すような決定割合で、「変化演出なし」、「変化演出あり (1)」、「変化演出あり (2)」のいずれかに決定する。図 1 8 (A) に示す決定例では、保留番号や入賞時判定結果に応じて、決定可能な変化演出 B の種別や決定割合が異なっている。保留番号が「 2 」～「 4 」のいずれかである場合には、入賞時判定結果に応じて異なる割合で「変化演出なし」、「変化演出あり (1)」、「変化演出あり (2)」のいずれかに決定する。保留番号が「 1 」である場合には、入賞時判定結果に応じて異なる割合で「変化演出なし」、「変化演出あり (1)」のいずれかに決定し、「変化演出あり (2)」には決定しない。入賞時判定結果が「大当り」である場合に、「変化演出なし」の決定割合が最も低くなり、「ハズレ時スーパーリーチ確定」、「ハズレ時リーチ確定」、「ハズレ時一般」の順に「変化演出なし」の決定割合が高くなる。したがって、変化演出 B が実行されたときには、実行されなかったときに比べて、可変表示結果が「大当り」となる可能性や、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行される可能性、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性などが高くなる。

10

【 0 1 9 5 】

変化演出 B の種別は、複数の変化演出パターンを保留表示の変化態様などに応じて分類したものであればよい。変化演出 B の種別のうち、「変化演出あり (1)」の演出種別は、保留表示の表示色を変化可能とする一方、「秘」などのメッセージを示す表示態様には変化しない変化演出パターンが分類されている。変化演出の種別のうち、「変化演出あり (2)」の演出種別は、保留表示の表示態様を「秘」などのメッセージを示す表示態様に変化可能な変化演出パターンが分類されている。

20

【 0 1 9 6 】

変化演出 B が決定されたときには、ステップ S 3 0 9 の処理では、演出制御用 CPU 1 2 0 は、所定の決定割合で、表示変化の有無を決定する。例えば、図 1 8 (B) に示すように、入賞時判定結果に応じて、「表示変化あり」とする決定割合が異なっている。入賞時判定結果が「大当り」である場合には、必ず (1 0 0 / 1 0 0 の決定割合で) 表示変化を行う「表示変化あり」に決定される。入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」や「ハズレ時リーチ確定」、「ハズレ時一般」のいずれかである場合には、表示変化を行わない「表示変化なし」に決定される場合があり、この順に「表示変化なし」の決定割合が高くなる。したがって、変化演出 B により保留表示の表示態様が変化したときには、変化しなかったときに比べて、可変表示結果が「大当り」となる可能性や、スーパーリーチにおけるリーチ演出が実行される可能性、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性などが高くなる。

30

【 0 1 9 7 】

なお、入賞時判定結果が「大当り」である場合に必ず「表示変化あり」に決定してしまうと、「表示変化なし」に対応して変化演出 B が実行されても保留表示の表示態様が変わらなかった場合に、予告対象となる可変表示において「大当り」とならないことが確定し、遊技興趣が減退するおそれがある。そこで、入賞時判定結果が「大当り」である場合にも、所定割合で「表示変化なし」に決定されることがあるように設定してもよい。この場合には、他の入賞時判定結果に比べて十分に低い割合で「表示変化なし」に決定されるように設定してもよい。

40

【 0 1 9 8 】

図 1 9 (A) は、変化演出 B の表示変化パターンの設定例を示している。図 1 9 (A) に示すように、この実施の形態では、変化演出 B の表示変化パターン Z H P 1 - 1 ~ Z H P 1 - 3、Z H P 2 - 1 ~ Z H P 2 - 3、Z H P 3 - 1、Z H P 1 0 ~ Z H P 1 3 が、予め用意されている。表示変化パターン Z H P 1 - 1 ~ Z H P 1 - 3、Z H P 2 - 1 ~ Z H P 2 - 3、Z H P 3 - 1 は、「変化演出あり (1)」の演出種別に分類され、保留表示の表示色を変化させる一方、「秘」などのメッセージを示す表示態様には変化させない。表示変化パターン Z H P 1 0 ~ Z H P 1 3 は、「変化演出あり (2)」の演出種別に分類さ

50

れ、保留表示の表示態様を、「秘」などのメッセージを示す表示態様に変化させることができる。このように、複数の表示変化パターンは、変化演出 B を実行した後に表示される保留表示の表示態様などに応じて、複数の演出種別のいずれかに分類されるように設定されてもよい。

【 0 1 9 9 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出 B の表示変化パターン決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 1 2 1 に予め記憶されて用意された変化演出 B の表示変化パターン決定テーブルを参照することなどにより、変化演出 B の実行が決定された保留記憶の保留番号に基づいて、変化演出 B の表示変化パターンを決定すればよい。

10

【 0 2 0 0 】

再び、図 1 3 に戻って説明する。ステップ S 3 0 9 の処理を実行した後は、演出制御用 CPU 1 2 0 は、予め用意された複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定する（ステップ S 3 1 0）。

【 0 2 0 1 】

具体的には、変化演出 A を実行するときには、演出制御用 CPU 1 2 0 は、予め用意された変化演出 A の複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定する。

【 0 2 0 2 】

図 1 7 は、変化演出 A の表示変化タイミングパターンの決定例を示している。図 1 7 に示すように、表示変化タイミングパターン T P A 0、T P A 1、T P A 2、T P A 3 が予め用意されている。表示変化タイミングパターン T P A 0 は、変化演出 A の実行が決定された保留記憶に対応する可変表示中においてアクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示が行われるタイミングで、そのアクティブ表示に対して変化演出 A におけるアクティブ表示変化演出を実行することを示す。表示変化タイミングパターン T P A 1 は、変化演出 A の実行が決定された保留記憶が保留番号「1」（保留 1）となるタイミングで、その保留記憶に対応する保留表示に対して変化演出 A における保留表示変化演出を実行することを示す。表示変化タイミングパターン T P A 2 は、変化演出 A の実行が決定された保留記憶が保留番号「2」（保留 2）となるタイミングで、その保留記憶に対応する保留表示に対して変化演出 A における保留表示変化演出を実行することを示す。表示変化タイミングパターン T P A 3 は、変化演出 A の実行が決定された保留記憶が保留番号「3」（保留 3）となるタイミングで、その保留記憶に対応する保留表示に対して変化演出 A における保留表示変化演出を実行することを示す。

20

30

【 0 2 0 3 】

図 1 7 に示す示す例では、保留番号や表示変化パターンに応じて、変化演出 A の変化演出パターンの決定割合が異なっている。より具体的には、保留番号が「1」である場合には、表示変化タイミングパターン T P A 0 のみが決定可能である。保留番号が「2」、且つ、表示変化パターン Y H P 1 - 1 ~ Y H P 1 - 3、Y H P 2 - 1、Y H P 2 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 0、T P A 1 が決定可能である。保留番号が「2」、且つ、表示変化パターン Y H P 3 - 1、Y H P 3 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 1 のみが決定可能である。保留番号が「3」、且つ、表示変化パターン Y H P 1 - 1 ~ Y H P 1 - 3、Y H P 2 - 1、Y H P 2 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 0、T P A 1、T P A 2 が決定可能である。保留番号が「3」、且つ、表示変化パターン Y H P 3 - 1、Y H P 3 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 1、T P A 2 が決定可能である。保留番号が「4」、且つ、表示変化パターン Y H P 1 - 1 ~ Y H P 1 - 3、Y H P 2 - 1、Y H P 2 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 0、T P A 1、T P A 2、T P A 3 が決定可能である。保留番号が「4」、且つ、表示変化パターン Y H P 3 - 1、Y H P 3 - 2 のいずれかの場合には、表示変化タイミングパターン T P A 1、T P A 2、T P A 3 が決定可能である。

40

【 0 2 0 4 】

50

演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出Aの表示変化タイミングパターン決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された変化演出Aの表示変化タイミングパターン決定テーブルを参照することなどにより、変化演出Aの実行が決定された保留記憶の保留番号と表示変化パターンとに基づいて、変化演出Aの表示変化タイミングパターンを決定すればよい。

【0205】

一方、変化演出Bを実行するときには、演出制御用CPU120は、予め用意された変化演出Bの複数の表示変化タイミングパターのいずれかに決定する。

【0206】

図19(B)は、変化演出Bの表示変化タイミングパターの設定例を示している。図19(B)に示すように、表示変化タイミングパターンTP0-1、TP1-1、TP1-2、TP2-1~TP2-4、TP3-1~TP3-7が、予め用意されている。各表示変化タイミングパターンは、変化演出Bにおける保留表示変化演出の実行タイミングに対応する1または複数の保留番号(図19(B)にて「1」~「3」で示す)、あるいは変化演出Bにおけるアクティブ表示変化演出の実行タイミングに対応するアクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示中(図19(B)にて「A」で示す)を指定している。図12に示す保留表示データ記憶部では、保留番号に関連付けて表示変化タイミングパターンを示すデータが記憶される。この記憶データが示す表示変化タイミングパターンで指定される保留番号と、保留データ記憶部に関連付けられた保留番号とが合致したときに、変化演出の実行条件が成立する。可変表示の開始条件が成立したことにより保留データ記憶部に保留番号「1」に対応する記憶データを消去するときに、この記憶データが示す表示変化タイミングパターンでアクティブ表示中が指定されていれば、アクティブ表示変化演出の実行条件が成立する。こうして変化演出やアクティブ表示変化演出の実行条件が成立した後、例えば飾り図柄の可変表示が開始されてから所定時間が経過したときに、変化演出やアクティブ表示変化演出の実行タイミングとなり、変化演出やアクティブ表示変化演出が実行(開始)される。

【0207】

このような表示変化パターンと表示変化タイミングパターンとの組合せにより、保留表示の表示態様として表示色を通常とは異なる特定色に変化させる変化演出と、アクティブ表示の表示態様として表示色を通常とは異なる特定色に変化させるアクティブ表示変化演出とについて、それぞれの実行の有無と実行後における表示色(特定色)などを、始動入賞が発生したときに一括して決定することができる。すなわち、この実施の形態では、表示色変化演出について、実行の有無、実行タイミング、実行内容(変化後の表示色)などを、遊技球が第1始動入賞口や第2始動入賞口を通過(進入)したときに、一括して決定することができる。

【0208】

演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される変化演出Bの表示変化タイミングパターン決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された変化演出Bの表示変化タイミングパターン決定テーブルを参照することなどにより、変化演出Bの実行が決定された保留記憶の保留番号と表示変化パターンとに基づいて、変化演出Bの表示変化タイミングパターンを決定すればよい。

【0209】

再び、図13に戻って説明する、ステップS310の後、演出制御用CPU120は、そして、ステップS309の処理による表示変化パターの決定結果や、ステップS310の処理による表示変化タイミングパターの決定結果を特定可能に示すデータを、保留表示データ記憶部に新たな始動入賞に応じた保留番号と関連付けて記憶させる(ステップS311)。図12に示す保留表示データ記憶部では、保留番号に関連付けて表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンを示すデータが記憶される。なお、変化演出A

10

20

30

40

50

の表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンを示すデータに関連付けられた保留番号よりも小さい保留番号に関連付けて変化演出 B の表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンを示すデータが記憶されている場合には、対応する変化演出 B を非実行とすべく、演出制御用 CPU 120 は、その変化演出 B の表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンを示すデータを削除する。

【0210】

ステップ S 303 にて「入賞時判定制限中」であると判定された場合や（ステップ S 303 ; Yes）、あるいはステップ S 311 の処理を実行した後は、演出制御用 CPU 120 は、始動入賞時における保留表示の更新設定を行ってから（ステップ S 312）、保留表示設定処理を終了する。例えば、第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことにより第 1 特図保留記憶数が 1 増加したときには、第 1 保留表示部 5HL での第 1 保留表示を 1 増加させるように、新たな第 1 保留表示を追加する。一方、第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことにより第 2 特図保留記憶数が 1 増加したときには、第 2 保留表示部 5HR での第 2 保留表示を 1 増加させるように、新たな第 2 保留表示を追加する。この実施の形態において、第 1 保留表示や第 2 保留表示における通常の表示態様は、丸型無地の白色表示となっている。ステップ S 312 の処理では、第 1 保留表示や第 2 保留表示の初期表示として、丸型無地の白色表示となる保留表示を追加するように更新する。

10

【0211】

このような表示変化パターンと表示変化タイミングパターンとの組合せにより、保留表示やアクティブ表示の表示態様として表示色を通常とは異なる特定色に変化させる変化演出 A 及び変化演出 B について、それぞれの実行の有無と実行後における表示色（特定色）などを、始動入賞が発生したときに一括して決定することができる。すなわち、この実施の形態では、表示色変化演出について、実行の有無、実行タイミング、実行内容（変化後の表示色）などを、遊技球が第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口を通過（進入）したときに、一括して決定することができる。

20

【0212】

図 20 は、変化演出 B の演出種別が「変化演出あり（1）」に応じた表示変化パターンの決定例を示している。変化演出 B の演出種別が「変化演出あり（1）」で入賞時判定結果が「大当り」である場合に、図 13 に示すステップ S 309 の処理では、図 20（A）に示すような決定割合で、複数の表示変化パターンのいずれかに決定する。これに対し、変化演出 B の演出種別が「変化演出あり（1）」で入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」である場合に、図 13 に示すステップ S 309 の処理では、図 20（B）に示すような決定割合で、複数の表示変化パターンのいずれかに決定する。図 20（A）および図 20（B）に示す決定例では、保留番号に応じて、決定可能な表示変化パターンや決定割合が異なっている。例えば、保留番号が「3」または「4」である場合には、所定割合で表示変化パターン ZHP3-1 に決定可能となる一方、保留番号が「1」または「2」である場合には、表示変化パターン ZHP3-1 に決定不可となる。また、保留番号が「2」～「4」のいずれかである場合には、所定割合で表示変化パターン ZHP2-1～ZHP2-3 のいずれかに決定可能となる一方、保留番号が「1」である場合には、これらの表示変化パターンに決定不可となる。

30

40

【0213】

図 19（A）に示すように、表示変化パターン ZHP3-1 は、通常の表示態様である白色表示となる保留表示を開始した後、保留表示の表示色（対応するアクティブ表示の表示色を含む）を青色、緑色、赤色の順に 3 段階で変化させる。変化演出 B における保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出は、可変表示が開始されるごとに実行条件が成立し得る。したがって、保留表示の表示色を 3 段階で変化させるためには、保留表示を開始した後に、少なくとも 3 回の可変表示が実行（開始）される必要がある。そこで、保留番号が「3」または「4」である場合には表示変化パターン ZHP3-1 に決定可能とする一方、保留番号が「1」または「2」である場合には表示変化パターン ZHP3-1 に決定不可とすることで、保留表示の表示色を確実に 3 段階で変化させることができる。表示変

50

化パターンZHP2-1~ZHP2-3は、それぞれ保留表示の表示色を2段階で変化させる。そこで、保留番号が「2」~「4」である場合には表示変化パターンZHP2-1~ZHP2-3のいずれかに決定可能とする一方、保留番号が「1」である場合にはこれらの表示変化パターンに決定不可とすることで、保留表示の表示色を確実に2段階で変化させることができる。

【0214】

また、図20(A)および図20(B)に示す決定例では、入賞時判定結果が「大当り」であるか「ハズレ時スーパーリーチ確定」であるかに応じて、表示変化パターンの決定割合が異なっている。例えば保留番号が「3」または「4」である場合に、入賞時判定結果が「大当り」であるときには、入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」であるときよりも高い割合で、表示変化パターンZHP2-2、ZHP2-3、ZHP3-1のいずれかに決定される。図19(A)に示すように、表示変化パターンZHP2-2、ZHP2-3、ZHP3-1はいずれも、保留表示の表示色が最終的に赤色となるように変化させる。このような設定により、保留表示の表示色が赤色に変化したときには、他の表示色に変化したときよりも可変表示結果が「大当り」となる可能性が高いことを示唆できる。

10

【0215】

図21は、変化演出Bの演出種別が「変化演出あり(2)」に応じた表示変化パターンの決定例を示している。変化演出Bの演出種別が「変化演出あり(2)」で入賞時判定結果が「大当り」である場合に、図13に示すステップS309の処理では、図21(A)に示すような決定割合で、複数の表示変化パターンのいずれかに決定する。これに対し、変化演出の演出種別が「変化演出あり(2)」で入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」である場合に、図13に示すステップS309の処理では、図21(B)に示すような決定割合で、複数の表示変化パターンのいずれかに決定する。図21(A)および図21(B)に示す決定例では、保留番号にかかわらず、所定割合で表示変化パターンZHP10~ZHP13のいずれかに決定される。

20

【0216】

図18(A)に示すように、保留番号が「2」~「4」のいずれかである場合には、入賞時判定結果に応じて異なる割合で「変化演出あり(2)」の演出種別に決定可能となる一方、保留番号が「1」である場合には、「変化演出あり(2)」の演出種別に決定不可となる。したがって、図13に示すステップS309の処理にて表示変化パターンZHP10~ZHP13のいずれかに決定する場合には、保留番号が「2」~「4」のいずれかとなっている。図19(A)に示すように、表示変化パターンZHP11~ZHP13は、それぞれ通常の表示態様である白色表示となる保留表示を開始した後、保留表示の表示態様を、「秘」のメッセージを示す表示態様に変化させる段階と、保留表示の表示色を、青色、緑色、赤色のいずれかに変化させる段階とからなる2段階の変化を含んでいる。表示変化パターンZHP10は、保留表示の表示態様を、1段階で「秘」のメッセージを示す表示態様に変化させる。したがって、保留番号が「2」~「4」のいずれかであれば、保留表示の表示態様を確実に2段階で変化させることができる。

30

【0217】

また、図21(A)および図21(B)に示す決定例では、入賞時判定結果にかかわらず、表示変化パターンZHP10の決定割合が、他の表示変化パターンの決定割合よりも十分に低くなるように設定されている。したがって、保留表示の表示態様が「秘」のメッセージを示す表示態様に変化した後には、さらに保留表示の表示色が青色、緑色、赤色のいずれかに変化する可能性が高くなる。こうして、保留表示の表示態様が「秘」のメッセージを示す表示態様に変化したときには、保留表示の表示態様が特定態様に変化する可能性が高いことを示唆できる。

40

【0218】

図13に示すステップS310の処理において、演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される表示変化タイミングパターン

50

決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM 121に予め記憶されて用意された表示変化タイミングパターン決定テーブルを参照することなどにより、複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定すればよい。

【0219】

図22は、入賞時判定結果が「大当り」の場合に対応した表示変化タイミングパターンの決定例を示している。図13に示すステップS310の処理では、入賞時判定結果が「大当り」の場合に、図22に示すような決定割合で、複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定する。

【0220】

図23は、入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」の場合に対応した表示変化タイミングパターンの決定例を示している。図13に示すステップS310の処理では、入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」の場合に、図23に示すような決定割合で、複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定する。

10

【0221】

図22および図23に示す決定例では、図13に示すステップS309の処理により決定された表示変化パターンや、保留番号に応じて、決定可能な表示変化タイミングパターンや決定割合が異なっている。なお、入賞時判定結果が「ハズレ時スーパーリーチ確定」の場合には、図13に示すステップS309の処理にて所定割合で「変化演出なし」に決定される。このときには、表示変化パターンが「なし」となる。

【0222】

20

図22および図23に示す決定例において、ステップS309の処理により表示変化パターンZHP1-1~ZHP1-3のいずれかに決定された場合のうち、保留番号が「4」である場合には、所定割合で表示変化タイミングパターンTP3-1に決定可能となる一方、保留番号が「1」~「3」のいずれかである場合には、表示変化タイミングパターンTP3-1に決定不可となる。図19(B)に示すように、表示変化タイミングパターンTP3-1は、保留番号が「3」のときに、表示変化タイミングとなる。変化演出Bは、可変表示が開始されるごとに実行条件が成立し得る。したがって、保留番号が「3」のときに変化演出Bを実行するためには、始動入賞が発生したときに保留番号「4」と関連付けて表示変化タイミングパターンが保留表示データ記憶部に記憶される必要がある。そこで、保留番号が「4」である場合には表示変化タイミングパターンTP3-1に決定可能とする一方、保留番号が「1」~「3」のいずれかである場合には表示変化タイミングパターンTP3-1に決定不可とすることで、保留番号が「3」のときに実行(開始)される可変表示に対応して変化演出Bを実行することができる。

30

【0223】

図23に示す決定例において、表示変化パターンが「なし」の場合には、保留番号に応じて、表示変化タイミングパターンTP1-1、TP2-1、TP3-1のいずれかに決定される。図19(B)に示すように、表示変化タイミングパターンTP1-1、TP2-1、TP3-1は、1の保留番号を表示変化タイミングとして指定する。表示変化パターンが決定されない場合は、変化演出Bが実行されても保留表示の表示態様が変わらない。したがって、1の保留表示に対する保留変化ガセ演出は、その保留表示に対応する可変表示が開始されるまでに1回実行することができる。なお、1の保留表示に対する保留変化ガセ演出を複数回実行できるように、表示変化タイミングパターンが決定されてもよい。

40

【0224】

図22および図23に示す決定例において、表示変化パターンZHP10の場合には、保留番号に応じて、表示変化タイミングパターンTP1-1、TP2-1、TP3-1のいずれかに決定される一方、保留番号にかかわらず、表示変化タイミングパターンTP0-1に決定不可となる。図19(A)に示すように、表示変化パターンZHP10は、通常の表示態様である白色表示となる保留表示を開始した後、保留表示の表示態様を、「秘」のメッセージを示す表示態様に変化させる。図19(B)に示すように、表示変化タイ

50

ミングパターン T P 0 - 1 は、表示変化タイミングとしてアクティブ表示中を指定する。このように、表示変化パターン Z H P 1 0 の場合には表示変化タイミングパターン T P 0 - 1 に決定不可とすることで、アクティブ表示変化演出が実行されたときにアクティブ表示の表示態様が「秘」のメッセージを示す表示態様には変化しないように制限を設けることができる。すなわち、「秘」のメッセージを示す表示態様は、変化演出 B における保留表示変化演出が実行された後に表示される保留表示の表示態様に含まれる一方、変化演出 B におけるアクティブ表示変化演出が実行された後にはアクティブ表示の表示態様として表示されない特殊態様となる。

【 0 2 2 5 】

図 2 4 は、可変表示開始設定処理として、図 1 1 のステップ S 1 7 1 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 2 4 に示す可変表示開始設定処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、飾り図柄の可変表示結果としての確定飾り図柄となる最終停止図柄などを決定する（ステップ S 3 2 1）。ステップ S 3 2 1 の処理として、演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から伝送された変動パターン指定コマンドで示された変動パターンや、可変表示結果通知コマンドで示された可変表示結果といった、可変表示内容に基づいて、最終停止図柄を決定する。一例として、変動パターンや可変表示結果の組合せに応じた可変表示内容には、「非リーチ（ハズレ）」、「リーチ（ハズレ）」、「非確変（大当たり）」、「確変（大当たり）」がある。

10

【 0 2 2 6 】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」の場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態にはならず、非リーチ組合せの確定飾り図柄が停止表示されて、可変表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」の場合には、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後に、リーチハズレ組合せの確定飾り図柄が停止表示されて、可変表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「非確変（大当たり）」の場合には、可変表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態の終了後における遊技状態が時短状態となる。可変表示内容が「確変（大当たり）」の場合には、可変表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態の終了後における遊技状態が確変状態となる。

20

【 0 2 2 7 】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」である場合に、演出制御用 C P U 1 2 0 は、「左」及び「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 R にて異なる（不一致の）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される左確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 に予め記憶されて用意された左確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の画面上における「左」の飾り図柄表示エリア 5 L に停止表示される左確定飾り図柄を決定する。次に、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 に予め記憶されて用意された右確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の画面上における「右」の飾り図柄表示エリア 5 R に停止表示される右確定飾り図柄を決定する。このときには、右確定図柄決定テーブルにおける設定などにより、右確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄の図柄番号とは異なるように、決定されるとよい。続いて、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R O M 1 2 1 に予め記憶されて用意された中確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置 5 の画面上における「中」の飾り図柄表示エリア 5 C に停止表示される中確定飾り図柄を決定する。

30

40

【 0 2 2 8 】

可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」である場合に、演出制御用 C P U 1 2 0 は、「左」及び「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 R にて同一の（一致する）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、乱数回路 1 2 4 または演出用ランダムカウンタなどにより更新される左右確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、R

50

OM121に予め記憶されて用意された左右確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の画面上における「左」と「右」の飾り図柄表示エリア5L、5Rにて揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。さらに、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される中確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意された中確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、確定飾り図柄のうち画像表示装置5の画面上における「中」の飾り図柄表示エリア5Cにて停止表示される中確定飾り図柄を決定する。ここで、例えば中確定飾り図柄の図柄番号が左確定飾り図柄及び右確定飾り図柄の図柄番号と同一になる場合のように、確定飾り図柄が大当り組合せとなってしまう場合には、任意の値（例えば「1」）を中確定飾り図柄の図柄番号に加算または減算することなどにより、確定飾り図柄が大当り組合せとはならずリーチ組合せとなるようにすればよい。あるいは、中確定飾り図柄を決定するときには、左確定飾り図柄及び右確定飾り図柄の図柄番号との差分（図柄差）を決定し、その図柄差に対応する中確定飾り図柄を設定してもよい。

10

20

30

40

50

【0229】

可変表示内容が「非確変（大当り）」や「確変（大当り）」である場合に、演出制御用CPU120は、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにて同一の（一致する）飾り図柄を最終停止図柄に決定する。演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新される大当り確定図柄決定用の乱数値を示す数値データを抽出する。続いて、ROM121に予め記憶されて用意された大当り確定図柄決定テーブルを参照することなどにより、画像表示装置5の画面上における「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rに揃って停止表示される図柄番号が同一の飾り図柄を決定する。このときには、可変表示内容が「非確変（大当り）」と「確変（大当り）」のいずれであるかや、大当り中昇格演出が実行されるか否かなどに応じて、通常図柄（例えば偶数を示す飾り図柄）と確変図柄（例えば奇数を示す飾り図柄）のいずれを確定飾り図柄とするかが決定されればよい。大当り中昇格演出は、画像表示装置5において大当りを想起させるが確変状態を想起させないような飾り図柄の組合せ（非確変大当り組合せ）が一旦は停止表示されてから、大当り遊技状態中や大当り遊技状態の終了時に確変状態となるか否かを報知する演出である。

【0230】

具体的な一例として、可変表示内容が「非確変（大当り）」である場合には、複数種類の通常図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。また、可変表示内容が「確変（大当り）」で大当り中昇格演出を実行しないと決定されたときには、複数種類の確変図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。これに対して、可変表示内容が「確変（大当り）」であっても大当り中昇格演出を実行すると決定されたときには、複数種類の通常図柄のうちから、確定飾り図柄となるものを決定する。これにより、確定飾り図柄として確変図柄が揃って導出表示されたにもかかわらず、大当り中昇格演出が実行されてしまうことを防止して、遊技者に不信感を与えないようにすればよい。

【0231】

ステップS321の処理では、可変表示内容が「非確変（大当り）」または「確変（大当り）」である場合に、再抽選演出や大当り中昇格演出といった確変昇格演出を実行するか否かが決定されてもよい。再抽選演出では、飾り図柄の可変表示中に同一の通常図柄からなる非確変大当り組合せの飾り図柄が一旦表示されることによって、確変状態に制御されることを一旦は認識困難または認識不能とし、飾り図柄を再び可変表示（再変動）させて同一の確変図柄からなる確変大当り組合せの飾り図柄が停止表示されることによって確変状態に制御されることを報知できる。なお、再抽選演出にて飾り図柄を再変動させた後に非確変大当り組合せの飾り図柄が停止表示されることにより、確変状態に制御されることを報知しない場合もある。ステップS321の処理にて再抽選演出を実行すると決定された場合には、再抽選演出の実行前に仮停止表示する飾り図柄の組合せなどを決定すればよい。

【0232】

ステップS321の処理における最終停止図柄などの決定に続いて、演出制御用CPU120は、変化演出Aを実行するか否かを判定する(ステップS322)。具体的には、演出制御用CPU120は、保留表示データ記憶部の記憶内容などに基づいて変化演出Aの実行条件が成立したか否かを判定する。ここでは、保留表示データ記憶部の保留番号「1」に表示変化タイミングパターンTPA0が設定されている場合、保留番号「2」に表示変化タイミングパターンTPA1が設定されている場合、保留番号「3」に表示変化タイミングパターンTPA2が設定されている場合、保留番号「4」に表示変化タイミングパターンTPA3が設定されている場合、変化演出Aの実行条件が成立したと判定される。

10

【0233】

また、保留表示データ記憶部の保留番号「1」に表示変化タイミングパターンTPA1が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「2」に表示変化タイミングパターンTPA2が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「3」に表示変化タイミングパターンTPA3が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合も、変化演出Aの実行条件が成立したと判定される。

【0234】

変化演出Aを実行する場合(ステップS322; YES)、演出制御用CPU120は、変化演出Aの設定処理を行う(ステップS322a)。

20

【0235】

図25は、図24のステップS322aにて実行される変化演出Aの設定処理の一例を示すフローチャートである。図25に示す変化演出Aの設定処理では、演出制御用CPU120は、変化演出Aにおける保留表示変化演出による保留表示や、変化演出Aにおけるアクティブ表示変化演出によるアクティブ表示を行う(ステップS551)。

【0236】

具体的には、ステップS551の処理では、演出制御用CPU120は、保留表示データ記憶部における表示変化パターンの記憶内容を特定して、その記憶内容に応じた表示態様を変化させるか否かの設定や、変化させる場合における変化後の表示態様の設定などを行う。より具体的には、演出制御用CPU120は、保留表示データ記憶部における保留番号「1」に対応する表示変化パターンに基づいてアクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示の態様を設定し、保留番号「2」に対応する表示変化パターンに基づいて保留番号「1」の保留表示の態様を設定し、保留番号「3」に対応する表示変化パターンに基づいて保留番号「2」の保留表示の態様を設定し、保留番号「4」に対応する表示変化パターンに基づいて保留番号「3」の保留表示の態様を設定する。

30

【0237】

なお、保留番号「2」に表示変化タイミングパターンTPA1が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「3」に表示変化タイミングパターンTPA2が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「4」に表示変化タイミングパターンTPA3が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合には、演出制御用CPU120は、連続する2回の可変表示中に亘る変化演出Aの1回目に対応する保留表示の態様を設定する。

40

【0238】

一方、保留表示データ記憶部の保留番号「1」に表示変化タイミングパターンTPA1が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「2」に表示変化タイミングパターンTPA2が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合、保留番号「3」に表示変化タイミングパターンTPA3が設定され、且つ、表示変化パターンがYHP3-1、YHP3-2のいずれかである場合には、演出制御用CPU120は、連続する2回の可変

50

表示中に亘る変化演出 A の 2 回目に対応する保留表示又はアクティブ表示の態様を設定する。

【 0 2 3 9 】

続いて、演出制御用 CPU 1 2 0 は、保留表示データ記憶部における記憶内容を更新する（ステップ S 5 5 2）。すなわち、演出制御用 CPU 1 2 0 は、保留表示データ記憶部にて保留番号「 1 」に対応する記憶領域の記憶データを消去するとともに、保留番号「 1 」より下位の記憶領域（保留番号「 2 」～「 4 」に対応する記憶領域）の記憶データを、1 エントリずつ上位にシフトする。

【 0 2 4 0 】

再び、図 2 4 に戻って説明する。変化演出 A を実行しない場合（ステップ S 3 2 2 ; N O）、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変化演出 B を実行するか否かを判定する（ステップ S 3 2 2 b）。具体的には、演出制御用 CPU 1 2 0 は、保留表示データ記憶部の記憶内容などに基づいて変化演出 B の実行条件が成立したか否かを判定する。

10

【 0 2 4 1 】

変化演出 B を実行する場合（ステップ S 3 2 2 b ; Y E S）、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変化演出 B の設定処理を行う（ステップ S 3 2 2 c）。

【 0 2 4 2 】

図 2 6 (A) は、図 2 4 のステップ S 3 2 2 c にて実行される変化演出 B の設定処理の一例を示すフローチャートである。図 2 6 (A) に示す変化演出 B の設定処理では、まず、演出制御用 CPU 1 2 0 は、保留表示データ記憶部における記憶内容を更新する（ステップ S 5 0 1）。すなわち、保留表示データ記憶部にて保留番号「 1 」に対応する記憶領域の記憶データを消去するとともに、保留番号「 1 」より下位の記憶領域（保留番号「 2 」～「 4 」に対応する記憶領域）の記憶データを、1 エントリずつ上位にシフトする。続いて、変化演出 B の実行タイミングである表示変化タイミングになるか否かを判定する（ステップ S 5 0 2）。ステップ S 5 0 2 の処理では、ステップ S 5 0 1 の処理により記憶内容を更新した保留表示データ記憶部に記憶されている 1 または複数の表示変化タイミングパターンについて、それぞれの表示変化タイミングパターンと関連付けられた保留番号に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいるか否かを判定する。例えば図 1 9 (B) に示す表示変化タイミングパターン T P 3 - 1 ~ T P 3 - 7 のいずれかが保留表示データ記憶部にて保留番号「 3 」と関連付けて記憶されることになったときには、保留番号「 3 」に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいることから、表示変化タイミングとなる旨の判定が行われる。表示変化タイミングパターン T P 2 - 1 ~ T P 2 - 4、T P 3 - 4、T P 3 - 6、T P 3 - 7 のいずれかが保留表示データ記憶部にて保留番号「 2 」と関連付けて記憶されることになったときには、保留番号「 2 」に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいることから、表示変化タイミングとなる旨の判定が行われる。表示変化タイミングパターン T P 1 - 1、T P 1 - 2、T P 2 - 3、T P 2 - 4、T P 3 - 3、T P 3 - 5、T P 3 - 7 のいずれかが保留表示データ記憶部にて保留番号「 1 」と関連付けて記憶されることとなったときには、保留番号「 1 」に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいることから、表示変化タイミングになる旨の判定が行われる。

20

30

【 0 2 4 3 】

ステップ S 5 0 2 にて表示変化タイミングになると判定された場合には（ステップ S 5 0 2 ; Y e s）、変化演出 B の実行設定を行う（ステップ S 5 0 3）。例えばステップ S 5 0 3 の処理では、保留表示データ記憶部における表示変化パターンの記憶内容や現状の保留表示における表示態様を特定して、表示態様を変化させるか否かの設定や、変化させる場合における変化後の表示態様の設定、保留表示変化共通演出を実行するための設定などが行われるようにすればよい。また、ステップ S 5 0 3 の処理では、アクティブ表示変化演出のうちで、表示変化パターンの決定結果に基づきアクティブ表示の表示色を変化させる表示色変化演出の実行設定が行われてもよい。この場合には、ステップ S 5 0 1 の処理にて保留表示データ記憶部から消去した記憶データに示された表示変化パターンを特定して、アクティブ表示変化演出を実行した後に表示させる表示態様の設定や、アクティブ

40

50

表示変化共通演出を実行するための設定などが行われるようにすればよい。

【0244】

ステップS502にて表示変化タイミングではないと判定された場合や(ステップS502; No)、ステップS503の処理を実行した後は、変動パターン指定コマンドで指定された変動パターンに応じて、「擬似連」の可変表示演出が実行されるか否かを判定する(ステップS504)。このとき、「擬似連」の可変表示演出が実行されると判定した場合には(ステップS504; Yes)、アクティブ表示変化演出のうちでアイコン表示変化演出を実行するか否かというアイコン表示変化演出の有無を決定する(ステップS505)。演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新されるアイコン表示変化演出決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意されたアイコン表示変化演出決定テーブルを参照することなどにより、アイコン表示変化演出の有無を決定すればよい。ステップS505の処理では、アイコン表示変化演出を実行しない「変化演出なし」、またはアイコン表示変化演出を実行する「変化演出あり」のいずれかに、決定される。

10

【0245】

ステップS504にて「擬似連」の可変表示演出が実行されないと判定した場合には(ステップS505; No)、アクティブ表示中における表示色変化演出の実行があるか否かを判定する(ステップS506)。このとき、表示色変化演出の実行があると判定された場合には(ステップS506; Yes)、変化演出設定処理を終了する。これに対し、表示色変化演出の実行がないと判定された場合には(ステップS506; No)、ステップS505の処理に進み、アイコン表示変化演出の有無を決定する。

20

【0246】

ステップS505の処理を実行した後は、決定結果が「変化演出なし」であるか否かを判定する(ステップS507)。決定結果が「変化演出なし」となる場合には(ステップS507; Yes)、変化演出設定処理を終了する。決定結果が「変化演出あり」となる場合には(ステップS507; No)、予め用意された複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定してから(ステップS508)、変化演出設定処理を終了する。

【0247】

図26(B)は、アイコン表示変化演出の決定例を示している。図26(A)に示すステップS505の処理では、例えば図26(B)に示すような決定割合で、アイコン表示変化演出の有無を決定する。図26(B)に示す決定例では、可変表示内容に応じて、「変化演出あり」とする決定割合が異なっている。例えば可変表示内容が「確変(大当り)」である場合に、「変化演出なし」の決定割合が最も低くなり、「非確変(大当り)」、「リーチ(ハズレ)」、「非リーチ(ハズレ)」の順に「変化演出なし」の決定割合が高くなる。したがって、アイコン表示変化演出が実行されたときには、実行されなかったときに比べて、大当り遊技状態の終了後に確変制御が行われる可能性や、可変表示結果が「大当り」となる可能性、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となる可能性などが高くなる。

30

【0248】

図27は、アイコン表示変化パターンの設定例を示している。ここでは、「擬似連」の可変表示が実行されない擬似連変動なしの場合と、「擬似連」の可変表示演出が実行されて擬似連変動が3回実行される場合とに対応して、予め用意された複数のアイコン表示変化パターンを示している。擬似連変動なしの場合には、図27(A)に示すように、アイコン表示変化パターンYAP1~アイコン表示変化パターンYAP3のいずれかによるアイコン表示変化演出を実行することができる。なお、アイコン表示変化演出を実行する「変化演出あり」に決定されても、アイコン表示変化パターンが決定されない場合もある。この場合には、アクティブ表示変化演出においてアクティブ表示変化共通演出を実行した後に、アクティブ表示変化失敗演出を実行することになり、アクティブ表示の表示態様が変化しない。アイコン表示変化パターンYAP1~アイコン表示変化パターンYAP3は、アクティブ表示部AHAに表示されるアイコンを、それぞれ「?」、「チャンス」、「

40

50

激熱」のメッセージを報知する特定アイコンに変化させる。

【0249】

擬似連変動3回の場合には、図27(B)に示すように、アイコン表示変化パターンYDP1-1~アイコン表示変化パターンYDP1-4、アイコン表示変化パターンYDP2-1~アイコン表示変化パターンYDP2-4、アイコン表示変化パターンYDP3-1~アイコン表示変化パターンYDP3-4のいずれかによるアイコン表示変化演出を実行することができる。「擬似連」の可変表示演出が実行される場合には、初回変動と各回の擬似連変動に対応してアイコン表示変化演出を実行する。これにより、飾り図柄の可変表示が開始されてから表示結果となる確定飾り図柄が導出されるまでに、複数回のアクティブ表示変化演出を実行して、アクティブ表示の表示態様を変化させることができる。なお、図13に示された保留表示設定処理のステップS310にてアクティブ表示中に表示変化させる表示変化タイミングパターンが決定された場合には、初回変動で表示色変化演出を実行する場合がある。

10

【0250】

図27(B)に示す設定例において、「NEXT」のメッセージを報知するアイコンは、「擬似連」の可変表示演出が実行される場合にのみ、アクティブ表示変化演出が実行された後に表示されるアクティブ表示の表示態様となる。さらに、「NEXT」のメッセージを報知するアイコンは、図27(B)に示す設定例の擬似連変動3回目といった、「擬似連」の可変表示演出が実行される場合の最終変動でアクティブ表示変化演出が実行された後にはアクティブ表示の表示態様として表示されない表示態様となる。すなわち、「NEXT」のメッセージを報知するアイコンは、「擬似連」の可変表示演出にて飾り図柄が一旦仮停止(擬似連変動)する以前の可変表示中にアクティブ表示変化演出が実行された後に表示可能なアクティブ表示の表示態様に含まれる一方、所定回の擬似連変動が行われた後の可変表示中にアクティブ表示変化演出が実行された後にはアクティブ表示の表示態様として表示されない表示態様となる。

20

【0251】

図27(A)および図27(B)に示す設定例において、「?」、「チャンス」、「激熱」、「NEXT」などのメッセージを報知するアイコンは、変化演出Bにおけるアクティブ表示変化演出が実行された後に表示されるアクティブ表示の表示態様に含まれる一方、変化演出Bにおける保留表示変化演出が実行された後には保留表示の表示態様として表示されない特殊態様となる。

30

【0252】

図28は、アイコン表示変化パターンの決定例を示している。図26(A)に示すステップS508の処理において、演出制御用CPU120は、乱数回路124または演出用ランダムカウンタなどにより更新されるアイコン表示変化パターン決定用の乱数値を示す数値データを抽出し、ROM121に予め記憶されて用意されたアイコン表示変化パターン決定テーブルを参照することなどにより、複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定すればよい。

【0253】

「擬似連」の可変表示演出が実行されない擬似連変動なしの場合には、図26(A)に示すステップS508の処理により、図28(A)に示すような決定割合で、複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定する。これに対し、「擬似連」の可変表示演出において擬似連変動が3回実行される擬似連変動3回の場合には、図26(A)に示すステップS508の処理により、図28(B)に示すような決定割合で、複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定する。図28(A)および図28(B)に示す決定例では、可変表示内容に応じて、決定可能なアイコン表示変化パターンや決定割合が異なっている。例えば図28(A)に示す決定例において、可変表示内容が「非確変(大当たり)」または「確変(大当たり)」である場合には、アイコン表示変化パターンYAP3に決定可能となる一方、可変表示内容が「非リーチ(ハズレ)」または「リーチ(ハズレ)」である場合には、アイコン表示変化パターンYAP3に決定不可となる。また、可変表示内容が

40

50

「非確変（大当り）」または「確変（大当り）」である場合には、所定割合でアイコン表示変化パターンYAP1～アイコン表示変化パターンYAP3のいずれかに決定される一方、可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」または「リーチ（ハズレ）」である場合には、所定割合でアイコン表示変化パターンが「なし」となる。

【0254】

このような設定により、擬似連変動なしの場合に、アクティブ表示変化演出が実行され、アイコン表示変化パターンYAP3により変化後の表示態様として「激熱」のメッセージを報知する表示態様が表示されたときには、アクティブ表示に対応する今回の可変表示において可変表示結果が「大当り」となることが確定する。また、擬似連変動なしの場合に、アクティブ表示変化演出が実行され、アイコン表示変化パターンが「なし」に対応してアクティブ表示の表示態様が変化しないアクティブ変化ガセ演出となったときには、アクティブ表示に対応する今回の可変表示において可変表示結果が「大当り」にはならず「ハズレ」となることが確定する。

10

【0255】

なお、アクティブ表示変化演出が実行された後に表示されるアクティブ表示の表示態様に応じて、アクティブ表示に対応する今回の可変表示において可変表示結果が「大当り」となることや「ハズレ」となることが確定してしまうと、可変表示が終了するまでの遊技興趣が減退するおそれがある。そこで、例えば可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」または「リーチ（ハズレ）」の場合にも、所定割合でアイコン表示変化パターンYAP3に決定されることがあるように設定してもよい。この場合には、可変表示内容が「非確変（大当り）」や「確変（大当り）」の場合に比べて十分に低い割合でアイコン表示変化パターンYAP3に決定されるように設定してもよい。また、例えば可変表示内容が「非確変（大当り）」または「確変（大当り）」の場合にも、所定割合でアイコン表示変化パターンが「なし」に決定されるように設定してもよい。この場合には、可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」や「リーチ（ハズレ）」の場合に比べて十分に低い割合でアイコン表示変化パターンが「なし」に決定されるように設定してもよい。

20

【0256】

図26(A)に示すステップS508の処理にてアイコン表示変化パターンが「なし」に決定される割合は、ステップS309にて「表示変化なし」に決定される割合よりも低くなるように設定されている。例えば、入賞時判定結果が「ハズレ時一般」の場合に20/100の割合で「表示変化あり」に決定される。すなわち、この場合には、80/100の割合で「表示変化なし」に決定される。これに対し、例えば図28(A)に示すように、ステップS508の処理では、可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」の場合に5/100の割合でアイコン表示変化パターンが「なし」に決定される。ステップS309にて「表示変化なし」に決定された場合には保留変化ガセ演出が実行され、ステップS508にてアイコン表示変化パターンが「なし」に決定された場合にはアクティブ変化ガセ演出が実行される。このような設定により、アクティブ表示変化演出が実行された後にアクティブ表示の表示態様が変化しないアクティブ変化ガセ演出が実行される割合は、保留表示変化演出が実行された後に保留表示の表示態様が変化しない保留変化ガセ演出が実行される割合よりも低くなる。したがって、保留表示変化演出において第1成功演出となる保留表示変化成功演出が実行される割合よりも高い割合で、アクティブ表示変化演出において第2成功演出となるアクティブ表示変化成功演出を実行することができる。

30

40

【0257】

図19(B)に示された複数の表示変化タイミングパターンのうち、表示変化タイミングパターンTP0-1、TP1-2、TP2-2、TP2-4、TP3-2、TP3-5、TP3-6に決定された場合には、アクティブ表示中に表示変化タイミングとなり、アクティブ表示の表示態様として表示色を特定色に変化させる表示色変化演出となるアクティブ表示変化演出が実行される。図13に示すステップS310の処理では、これらのアクティブ表示中に表示変化タイミングとなる表示変化タイミングパターンの決定割合が、アクティブ表示中に保留変化タイミングとならない表示変化タイミングパターンの決定割

50

合よりも低くなるように設定された決定テーブルを用いて、いずれかの表示変化タイミングパターンに決定されてもよい。図26(A)に示すステップS506の処理では、アクティブ表示中に表示色変化演出の実行があると判定すると、ステップS505の処理には進まず、アイコン表示変化演出を実行しないように制限する。そのため、アクティブ表示中に表示色変化演出が実行される割合が高くなると、アイコン表示変化演出が実行されにくくなってしまふおそれがある。そこで、アクティブ表示中に表示変化タイミングとなる表示変化タイミングパターンの決定割合を低下させることで、アイコン表示変化演出が実行される割合を高められるようにしてもよい。

【0258】

図26(A)に示すステップS506にてアクティブ表示中に表示色変化演出の実行があると判定された場合には、ステップS505の処理に進むことなく変化演出設定処理を終了することで、アイコン表示変化演出が実行されないように制限する。これにより、表示色変化演出となるアクティブ表示変化演出と、アイコン表示変化演出となるアクティブ表示変化演出とが、重複して実行されることがないようにして、複雑な演出の防止により、遊技興趣を向上させることができる。

【0259】

再び、図24に戻って説明する。ステップS322a、ステップS322cの後、あるいは、ステップS322bにおいて変化演出Bが実行されないと判定された場合(ステップS322b; NO)、演出制御用CPU120は、演出制御パターンを予め用意された複数パターンのいずれかに決定する(ステップS323)。例えば、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドで示された変動パターンなどに対応して、複数用意された演出制御パターン(特図変動時演出制御パターン)のいずれかを選択し、使用パターンとしてセットする。また、演出制御用CPU120は、変化演出A、変化演出Bの実行設定に対応して、複数用意された演出制御パターン(表示変化演出制御パターン)のいずれかを選択し、使用パターンとしてセットする。

【0260】

ステップS323の処理に続いて、例えば変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応して、RAM122の所定領域(演出制御タイマ設定部など)に設けられた演出制御プロセスタイマの初期値を設定する(ステップS324)。そして、画像表示装置5の画面上にて飾り図柄などの変動を開始させるための設定を行う(ステップS325)。このときには、例えばステップS323の処理にて決定された演出制御パターン(特図変動時演出制御パターン)に含まれる表示制御データが指定する表示制御指令を表示制御部123のVDPに対して伝送させることなどにより、画像表示装置5の表示領域に設けられた「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにて飾り図柄の変動を開始させればよい。

【0261】

ステップS325の処理を実行した後は、飾り図柄の可変表示が開始されることに伴って、第1保留表示部5HLにおける第1保留表示や第2保留表示部5HRにおける第2保留表示などを更新するための設定を行う(ステップS326)。例えば、第1特図を用いた特図ゲームが実行(開始)される場合には、第1保留表示部5HLにおいて、保留番号が「1」に対応した表示部位(左端の表示部位)を消去(消化)するとともに、他の保留番号「2」~「4」に対応した表示部位における第1保留表示を1つずつ左方向に移動(シフト)させる。一方、第2特図を用いた特図ゲームが実行(開始)される場合には、第2保留表示部5HRにおいて、保留番号が「1」に対応した表示部位(右端の表示部位)を消去(消化)するとともに、他の保留番号「2」~「4」に対応した表示部位における第2保留表示を1つずつ右方向に移動(シフト)させる。また、ステップS326の処理では、アクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示を更新するための設定も行われる。例えば第1保留表示部5HLにて保留番号「1」に対応した第1保留表示が消去(消化)されたときには、その消去(消化)された第1保留表示と同様のアクティブ表示をアクティブ表示部AHAにて開始させる。一方、第2保留表示部5HRにて保留番号「1

10

20

30

40

50

」に対応した第2保留表示が消去（消化）されたときには、その消去（消化）された第2保留表示と同様のアクティブ表示をアクティブ表示部A H Aにて開始させる。その後、演出プロセスフラグの値を可変表示中演出処理に対応した値である“2”に更新してから（ステップS 3 2 7）、可変表示開始設定処理を終了する。

【0262】

図29は、可変表示中演出処理として、図11のステップS 1 7 2にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図29に示す可変表示中演出処理では、まず、演出制御用CPU120は、例えば演出制御プロセスタイマのタイマ値などに基づいて、変動パターンに対応した可変表示時間が経過したか否かを判定する（ステップS 3 4 1）。一例として、ステップS 3 4 1の処理では、演出制御プロセスタイマのタイマ値を更新（例えば1減算）し、更新後の演出制御プロセスタイマ値に対応して演出制御パターンから終了コードが読み出されたときなどに、可変表示時間が経過したと判定すればよい。

10

【0263】

ステップS 3 4 1にて可変表示時間が経過していない場合には（ステップS 3 4 1 ; N o）、演出制御用CPU120は、変化演出Aを実行するための変化演出期間であるか否かを判定する（ステップS 3 4 1 a）。変化演出Aを実行するための変化演出期間は、例えば図24に示すステップS 3 2 3の処理にて決定された演出制御パターン（表示変化演出制御パターン）において、予め定められていればよい。変化演出Aを実行するための変化演出期間である場合には（ステップS 3 4 1 a ; Y e s）、演出制御用CPU120は、変化演出Aを実行するための制御を行う（ステップS 3 4 1 b）。ステップS 3 4 3の処理では、表示変化演出制御パターンの設定に基づいて作成した各種指令を、表示制御部123や音声制御基板13、ランプ制御基板14などに対して伝送させる。これにより、画像表示装置5の画面上に所定の演出画像を表示させることや、スピーカ8 L、8 Rから所定の効果音を出力させること、遊技効果ランプ9および装飾用LEDを点灯または点滅または消灯させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、所定の演出装置にて変化演出Aを実行できればよい。

20

【0264】

一方、変化演出Aを実行するための変化演出期間でない場合には（ステップS 3 4 1 a ; N O）、演出制御用CPU120は、変化演出Bを実行するための変化演出期間であるか否かを判定する（ステップS 3 4 2）。変化演出Bを実行するための変化演出期間は、例えば図24に示すステップS 3 2 3の処理にて決定された演出制御パターン（表示変化演出制御パターン）において、予め定められていればよい。変化演出Bを実行するための変化演出期間である場合には（ステップS 3 4 2 ; Y e s）、演出制御用CPU120は、変化演出Bを実行するための制御を行う（ステップS 3 4 3）。ステップS 3 4 3の処理では、表示変化演出制御パターンの設定に基づいて作成した各種指令を、表示制御部123や音声制御基板13、ランプ制御基板14などに対して伝送させる。これにより、画像表示装置5の画面上に所定の演出画像を表示させることや、スピーカ8 L、8 Rから所定の効果音を出力させること、遊技効果ランプ9および装飾用LEDを点灯または点滅または消灯させること、あるいは、これらの一部または全部を組み合わせることで、所定の演出装置にて変化演出における保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出を実行するための制御が行われればよい。

30

40

【0265】

ステップS 3 4 1 bの処理を実行した後や、ステップS 3 4 2にて変化演出Bの演出期間ではないと判定されたとき（ステップS 3 4 2 ; N o）、ステップS 3 4 3の処理を実行した後には、演出制御用CPU120は、リーチ演出を実行するためのリーチ演出期間であるか否かを判定する（ステップS 3 4 6）。リーチ演出期間は、例えば変動パターンに応じて決定された演出制御パターンにおいて、予め定められていればよい。ステップS 3 4 6にてリーチ演出期間であると判定されたときには（ステップS 3 4 6 ; Y e s）、リーチ演出を実行するための制御が行われる（ステップS 3 4 7）。

【0266】

50

ステップS 3 4 6にてリーチ演出期間ではないと判定されたときや(ステップS 3 4 6 ; N o)、ステップS 3 4 7の処理を実行した後は、例えば変動パターンに対応して決定された演出制御パターンにおける設定などに基づいて、その他、飾り図柄の可変表示動作を含めた可変表示中における演出を実行するための制御が行われる(ステップS 3 4 8)。

【0267】

ステップS 3 4 1にて可変表示時間が経過した場合には(ステップS 3 4 1 ; Y e s)、主基板11から伝送される図柄確定コマンドの受信があったか否かを判定する(ステップS 3 4 9)。このとき、図柄確定コマンドの受信がなければ(ステップS 3 4 9 ; N o)、可変表示中演出処理を終了して待機する。なお、可変表示時間が経過した後、図柄確定コマンドを受信することなく所定時間が経過した場合には、図柄確定コマンドを正常に受信できなかったことに対応して、所定のエラー処理が実行されるようにしてもよい。

10

【0268】

ステップS 3 4 9にて図柄確定コマンドの受信があった場合には(ステップS 3 4 9 ; Y e s)、例えば表示制御部123のVDP等に対して所定の表示制御指令を伝送させることといった、飾り図柄の可変表示において表示結果となる最終停止図柄(確定飾り図柄)を導出表示させる制御を行う(ステップS 3 5 0)。このときには、当り開始指定コマンド受信待ち時間として予め定められた一定時間を設定する(ステップS 3 5 1)。また、演出プロセスフラグの値を特図当り待ち処理に対応した値である“3”に更新してから(ステップS 3 5 2)、可変表示中演出処理を終了する。

20

【0269】

以下、パチンコ遊技機1における具体的な制御の一例について説明する。

【0270】

パチンコ遊技機1では、例えば遊技領域に打ち込まれた遊技球が第1始動入賞口や第2始動入賞口を通過(進入)して第1始動入賞や第2始動入賞といった始動入賞が発生した後、特別図柄や飾り図柄の可変表示の開始を許容する開始条件の成立に基づいて、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bによる特図ゲームにおいて特別図柄の可変表示が開始される。画像表示装置5の画面上では、特別図柄の可変表示に同期して、飾り図柄の可変表示が行われる。

【0271】

30

遊技球が第1始動入賞口を通過(進入)したことによる第1始動入賞の発生に基づいて第1始動条件が成立したときには、図4に示すステップS 2 0 3、S 2 0 7の処理が実行されることにより、第1特図保留記憶数が1加算される。遊技球が第2始動入賞口を通過(進入)したことによる第2始動入賞の発生に基づいて第2始動条件が成立したときには、図4に示すステップS 2 0 6、S 2 0 7の処理が実行されることにより、第2特図保留記憶数が1加算される。このときには、ステップS 2 0 9の処理により特図表示結果決定用の乱数値MR1、大当り種別決定用の乱数値MR2、変動パターン決定用の乱数値MR3を示す数値データが抽出される。そして、ステップS 2 1 2にて図5に示すような入賞時乱数値判定処理を実行することにより、可変表示結果が「大当り」になるか否かなどの可変表示内容を判定して、入賞時判定結果を示す入賞時判定結果コマンドが、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

40

【0272】

図13に示すステップS 3 0 1では、入賞時判定結果コマンドを含めた始動入賞時に伝送される演出制御コマンドの受信があったか否かが判定される。そして、コマンド受信があると判定された場合には、ステップS 3 0 2の処理にて特定した入賞時判定結果に基づいて、ステップS 3 0 4の処理により変化演出A、変化演出Bの有無が決定される。このとき、変化演出A、変化演出Bを実行することに決定されると、ステップS 3 0 9の処理により表示変化パターンを決定し、ステップS 3 1 0の処理により表示変化タイミングパターンが決定される。表示変化パターンや表示変化タイミングパターンの決定結果は、ステップS 3 1 1の処理により、保留表示データ記憶部にて保留番号と関連付けて記憶され

50

る。

【0273】

開始条件の成立に基づいて特図ゲームや飾り図柄の可変表示が開始されるときには、図3に示すステップS111にて図8に示すような変動パターン設定処理を実行することにより、複数の変動パターンのいずれかを決定して、決定された変動パターンを特定可能に示す変動パターン指定コマンドが、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

【0274】

図24に示すステップS321では、変動パターン指定コマンドに示された変動パターンなどに基づいて最終停止図柄などが決定され、続いてステップS322aの変化演出Aの設定処理として、図25に示すような処理が設定され、変化演出Bの設定処理として、図26(A)に示すような処理が実行される。

【0275】

図30は、変化演出Aが実行される場合であって、図13に示すステップS309の処理により表示変化パターンがYHP1-3に決定され、ステップS310の処理により表示変化タイミングパターンがTPA3に決定された場合における変化演出の実行例を示している。この実行例では、図30(A)に示すように、第1保留表示部5HLにおいて保留番号が「1」～「3」に対応した白色の保留表示が行われ、アクティブ表示部AHAにおいて今回の可変表示に対応する白色のアクティブ表示が行われている。

【0276】

次に、図30(B)に示すように、表示変化パターンがYHP1-3、表示変化タイミングパターンがTPA3であることに対応して、キャラクタCHが、保留番号「3」に対応する保留表示に対して青色のビームBM1を照射する態様となる。その後、図30(C)、図30(D1)に示すように、保留番号「3」に対応する保留表示において白色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である青色の領域に変化する。

【0277】

更に、図30(E1)に示すように、保留番号「3」に対応する保留表示において領域全体が青色になるとともに、保留番号「3」に対応する保留表示において2回目の色の変化が生じることを示唆する「もう1回」の文字TXが表示される。続いて、図30(F1)に示すように、キャラクタCHが、保留番号「3」に対応する保留表示に対して緑色のビームBM2を照射し、保留番号「3」に対応する保留表示において青色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である緑色の領域に変化し、図30(G1)に示すように、保留番号「3」に対応する保留表示において領域全体が緑色になる。

【0278】

図31は、変化演出Aが実行される場合であって、図13に示すステップS309の処理により表示変化パターンがYHP1-3に決定され、ステップS310の処理により表示変化タイミングパターンがTPA0に決定された場合における変化演出の実行例を示している。この実行例では、図31(A)に示すように、第1保留表示部5HLにおいて保留番号が「1」～「3」に対応した白色の保留表示が行われ、アクティブ表示部AHAにおいて今回の可変表示に対応する白色のアクティブ表示が行われている。

【0279】

次に、図31(B)に示すように、表示変化パターンがYHP1-3、表示変化タイミングパターンがTPA0であることに対応して、キャラクタCHが、アクティブ表示に対して青色のビームBM1を照射する態様となる。その後、図31(C)、図31(D1)に示すように、アクティブ表示において白色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である青色の領域に変化する。

【0280】

更に、図31(E1)に示すように、アクティブ表示において領域全体が青色になるとともに、アクティブ表示において2回目の色の変化が生じることを示唆する「もう1回」の文字TXが表示される。続いて、図31(F1)に示すように、キャラクタCHが、

10

20

30

40

50

アクティブ表示に対して緑色のビーム B M 2 を照射し、アクティブ表示において青色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である緑色の領域に変化し、図 3 1 (G 1) に示すように、アクティブ表示において領域全体が緑色になる。

【 0 2 8 1 】

図 3 2 は、変化演出 A が実行される場合であって、図 1 3 に示すステップ S 3 0 9 の処理により表示変化パターンが Y H P 1 - 2 に決定され、ステップ S 3 1 0 の処理により表示変化タイミングパターンが T P A 3 に決定された場合における変化演出の実行例を示している。この実行例では、図 3 2 (A) に示すように、第 1 保留表示部 5 H L において保留番号が「 1 」～「 3 」に対応した白色の保留表示が行われ、アクティブ表示部 A H A において今回の可変表示に対応する白色のアクティブ表示が行われている。

10

【 0 2 8 2 】

次に、図 3 2 (B) に示すように、表示変化パターンが Y H P 1 - 2、表示変化タイミングパターンが T P A 3 であることに対応して、キャラクタ C H が、保留番号「 3 」に対応する保留表示に対して青色のビーム B M 1 を照射する態様となる。その後、図 3 2 (C)、図 3 2 (D 2) に示すように、保留番号「 3 」に対応する保留表示において白色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である青色の領域に変化する。

【 0 2 8 3 】

更に、図 3 2 (E 2) に示すように、いわゆるガセの色変化となり、保留番号「 3 」に対応する保留表示において領域全体が白色に戻るとともに、保留番号「 3 」に対応する保留表示において 2 回目の色の変化が生じることを示唆する「もう 1 回」の文字 T X が表示される。続いて、図 3 2 (F 2) に示すように、キャラクタ C H が、保留番号「 3 」に対応する保留表示に対して緑色のビーム B M 2 を照射し、保留番号「 3 」に対応する保留表示において白色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である緑色の領域に変化し、図 3 2 (G 2) に示すように、保留番号「 3 」に対応する保留表示において領域全体が緑色になる。

20

【 0 2 8 4 】

図 3 3 は、図 1 3 に示すステップ S 3 1 0 の処理により表示変化タイミングパターン T P 3 - 1 に決定された場合における変化演出 B の実行例を示している。この実行例では、図 3 3 (A) に示すように、第 1 保留表示部 5 H L において保留番号が「 1 」～「 4 」に対応した保留表示が行われ、アクティブ表示部 A H A において今回の可変表示に対応するアクティブ表示が行われている。第 1 保留表示部 5 H L における保留表示のうち、保留番号「 3 」(右端から 3 番目)の保留表示は、図 1 3 に示すステップ S 3 0 9 の処理にて、変化演出 B の種別が「変化演出あり(1)」に決定されたものとする。図 1 9 (B) に示すように、表示変化タイミングパターン T P 3 - 1 は保留番号が「 3 」のときに表示変化タイミングとなる。これにより、例えば図 3 3 (B) に示すように、キャラクタ C H 1 の演出画像が保留番号「 3 」の保留表示に作用するような作用演出を含む保留表示変化共通演出が実行される。そして、図 1 3 に示すステップ S 3 0 9 の処理にて「表示変化あり」に決定されているとともに表示変化パターン Z H P 1 - 1 に決定されている場合には、図 3 3 (C 1) に示すように、保留表示の表示態様として表示色が特定色のうち青色に変化する保留表示変化成功演出が実行される。これに対し、図 1 3 に示すステップ S 3 0 9 の処理にて「表示変化なし」に決定されていた場合には、図 3 3 (C 2) に示すように、保留表示の表示態様が変化しない保留表示失敗演出(保留変化ガセ演出)が実行される。

30

40

【 0 2 8 5 】

図 3 4 は、アクティブ表示中における表示色変化演出やアイコン表示変化演出の実行例を示している。この実行例では、図 3 4 (A) に示すような飾り図柄の可変表示が開始された後、例えば図 3 4 (B) に示すように、キャラクタ C H 1 の演出画像がアクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示に作用するような作用演出を含むアクティブ表示変化共通演出が実行される。図 3 4 (B) に示すアクティブ表示変化共通演出は、作用対象が保留表示であるかアクティブ表示であるかという点で相違するものの、キャラクタ C H 1 の演出画像が作用するような作用演出を含んでいることなどにおいて、図 3 3 (B) に示

50

された保留表示変化共通演出と共通する演出態様となっている。アクティブ表示に対応して、図13に示すステップS309の処理にて表示変化パターンZHP1-1に決定されているとともにステップS310の処理にて表示変化タイミングパターンTP0-1に決定されている場合には、図34(C1)に示すように、アクティブ表示の表示態様として表示色が特定色のうち青色に変化するアクティブ表示変化成功演出が実行される。これに対し、図26(A)に示すステップS505の処理にて「変化演出あり」に決定されるとともにステップS508の処理にてアイコン表示変化パターンYAP2に決定されていた場合には、図34(C2)に示すように、アクティブ表示の表示態様が「チャンス」のメッセージを報知する表示態様に変化するアクティブ表示変化成功演出が実行される。

【0286】

図35は、1の保留表示に対応して複数回の変化演出が実行される演出実行例を示している。この実行例では、第1保留表示部5HLにおける保留表示のうち、保留番号「3」の保留表示に対応して、図13に示すステップS309の処理により表示変化パターンZHP12に決定されているとともにステップS310の処理により表示変化タイミングパターンTP3-3に決定されている。図19(B)に示すように、表示変化タイミングパターンTP3-3は、保留番号「3」と保留番号「1」のときに表示変化タイミングとなる。したがって、図35(A)に示すような飾り図柄の可変表示が開始されるときには、図26(A)に示すステップS502の処理により表示変化タイミングであると判定される。そこで、ステップS503の処理による実行設定に基づいて、例えば図35(B)に示すような保留表示変化共通演出が実行される。図35(B)に示す演出が実行された後には、保留番号「3」に対応する保留表示の表示態様が、図35(C)に示すような「秘」のメッセージを示す表示態様に変化する。その後、図35(D)に示すように、飾り図柄の最終停止図柄が停止表示されることで、可変表示が終了する。

【0287】

図35(D)に示すような可変表示の終了に続いて、図35(E)に示すような飾り図柄の可変表示が開始される。このとき、図26(A)に示すステップS501の処理により、保留表示データ記憶部では、表示変化パターンZHP12や表示変化タイミングパターンTP3-3を示す記憶データが移動(シフト)して、保留番号「2」と関連付けて記憶される。表示変化タイミングパターンTP3-3は保留番号「2」に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいないことから、ステップS502にて表示変化タイミングではないと判定される。そのため、変化演出Bが実行されることなく、図35(F)に示すように、飾り図柄の最終停止図柄が停止表示されることで、可変表示が終了する。

【0288】

図35(F)に示すような可変表示の終了に続いて、図35(G)に示すような飾り図柄の可変表示が開始される。このとき、図26(A)に示すステップS501の処理により、保留表示データ記憶部では、表示変化パターンZHP12や表示変化タイミングパターンTP3-3を示す記憶データが移動(シフト)して、保留番号「1」と関連付けて記憶される。表示変化タイミングパターンTP3-3は保留番号「1」に合致する表示変化タイミングの指定を含んでいることから、ステップS502にて表示変化タイミングであると判定される。そこで、ステップS503の処理による実行設定に基づいて、例えば図35(H)に示すような保留表示変化共通演出が実行される。こうした保留表示変化共通演出が実行された後には、図35(I)に示すように、保留番号「1」に対応する保留表示の表示態様として表示色が特定色のうち緑色に変化する保留表示変化成功演出が実行される。

【0289】

図36は、擬似連変動3回の場合における変化演出Bやアイコン表示変化演出の実行例を示している。この実行例では、飾り図柄の可変表示が開始されるときに、図36(A)に示すように、アクティブ表示部AHAにて表示色が特定色のうち緑色となるアクティブ表示が行われるものとする。このアクティブ表示に対応して、図13に示すステップS309の処理により表示変化パターンZHP2-3または表示変化パターンZHP3-1に

10

20

30

40

50

決定されているとともにステップS 3 1 0の処理によりアクティブ表示中の表示変化タイミングを含む表示変化タイミングパターンが決定されている。図3 6 (A)に示すアクティブ表示に対応する可変表示が開始されるときには、図2 6 (A)に示すステップS 5 0 1の処理により、保留表示データ記憶部に保留番号「1」に対応する記憶データが消去(消化)される。このとき消去した記憶データに示された表示変化タイミングパターンに応じて、ステップS 5 0 2にてアクティブ表示中における表示変化タイミングであると判定される。また、ステップS 5 0 4の処理により「擬似連」の可変表示演出の実行があると判定されたことに基づいて、ステップS 5 0 5の処理により「変化演出あり」に決定されるとともにステップS 5 0 8の処理により図2 7 (B)に示すアイコン表示変化パターンY D P 2 - 4に決定される。

10

【0 2 9 0】

図3 6 (A)に示す可変表示が開始された後には、図2 6 (A)に示すステップS 5 0 3の処理による実行設定に基づいて、例えば図3 6 (B)に示すようなアクティブ表示変化演出が実行される。このアクティブ表示変化演出は、表示色変化演出として実行され、図3 6 (C)に示すように、アクティブ表示の表示態様として表示色が特定色のうち赤色に変化する。図3 6 (C)に示す飾り図柄は擬似連チャンス目として予め定められた組合せとなっており、可変表示を一旦仮停止した後に再開させて1回目の擬似連変動が実行される。このときには、アイコン表示変化パターンY D P 2 - 4に応じて、例えば図3 6 (D)に示すようなアクティブ表示変化演出が実行される。このアクティブ表示変化演出は、アイコン表示変化演出として実行され、図3 6 (E)に示すように、アクティブ表示の表示態様が「NEXT」のメッセージを報知する表示態様に変化する。

20

【0 2 9 1】

図3 6 (E)に示す飾り図柄は擬似連チャンス目として予め定められた組合せとなっており、2回目の擬似連変動が実行される。このときには、アイコン表示変化パターンY D P 2 - 4に応じて、例えば図3 6 (F)に示すようなアクティブ表示変化演出が実行される。このアクティブ表示変化演出は、アイコン表示変化演出として実行され、図3 6 (G)に示すように、アクティブ表示の表示態様が「チャンス」のメッセージを報知する表示態様に変化する。図3 6 (G)に示す飾り図柄は擬似連チャンス目として予め定められた組合せとなっており、3回目の擬似連変動(最終変動)が実行される。このときには、アイコン表示変化パターンY D P 2 - 4に応じて、例えば図3 6 (H)に示すようなアクティブ表示変化演出のうちアクティブ表示変化共通演出と、図3 6 (I)に示すようなアクティブ表示変化演出のうちアクティブ表示変化成功演出とが実行され、アクティブ表示の表示態様が「激熱」のメッセージを報知する表示態様に変化する。その後、例えば図3 6 (J)に示すように飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったことに基づいて、ノーマルリーチまたはスーパーリーチにおけるリーチ演出が実行される。そして、例えば図3 6 (K)に示すような大当たり組合せの最終停止図柄が導出表示されてもよい。

30

【0 2 9 2】

なお、アクティブ表示は、可変表示が終了するまで継続して表示されるものに限定されず、例えば可変表示が開始されてから予め定められた表示消去条件が成立したときに、消去されるようにしてもよい。一例として、飾り図柄の可変表示状態がリーチ状態となったときに、表示消去条件が成立することで、アクティブ表示が消去されるようにしてもよい。

40

【0 2 9 3】

図1 3に示すステップS 3 0 9の処理では、所定割合で「変化演出あり(2)」の演出種別に決定し、この決定結果に応じて、図1 9 (A)に示すような表示変化パターンZ H P 1 0 ~ Z H P 1 3のいずれかに決定される。これらの表示変化パターンにより変化演出Bにおいて保留表示変化演出が実行されたときには、保留表示の表示態様が、通常の表示態様である白色表示から「秘」のメッセージを示す表示態様に変化する。「秘」のメッセージを示す表示態様は、表示変化タイミングパターンの設定などにより、アクティブ表示変化演出を実行した後は変化しない表示態様となっている。こうして、変化演出Bにお

50

いて保留表示変化演出を実行したときには、保留表示の表示態様を、変化演出 B においてアクティブ表示変化演出を実行した後はアクティブ表示の表示態様として表示されない特殊態様に変化させることができる。

【0294】

図 26 (A) に示すステップ S 508 の処理では、例えば図 27 (A) や図 27 (B) に示すような複数のアイコン表示変化パターン of のいずれかに決定される。これらのアイコン表示変化パターンによりアクティブ表示変化演出が実行されたときには、アクティブ表示の表示態様が、「?」、「チャンス」、「激熱」あるいは「NEXT」のメッセージを報知する表示態様に変化する。これらの表示態様は、変化演出 B において保留表示変化演出を実行した後は変化しない表示となっている。こうして、変化演出 B においてアクティブ表示変化演出を実行したときには、アクティブ表示の表示態様を、変化演出 B において保留表示変化演出を実行した後は保留表示の表示態様として表示されない特殊態様に変化させることができる。

10

【0295】

以上、実施形態によれば、パチンコ遊技機 1 では、アクティブ表示部 A H A におけるアクティブ表示や、保留表示部 5 H R、5 H L における保留表示を、大当りの期待度に応じた複数の色の態様のいずれかで表示可能であるとともに、その態様に変化するか否かを報知する変化演出 A 及び変化演出 B が実行可能である。

【0296】

このように、変化演出 A 及び変化演出 B が実行可能である状態において、変化演出 A の態様と変化演出 B の態様とは、以下のような相違がある。すなわち、変化演出 A においてアクティブ表示の色が 2 段階以上の変化となる割合が、変化演出 B においてアクティブ表示の色の変化が 2 段階以上となる割合が高い。

20

【0297】

また、変化演出 A において保留表示の色が 2 段階以上の変化となる割合が、変化演出 B において保留表示の色の変化が 2 段階以上となる割合が高い。

【0298】

また、変化演出 A においては、アクティブ表示や保留表示の色が白、青、緑、赤の順で連続的に変化する態様となる場合がある。

【0299】

また、変化演出 A においてはアクティブ表示の色が変化する一方、変化演出 B においては、表示変化パターン Z H P 10 ~ Z H P 13 に決定された場合には一度の可変表示中にアクティブ表示の色が変化しない。すなわち、変化演出 A においてはアクティブ表示の色が変化する割合は、変化演出 B においてアクティブ表示の色が変化する割合よりも高く、且つ、変化演出 A では図 31 (B) ~ (D1) に示すようにアクティブ表示の色が徐々に変化する。

30

【0300】

また、変化演出 A においては保留表示の色が変化する一方、変化演出 B においては、表示変化パターン Z H P 10 ~ Z H P 13 に決定された場合には一度の可変表示中に保留表示の色が変化しない。すなわち、変化演出 A においては保留表示の色が変化する割合は、変化演出 B においてアクティブ表示の色が変化する割合よりも高く、且つ、変化演出 A では図 31 (B) ~ (D1) に示すようにアクティブ表示の色が徐々に変化する。

40

【0301】

このように、変化演出 A では、保留表示やアクティブ表示の 2 段階以上の色の変化を、白、青、緑、赤の順で連続的に表示することによって、保留表示やアクティブ表示の態様が複数段階で変化したことを遊技者が認識可能となり、表示態様の変化に関する興味を向上させることができる。

【0302】

また、変化演出 A では、保留表示やアクティブ表示の態様が徐々に変化することで、変化後の保留表示やアクティブ表示の態様の候補を表示して報知するため、遊技者に期待感

50

を抱かせて表示態様の变化に関する興味を向上させることができる。

【0303】

また、図16に示すように、変化演出Aの表示変化パターンの決定においては、保留番号「2」、「3」、「4」の場合には、可変表示2回分の表示変化パターンYHP3-1、YHP3-2に決定される割合が、変化演出Aの可変表示1回分の表示変化パターンYHP1-1~YHP1-3、YHP2-1、YHP2-2に決定される割合よりも低くなっており、且つ、大当りの場合には、可変表示2回分の表示変化パターンYHP3-1、YHP3-2に決定される割合がハズレの場合よりも高くなっている。これにより、1回目の可変表示中に変化演出Aが実行された後に、2回目の可変表示中に変化演出Aが実行された場合には、大当り期待度が高くなるため、1回目の可変表示中に変化演出Aが実行された後に、保留表示やアクティブ表示の態様がどのように変化するかを、より一層注目させることができる。

10

【0304】

また、変化演出Aの表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンが決定されたときには、その変化演出Aに対応する保留記憶より前の保留記憶に対応する変化演出Bの表示変化パターン及び表示変化タイミングパターンが削除されて、変化演出Bが実行不可となる。これにより、変化演出Aにおける態様変化をより強調することができる。

【0305】

また、変化演出Aでは、図30(B)~(D1)に示すように保留表示やアクティブ表示の色が変化前の色と変化後の色とを領域を分けて表示され、変化後の色の領域が変化前の色の領域よりも拡大し、更には、保留表示やアクティブ表示の全領域が変化後の色になる。これにより、保留表示やアクティブ表示の領域の変化によって態様が変化するか否かを報知することになり、遊技者に認識しやすい演出を実現できる。

20

【0306】

また、実施形態では、変化演出Bにおいて、第1変化演出となる保留表示変化演出が実行された後に表示される保留表示の表示態様は、例えば「秘」のメッセージを示す表示態様のように、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出が実行された後にはアクティブ表示の表示態様として表示されない特殊態様を含んでいる。このように、保留表示の表示態様を特殊態様に変化させる変化演出を実行することで、多様な表示の変化を可能にして、遊技興味を向上させることができる。

30

【0307】

また、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出が実行された後に表示されるアクティブ表示の表示態様は、例えば「?」、「チャンス」、「激熱」あるいは「NEXT」などのメッセージを報知するアイコンの表示態様のように、第1変化演出となる変化演出が実行された後には保留表示の表示態様として表示されない特殊態様を含んでいる。このように、アクティブ表示の表示態様を特殊態様に変化させるアクティブ表示変化演出を実行することで、多様な表示の変化を可能にして、遊技興味を向上させることができる。

【0308】

第1変化演出となる変化演出Bと、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出とでは、例えばキャラクタCH1の演出画像を表示して作用を与える作用演出を含むことなどにより、共通する演出態様を含む所定態様の演出が実行される。こうして、保留表示の表示態様とアクティブ表示の表示態様とのうちいずれが変化するかにより遊技者を注目させることにより、遊技興味を向上させることができる。

40

【0309】

第1変化演出となる変化演出Bでは、キャラクタCH1の演出画像が表示される作用演出を含めた保留表示変化共通演出を実行した後に、保留表示の表示態様を変化させる保留表示変化成功演出が実行される場合と、保留表示の表示態様を変化させない保留表示変化失敗演出としての保留変化ガセ演出が実行される場合とがある。また、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出では、キャラクタCH1の演出画像が表示される作用演出を含めたアクティブ表示変化共通演出を実行した後に、アクティブ表示の表示態様を変化させ

50

るアクティブ表示変化成功演出が実行される場合と、アクティブ表示の表示態様を変化させないアクティブ表示変化失敗演出としてのアクティブ変化ガセ演出が実行される場合とがある。そして、表示変化の有無が決定される一方、所定割合でアイコン表示変化パターンが「なし」に決定されることで、アクティブ表示変化演出が実行されたときには、変化演出が実行されたときに保留表示の表示態様を変化させる割合よりも高い割合で、アクティブ表示の表示態様を変化させる。このように、アクティブ表示の表示態様を変化させやすくすることで、開始条件が成立した可変表示に対する遊技興趣の低下を抑制できる。

【0310】

例えば「擬似連」の可変表示演出が実行される場合に対応して、図23(B)に示すような複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定することで、可変表示が開始されてから最終停止図柄が停止表示されるまでに、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出を複数回実行することができる。これにより、1回または所定回のアクティブ表示変化演出が実行されてアクティブ表示の表示態様が大当り信頼度の高い表示態様に変化しなくても、さらにアクティブ表示変化演出が実行されてアクティブ表示の表示態様に変化する可能性を残せるので、開始条件が成立した可変表示に対する期待感を持続させることができる。

10

【0311】

第1変化演出となる保留表示変化演出が実行されるときと、第2変化演出となるアクティブ表示変化演出が実行されるときには、例えば図30(B)に示すような表示制限用の演出画像SV1を表示することによる制限演出を実行することで、第1保留表示部5HLや第2保留表示部5HRにおける保留表示とアクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示とのうち少なくとも一部に制限を設ける。こうして、複数の保留表示とアクティブ表示とを含めたいずれの表示が変化するかにより遊技者をより注目させることにより、遊技興趣を向上させることができる。

20

【0312】

この発明は、上記実施の形態に限定されず、様々な変形及び応用が可能である。例えばパチンコ遊技機1は、上記実施の形態で示した全ての技術的特徴を備えるものでなくてもよく、従来技術における少なくとも1つの課題を解決できるように、上記実施の形態で説明した一部の構成を備えたものであってもよい。

30

【0313】

例えば、上記実施形態では、変化演出Aが実行されるときには、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色に変化するものとして説明したが、これに限定されない。

【0314】

例えば、変化演出Aにおいて表示変化パターンYHP1-1が存在せず、変化演出Aにおいては必ず保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色の変化が2段階以上になるようにしてもよい。

【0315】

また、例えば、変化演出Aにおいて、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色に変化しない場合があってもよい。この場合には、変化演出Aにおいて色に変化しない表示変化パターンYHP1-0を用意して、その表示変化パターンを決定可能とするとともに、変化演出Aにおいて、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色に変化する割合、換言すれば、表示変化パターンYHP1-0以外に決定される割合が、変化演出Bにおいて、一度の可変表示中に保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色に変化する割合、換言すれば、表示変化パターンZHP10~ZHP13以外に決定される割合よりも高ければよい。

40

【0316】

また、上記実施形態では、変化演出Aにおいて、保留表示やアクティブ表示の色が2段階以上変化し、更には、白、青、緑、赤の順で連続的に表示するようにしたが、保留表示やアクティブ表示の態様変化はこれに限定されない。例えば、保留表示やアクティブ表示

50

の形状が変化し、更には、丸形、三角形、四角形、星形の順で連続的に表示されるようにしてもよい。

【0317】

また、上記実施形態では、変化演出Aでは、保留表示やアクティブ表示の色が徐々に変化するようにしたが、保留表示やアクティブ表示の態様変化はこれに限定されない。例えば、保留表示やアクティブ表示の形状が徐々に変化するようにしてもよい。

【0318】

また、上記実施形態では、図30～図32に示すように、変化演出Aにおいて、キャラクタCHが保留表示やアクティブ表示に対して青色のビームBM1を照射し、保留表示やアクティブ表示の色を変化させるようにしたがこれに限定されない。例えば、キャラクタ、ビーム、保留表示やアクティブ表示の色について複数の態様を用意しておき、各態様が大当りの場合とハズレの場合とで異なる割合で決定されるようにしてもよい。例えば、ハズレの場合には図30～図32の態様となる割合が高く、大当りの場合には図37の態様となる割合が高くなるようにしてもよい。

【0319】

図37では、図37(A)に示すように、第1保留表示部5HLにおいて保留番号が「1」～「3」に対応した白色の保留表示が行われ、アクティブ表示部AHAにおいて今回の可変表示に対応する白色のアクティブ表示が行われている。

【0320】

次に、図37(B)に示すように、変化演出Aにおいて、キャラクタCHが、保留番号「3」に対応する保留表示に対して虹色のビームBM2を照射する態様となる。その後、図37(C)、図37(D3)に示すように、保留番号「3」に対応する保留表示において白色の領域が徐々に変化後の候補の態様の領域である虹色の領域に変化する。更に、図37(E3)に示すように、保留番号「3」に対応する保留表示において領域全体が虹色になる。その後、更に、キャラクタCHが、保留番号「3」に対応する保留表示に対して所定色のビームを照射する態様となり、保留番号「3」に対応する保留表示において虹色の領域が徐々に所定色の領域に変化する。

【0321】

また、上記実施形態では、変化演出パターンYHP3-1、YHP3-2に対応する変化態様は、連続する2回の可変表示中に亘って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色が変わるものであったが、これに限定されず、連続する3回以上の可変表示中に亘って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色が変わるものであってもよい。更には、連続しない複数回の可変表示中(例えば、対応する保留記憶の保留番号が「1」、「3」の場合等)に亘って、保留表示及びアクティブ表示の少なくともいずれかの色が変わるものであってもよい。

【0322】

上記実施の形態では、変化演出Bにおいて保留表示変化演出が実行された後に表示される保留表示の表示態様は、変化演出Bにおいてアクティブ表示変化演出を実行した後はアクティブ表示の表示態様として表示されない表示態様を含むとともに、アクティブ表示変化演出が実行された後に表示されるアクティブ表示の表示態様は、保留表示変化演出を実行した後は保留表示の表示態様として表示されない表示態様を含むものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、保留表示の表示態様とアクティブ表示の表示態様のうち一方のみが、他方の表示態様として表示されない表示態様を含むように構成されたものであってもよい。例えば、保留表示の表示態様には、アクティブ表示の表示態様として表示されない固有の表示態様が含まれる一方で、アクティブ表示の表示態様には、保留表示の表示態様としても表示可能な共通の表示態様のみが含まれ、保留表示の表示態様として表示されない固有の表示態様を設けないようにしてもよい。また、アクティブ表示の表示態様には、保留表示の表示態様として表示されない固有の表示態様が含まれる一方で、保留表示の表示態様には、アクティブ表示の表示態様として表示されない固有の表示態

10

20

30

40

50

様を設けないようにしてもよい。

【0323】

保留表示変化演出が実行されるときと、アクティブ表示変化演出が実行されるときには、保留表示とアクティブ表示とのうち少なくとも一部に制限を設ける制限演出が実行されてもよい。制限演出は、例えば画像表示装置5の表示領域に表示制限用の演出画像を表示すること、第1保留表示部5HLや第2保留表示部5HRやアクティブ表示部AHAにて半透明表示や透明表示や縮小表示を行うこと、あるいは演出用模型(可動部材)を退避状態から進出状態に移行させて進出状態のときに保留表示やアクティブ表示を隠蔽することなどにより、保留表示やアクティブ表示の一部または全部を遊技者が視認不可能または視認困難となるように制限するものであればよい。

10

【0324】

図38は、保留表示やアイコン表示に制限を設ける演出(変化演出C)の演出実行例を示している。この実行例では、例えば図38(A)に示すような飾り図柄の可変表示が開始された後に、変化演出Cとして、図38(B)に示すような表示変化共通演出が実行される。このときには、制限演出として、画像表示装置5の表示領域に表示制限用の演出画像SV1を表示することにより、第1保留記憶部5HRや第2保留記憶部5HLにおける保留表示さらにアクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示が、遊技者に視認不可能となるように隠蔽(被覆)する。その後、保留表示変化演出が実行された場合には、例えば図38(C1)に示すように、保留表示の表示態様を変化させる。一方、アクティブ表示変化演出が実行された場合には、例えば図38(C2)に示すように、アクティブ表示の表示態様を変化させる。こうした制限演出を実行することにより、変化演出Cが実行されるときに、いずれの演出が実行されるかを遊技者が認識不可能または認識困難となり、保留表示とアクティブ表示のいずれが変化するかを遊技者を注目させて、遊技興趣を向上させることができる。

20

【0325】

制限演出として、互いに演出態様が異なる複数種類の演出を用意してもよい。この場合には、変化演出Cにおいて保留表示変化演出が実行されるかアクティブ表示変化演出が実行されるかに応じて、決定可能な制限演出の種類や決定割合のいずれか一方または双方を、異ならせるように設定してもよい。このような設定によれば、制限演出の演出態様に応じて、変化演出Cにおいて保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出のいずれが実行されるかの期待感を異ならせて、いずれの表示が変化するかを遊技者を注目させることができる。あるいは、変化演出Cにおいて保留表示変化演出が実行されるかアクティブ表示変化演出が実行されるかにかかわらず、所定割合で制限演出の演出態様が決定されてもよい。

30

【0326】

保留表示の表示態様が変わらない保留変化ガセ演出が実行される場合や、アクティブ表示の表示態様が変わらないアクティブ変化ガセ演出が実行される場合には、表示態様が変わる変化演出Cにおいて保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出が実行される場合よりも高い割合で、制限演出を実行することに決定されてもよい。これにより、変化演出Cにおいて保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出が実行されたにもかかわらず表示態様が変わらなかったことを遊技者が認識しにくくして、遊技興趣の低下を防止することができる。あるいは、保留表示の表示態様が変わる保留表示変化成功演出が実行される場合や、アクティブ表示の表示態様が変わるアクティブ表示変化成功演出が実行される場合には、表示態様が変わらない保留変化ガセ演出やアクティブ変化ガセ演出が実行される場合よりも高い割合で、制限演出を実行することに決定されてもよい。これにより、制限演出が実行されたときに、保留表示の表示態様やアクティブ表示の表示態様が変わる期待感を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

40

【0327】

演出用模型(可動部材)を退避状態から進出状態に移行させて保留表示やアクティブ表示を隠蔽することにより制限演出を実行する場合には、変化演出Cにおいて保留表示変化

50

演出やアクティブ表示変化演出は上記実施の形態と同様の演出態様で実行されてもよい。この場合、例えばキャラクタCH1の演出画像が表示されて遊技者がキャラクタCH1を視認可能になると、例えば保留表示やアクティブ表示に作用する演出状態となるより前であっても、演出用模型が退避状態から進出状態に移行して保留表示やアクティブ表示を隠蔽し、変化演出Cにおいて保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出の実行が終了してキャラクタCH1の演出画像が表示されなくなってから、演出用模型が退避状態に復帰して保留表示やアクティブ表示を遊技者が視認可能になるようにしてもよい。なお、演出用模型が進出状態となったときには、キャラクタCH1の演出画像も含めて隠蔽してもよいし、キャラクタCH1の演出画像は遊技者が認識可能となるように隠蔽しないようにしてもよい。このように、制限演出は、変化演出Cにおいて保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出とは関連性が低い演出として認識されやすい演出態様で実行されてもよい。これにより、変化演出Cにおいて保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出が実行されたにもかかわらず表示態様が変わらなかったことを遊技者が認識しにくくして、遊技興趣の低下を防止することができる。

10

20

30

40

50

【0328】

上記実施の形態では、保留表示の表示態様が「秘」のメッセージを示す表示態様に変化させることで、その後さらに保留表示の表示色が青色、緑色、赤色のいずれかに変化する可能性が高くなる示唆保留表示を行うものとして説明した。このような示唆保留表示が第1保留表示部5HLや第2保留表示部5HRにて複数表示された場合には、保留表示の表示態様を変化させる演出が同時に重複して実行されてしまい、演出が複雑になり遊技興趣が低下するおそれがある。そこで、複数の保留表示が他の表示態様に変化しやすい特定態様で表示されているときには、変化演出Bが1の保留表示のみに対して実行されるように保留表示の表示態様を変化させるか否かを決定してもよい。例えば図13に示すステップS310の処理では、複数の保留表示にて「秘」のメッセージを示す表示態様となる場合に、各保留表示に対応する表示変化タイミングが同一タイミングにはならないように、表示変化タイミングパターンを決定してもよい。あるいは、図26(A)に示すステップS502にて表示変化タイミングであると判定したときに、複数の保留表示にて「秘」のメッセージを示す表示態様を特定色の表示態様に変化させることになるか否かを判定する。そして、複数の保留表示にて表示態様を変化させることになるか否かを判定した場合には、例えば保留番号が大きい方の保留表示については次回の可変表示にて表示変化タイミングとなるように設定変更を行うようにしてもよい。

【0329】

図39は、複数の保留表示が「秘」のメッセージを示す表示態様となる場合に対応した変化演出Bの実行例を示している。この実行例では、まず、図39(A)に示すように、第1保留表示部5HLにて保留番号が「1」～「4」に対応した保留表示が行われているときに、保留番号「3」に対応した保留表示の表示態様が「秘」のメッセージを示す表示態様となっている。例えば第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第2特図保留記憶数が「4」になったときに、保留表示データ記憶部では保留番号「3」に対応して、表示変化パターンZHP11と表示変化タイミングパターンTP3-3を示すデータが記憶されているものとする。また、第2特図保留記憶数が「4」となる第2始動入賞が発生したことに伴って、図13に示すステップS309の処理により表示変化パターンZHP13に決定されたものとする。この場合、ステップS310の処理では、保留表示データ記憶部に保留番号「3」と関連付けて表示変化タイミングパターンTP3-3を示すデータが記憶されていることに応じて、同一の表示変化タイミングにならないように、保留番号「4」に対応する表示変化タイミングパターンの決定が行われればよい。例えば保留番号「3」と同様の表示変化タイミングパターンTP3-3に決定すれば、保留番号の相違により、同一タイミングで特定色に変化させる表示変化タイミングとなることを回避できる。

【0330】

図19(B)に示すように、表示変化タイミングパターンTP3-3は、保留番号「3」と保留番号「1」のときに表示変化タイミングとなる。図39(B)に示すような飾り

図柄の可変表示が開始されるときには、図26(A)に示すステップS501の処理により、保留表示データ記憶部にて保留番号「2」と保留番号「3」に関連付けて、表示変化タイミングパターンTP3-3を示すデータが記憶される。このとき、ステップS502の処理では、保留番号「2」に対応する保留表示については表示変化タイミングではないと判定される一方、保留番号「3」に対応する保留表示については表示変化タイミングであると判定される。そこで、ステップS503の処理による実行設定に基づいて、図39(B)に示すような保留番号「3」の保留表示を対象とする変化演出Bが実行される。この変化演出Bを実行した後は、図39(C)に示すように、保留番号「3」に対応した保留表示の表示態様が、「秘」のメッセージを示す表示態様に変化する。そして、飾り図柄の最終停止図柄が停止表示されることで、可変表示が終了する。

10

【0331】

図39(C)に示すような可変表示の終了に続いて、新たな可変表示が開始されるときには、図26(A)に示すステップS501の処理により、保留表示データ記憶部にて保留番号「1」と保留番号「2」に関連付けて、表示変化タイミングパターンTP3-3を示すデータが記憶される。このとき、ステップS502の処理では、保留番号「1」に対応する保留表示については表示変化タイミングであると判定される一方、保留番号「2」に対応する保留表示については表示変化タイミングではないと判定される。そこで、ステップS503の処理による実行設定に基づいて、図39(D)に示すような保留番号「1」の保留表示を対象とする変化演出Bが実行される。この変化演出Bを実行した後は、図39(E)に示すように、保留番号「1」に対応した保留表示の表示態様として、表示色が特定色のうち青色に変化する。そして、飾り図柄の最終停止図柄が停止表示されることで、可変表示が終了する。

20

【0332】

図39(E)に示すような可変表示の終了に続いて、新たな可変表示が開始されるときには、図26(A)に示すステップS501の処理により、保留表示データ記憶部にて保留番号「1」に関連付けて、表示変化タイミングパターンTP3-3を示すデータが記憶される。このとき、ステップS502の処理では、保留番号「1」に対応する保留表示については表示変化タイミングであると判定される。そこで、ステップS503の処理による実行設定に基づいて、図39(F)に示すような保留番号「1」の保留表示を対象とする変化演出Bが実行される。この変化演出Bを実行した後は、図39(G)に示すように、保留番号「1」に対応した保留表示の表示態様として、表示色が特定色のうち赤色に変化する。そして、飾り図柄の最終停止図柄が停止表示されることで、可変表示が終了する。

30

【0333】

このように、複数の保留表示を対象とする複数の変化演出Bが同時には実行されないように、表示変化タイミングパターンを決定したり、表示変化タイミングの設定を変更したりする。こうして、保留表示の表示態様を変化させる演出が複雑になることを防止できる。なお、第1保留表示部5HLや第2保留表示部5HRにおける複数の保留表示どうして複数の変化演出Bが同時には実行されないようにするものに限定されず、例えば第1保留表示部5HLや第2保留表示部5HRにおける保留表示を対象とする保留表示変化演出と、アクティブ表示部AHAにおけるアクティブ表示を対象とするアクティブ表示変化演出とが、同時には実行されないように、表示変化タイミングパターンを決定したり、表示変化タイミングの設定を変更したり、アイテム表示変化演出を実行するか否かを決定したりするように構成してもよい。こうして、保留表示の表示態様とアクティブ表示の表示態様を変化させる複雑な演出の防止により、遊技興趣を向上させることができる。

40

【0334】

複数の保留表示が「秘」のメッセージを示す表示態様となる場合に限定されず、複数の保留表示を対象とする複数の変化演出Bが同時には実行されないように、表示変化タイミングパターンを決定したり、表示変化タイミングの設定を変更したりするように構成してもよい。こうして、保留表示の表示態様を変化させる複雑な演出の防止により、遊技興趣

50

を向上させることができる。

【0335】

なお、変化演出Bとして、1の変化演出を実行することにより複数の保留表示の表示態様を変化させるものを用意してもよい。また、変化演出Bにおける保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出を組み合わせた演出として、1の変化演出を実行することにより保留表示の表示態様とアクティブ表示の表示態様とを変化させるものを用意してもよい。例えば図38(B)に示したような演出画像SV1を表示した後に、保留表示の表示態様やアクティブ表示の表示態様を変化させる場合には、複数の表示態様に変化しても演出が複雑になることはなく、遊技者に違和感を与えない。このように、1の変化演出を実行することにより複数の表示態様を変化させることで、演出が複雑になることを防止して、遊技

10

【0336】

上記実施の形態では、変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とのいずれにおいても、キャラクタCH1の演出画像が作用するような作用演出を含んでいることなどにおいて、共通する演出態様となるものとして説明した。これに対し、キャラクタCH1の演出画像に限定されず、任意の演出態様において共通する保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とを実行できるものであればよい。例えばキャラクタの演出画像が作用する作用演出を含んでいる一方、表示するキャラクタの種類、形状、模様もしくは色彩の一部または全部を異ならせたり、スピーカ8L、8Rから出力される効果音、遊技効果ランプ9や装飾用LEDといった発光体の点灯態様のいずれか一方または双方を異ならせたりしてもよい。より具体的な一例として、キャラクタの演出画像には、第1のキャラクタCH1と、第2のキャラクタCH2とがあり、作用演出には、保留表示やアクティブ表示を銃で撃つ作用演出SE1と、保留表示やアクティブ表示を剣で切る作用演出SE2とがあるものとする。ここで、第1のキャラクタCH1による作用演出SE1が実行される場合と、第1のキャラクタCH1による作用演出SE2が実行される場合とでは、作用演出の演出態様は相違する一方、キャラクタの種類は共通している。一方、第1のキャラクタCH1による作用演出SE1が実行される場合と、第2のキャラクタCH2による作用演出SE1が実行される場合とでは、キャラクタの種類は相違する一方、作用演出の演出態様は共通している。このように、キャラクタの種類は共通する一方で作用演出の演出態様(作用動作の内容)は相違する場合と、作用演出の演出態様(作用動作の内容)は共通する一方でキャラクタの種類は相違する場合とのいずれであっても、キャラクタの種類または作用演出の演出態様で共通部分があることから、共通する演出態様であるといえる。また、例えば第1キャラクタCH1による作用演出SE1のように、キャラクタの種類と作用演出の演出態様との組合せが共通する演出態様で、変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とが実行される場合であっても、その演出態様で変化演出Bにおける保留表示変化演出が実行されるかアクティブ表示変化演出が実行されるかに応じて、保留表示の表示態様に変化(例えば特定色である青色、緑色、赤色のいずれかに変化)する割合が異なるように設定されてもよい。また、変化演出Bのうちでも、保留番号が「1」から「4」のいずれに対して作用する作用演出を含めた変化演出Bが実行されるかに応じて、保留表示またはアクティブ表示の表示態様に変化する割合が異なるように設定されてもよい。あるいは、キャラクタの種類と作用演出の演出態様との組合せが共通する演出態様で、変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とが実行される場合に、保留表示またはアクティブ表示の表示態様に変化(例えば特定色である青色、緑色、赤色のいずれかに変化)する割合は同じ程度であっても、変化後の表示態様が大当り信頼度の高い表示態様に変化(例えば赤色に変化)する割合が異なるように設定されてもよい。また、変化演出Bのうちでも、保留番号が「1」から「4」のいずれに対して作用する作用演出を含めた変化演出Bが実行されるかに応じて、保留表示の表示態様に変化する割合は同じ程度であっても、変化後の表示態様が大当り信頼度の高い表示態様に変化する割合が異なるように設定されてもよい。あるいは、変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とでは、全部の演出態様が互いに異なる演出

20

30

40

50

が実行されるようにしてもよい。

【0337】

上記実施の形態では、所定の決定割合で表示変化の有無を決定するとともに、図28に示すような決定割合でアイコン表示変化パターンを決定することで、変化演出Bにおける保留表示変化演出が実行されたときに保留表示の表示態様が変化する割合よりも高い割合で、変化演出Bにおけるアクティブ表示変化演出が実行されたときにアクティブ表示の表示態様が変化するものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えば変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とのいずれが実行されたときにも、保留表示やアクティブ表示の表示態様が必ず(100%の割合で)変化するように設定されてもよい。また、変化演出Bにおける保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とのうち、いずれか一方の演出が実行されたときには、所定割合で表示態様が変化しないことがあるのに対し、他方の演出が実行されたときには、必ず(100%の割合で)表示態様が変化するように設定されてもよい。あるいは、変化演出Bにおけるアクティブ表示変化演出が実行されたときにアクティブ表示の表示態様が変化する割合よりも高い割合で、変化演出Bにおける保留表示変化演出が実行されたときには保留表示の表示態様が変化するように設定されてもよい。

10

【0338】

上記実施の形態では、図26(A)に示すステップS508の処理において、「擬似連」の可変表示演出が実行される場合に図27(B)に示すような複数のアイコン表示変化パターンのいずれかに決定することにより、可変表示が開始されてから最終停止図柄が導出表示されて可変表示が終了するまでに、複数回のアクティブ表示変化演出を実行できるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えば「擬似連」の可変表示演出が実行されない場合でも、1の開始条件が成立したことに基づく可変表示中において、複数回のアクティブ表示変化演出を実行できるようにしてもよい。一例として、アクティブ表示変化演出を実行可能なタイミングとして、可変表示の開始時、全図柄の高速変動中、可変表示状態がリーチ状態となるリーチ成立時、リーチ状態となった後のリーチ演出中といった、複数のタイミングを設けておく。そして、例えば可変表示内容に応じて異なる所定割合で、複数のタイミングのいずれでアクティブ表示変化演出を実行するかが決定されてもよい。この場合、可変表示内容が「非確変(大当り)」や「確変(大当り)」であるときには、可変表示内容が「非リーチ(ハズレ)」や「リーチ(ハズレ)」であるときよりも多くのタイミングにてアクティブ表示変化演出を実行することに決定される割合が高くなるように設定されてもよい。

20

30

【0339】

上記実施の形態では、図13に示すステップS310の処理にて、図19(B)に示すような複数の表示変化タイミングパターンのいずれかに決定することで、アクティブ表示中に表示色を1回だけ変化させることができるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、アクティブ表示に対応する可変表示が開始されてから最終停止図柄が導出表示されて可変表示が終了するまでに、アクティブ表示の表示色を複数回変化可能にしてもよい。アクティブ表示中に表示色を変化させるタイミングは、「擬似連」の可変表示演出が実行される場合の初回変動に対応する可変表示中のタイミングに限定されず、擬似連変動が1回から3回まで実行されるうちの所定回の擬似連変動が実行されたことによる途中の擬似連変動または最終変動となる擬似連変動に対応する可変表示中のタイミングであってもよい。「擬似連」の可変表示演出が実行されない場合でも、可変表示の開始時、全図柄の高速変動中、可変表示状態がリーチ状態となるリーチ成立時、リーチ状態となった後のリーチ演出中といった、複数のタイミングのうち一部または全部のタイミングにて、アクティブ表示の表示色を変化可能とするものであってもよい。また、例えば上記実施の形態における「チャンス」のメッセージを報知する表示態様のように、特殊態様に含まれる一部の表示態様に代えて、アクティブ表示の表示色を変化可能とするものであってもよい。

40

【0340】

50

上記実施の形態では、表示態様として表示色を特定色（青色、緑色、赤色のいずれか）に変化させる表示色変化演出は、変化演出 B における保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とのいずれにおいても実行可能とし、「秘」のメッセージを示す特殊表示態様に変化させる特殊変化演出は、保留表示変化演出において実行可能となる一方でアクティブ表示変化演出において実行不可となり、「?」、「チャンス」、「激熱」、「NEXT」などのメッセージを報知するアイコンに変化させるアイコン表示変化演出は、保留表示変化演出において実行不可となる一方でアクティブ表示変化演出において実行可能となるものとして説明した。しかしながら、保留表示変化演出とアクティブ表示変化演出とにおいて、いずれの演出を実行可能または実行不可とするかは、任意に設定されたものでよい。例えば表示色変化演出のうち、一部の表示色（例えば金色や虹色など）に変化する演出は、変化演出 B における保留表示変化演出のみにおいて実行可能となるように設定されてもよいし、変化演出 B におけるアクティブ表示変化演出のみにおいて実行可能となるように設定されてもよい。変化演出 B における保留表示変化演出において実行可能となる一方で変化演出 B におけるアクティブ表示変化演出において実行不可となる演出として、保留表示の表示態様がさらに変化する可能性が高くなる示唆保留表示を行う演出に代えて、あるいは示唆保留表示を行う演出とともに、先読み予告演出として所定の演出モード（先読み予告モード）に移行することを示唆するモード移行示唆表示を行う演出が実行されるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【0341】

上記実施の形態では、表示色変化演出について、変化演出 B における、保留表示変化演出として実行されるかアクティブ表示変化演出として実行されるかにかかわらず、始動入賞の発生に基づいて、図 13 に示すステップ S 304 の処理により実行するか否かが決定され、ステップ S 309 の処理により表示変化パターンが決定されるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えば図 13 に示すステップ S 304 の処理では、変化演出 B における保留表示変化演出において表示色変化演出を実行するか否かを決定する一方、変化演出 B におけるアクティブ表示変化演出において表示色変化演出を実行するか否かは決定しないようにしてもよい。この場合、アクティブ表示変化演出において表示色変化演出を実行するか否かは、例えば図 24 に示すステップ S 322 で実行される変化演出設定処理において、可変表示内容に応じた所定割合で決定されてもよい。あるいは、上記実施の形態と同様にステップ S 304、S 309 の処理を実行した後、ステップ S 322 で実行される変化演出設定処理では、変動パターン指定コマンドに示された変動パターンに応じた可変表示内容などに応じて、アクティブ表示中に変化させる表示色（特定色）を決定しなおすようにしてもよい。始動入賞が発生したときに表示色変化演出を決定する場合には、入賞時判定結果に応じた割合での決定となる。始動入賞時における可変表示内容の判定は、大当り信頼度が最も低くなる場合を基準として行われる。一方、図 24 に示されたステップ S 322 にて変化演出設定処理が実行されるときには、変動パターン指定コマンドで示された変動パターンに応じた可変表示内容を特定することができる。したがって、ステップ S 322 で実行される変化演出設定処理においてアクティブ表示中に変化させる表示色（特定色）を決定すれば、今回の可変表示における変動パターンの大当り信頼度により適合した演出態様に変化させることができる。1 の可変表示に対応する保留表示の表示態様を、入賞時判定結果に基づいて決定した表示態様に変化させた後、開始条件の成立により表示されたアクティブ表示の表示態様を、変動パターンに応じた可変表示内容に基づいて決定した表示態様に変化させてもよい。

【0342】

上記実施の形態では、図 13 に示すステップ S 309 の処理にて表示変化パターンを決定するとともに、ステップ S 310 の処理にて表示変化タイミングパターンを決定することにより、1 の可変表示に対応する保留表示の表示態様を変化させる過程が、始動入賞の発生に基づいて一括して決定されるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、1 の可変表示に対応する保留表示の表示態様を変化させるか否かや、変化させる場合の変化後における表示態様を、例えば保留表示データ記憶部の記憶内容が更新

されたことに応じて、段階的に決定されるようにしてもよい。例えば図26(A)に示すステップS501にて保留表示データ記憶部の記憶データが更新されたときに、1または複数の保留表示における表示態様や、入賞時判定結果に応じた割合で、変化演出Bを実行するか否かや、実行する場合における保留表示の表示態様などを決定すればよい。また、図26(A)に示すステップS508の処理では、例えば最終変動で変化させるアクティブ表示の表示態様を決めてから、最終変動より前に実行される擬似連変動や初回変動で変化させるアクティブ表示の表示態様を段階的に決めるようにしてもよい。あるいは、表示色変化演出とアイコン表示変化演出を含めて、保留表示の表示態様とアクティブ表示の表示態様とを変化させる過程が一括して決定されるものであってもよい。

【0343】

図13に示すステップS304にて変化演出Bの有無を決定した後に、ステップS309にて表示変化の有無を決定し、ステップS309にて表示変化パターンを決定するものに限定されず、例えば表示色を変化させるか否かを決定してから、変化演出Bの有無が決定されるようにしてもよい。この場合には、表示色を変化させる一方で、変化演出Bは実行しないことに決定されるときがある。このときには、変化演出Bを実行せずに保留表示の表示色を変化させるようにすればよい。また、変化演出Bの有無、表示変化パターン、表示変化タイミングパターンの一部または全部を、一括して決定するものであってもよい。この場合、変化演出Bの有無、表示変化パターン、表示変化タイミングパターンの一部または全部を組み合わせた演出パターンを、予め複数パターン用意しておき、入賞時判定結果などに応じた所定割合で、いずれかの演出パターンに決定すればよい。

【0344】

上記実施の形態では、変化演出Bにおける保留表示変化演出やアクティブ表示変化演出が実行される場合でも、図13に示すステップS312の処理が実行されたときには、第1保留表示や第2保留表示の初期表示として、丸型無地の白色表示となる保留表示を追加するように更新するものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えばステップS309にて決定された表示変化パターンなどに応じて、第1保留表示や第2保留表示の初期表示として、通常時の表示態様とは異なる表示態様で保留表示が開始されることがあってもよい。

【0345】

上記実施の形態では、図13に示すステップS309の処理にて表示変化の有無を決定し、「表示変化なし」に決定された場合には、ステップS310の処理で決定した表示変化タイミングパターンに応じて保留変化ガセ演出が実行されるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えば図24に示すステップS322の変化演出設定処理において、保留変化ガセ演出を実行するか否かが決定されてもよい。この場合には、図26(A)に示すステップS501の処理により保留表示データ記憶部の記憶データを更新した結果に基づいて、ステップS502の処理にて表示変化タイミングではないと判定されたときに、保留変化ガセ演出を実行するか否かの決定が行われるようにすればよい。これにより、保留表示の表示態様を変化させる演出を、保留変化ガセ演出よりも優先して実行可能とすることで、遊技興趣を向上させることができる。

【0346】

上記実施の形態では、図13に示すステップ310の処理にて、例えば図21(B)に示されたように、表示変化パターンが「なし」の場合には、表示変化タイミングパターンTP1-1、TP2-1、TP3-1のいずれかに決定することで、1の保留表示を対象とする保留変化ガセ演出が1回だけ実行されるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、1の保留表示を対象とする保留変化ガセ演出が複数回実行される場合があってもよい。また、例えば図19(A)に示された表示変化パターンZHP1-3のように、保留表示の表示態様を1回だけ変化させる場合に対して、表示変化タイミングパターンTP3-7のように、複数の表示変化タイミングを指定して、いずれかの表示変化タイミングでは保留変化ガセ演出が実行されるようにしてもよい。より一般的に、保留表示やアクティブ表示の表示態様を変化させる回数よりも多くの表示変化タイミング

10

20

30

40

50

を指定した場合に、表示態様の変化回数を超える表示変化タイミングでは、表示態様を変化させないガセ演出が実行されるようにしてもよい。加えて、表示態様を変化させないガセ演出が実行された後には、表示態様を変化させる成功演出が実行されやすくなるように、それぞれの表示変化タイミングにてガセ演出と成功演出のいずれを実行するかが決定されてもよい。

【0347】

上記実施の形態では、図26(A)に示すステップ508の処理において、保留表示の表示態様を変化させた結果にかかわらず、例えば図28(A)および図28(B)に示すような決定割合で、アイコン表示変化パターンを決定するものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、アクティブ表示に移行する以前に保留表示の表示態様を変化させた結果に応じて、決定可能なアイコン表示変化パターンや決定割合を異ならせてもよい。これにより、アクティブ表示の表示態様を、保留表示の表示態様にあわせて円滑に変化させることで、表示の違和感を軽減して、遊技興趣を向上させることができる。

10

【0348】

上記実施の形態では、アイコン表示変化演出によりアクティブ表示の表示態様が変わる場合に、表示色変化演出の実行結果とは関連性のない表示態様に変化させるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、表示色変化演出が実行された後にアイコン表示変化演出が実行されてアクティブ表示の表示態様が変わる場合には、表示色変化演出の実行による変化後の表示色が認識可能な表示態様に変化してもよい。例えば、「チャンス」のメッセージを示す表示態様に変化する場合には、「チャンス」のメッセージを示す文字色を、表示色変化演出により変化した後の特定色（例えば青色、緑色、赤色のいずれか）としてもよい。あるいは、アクティブ表示におけるアイコンの表示枠を、表示色変化演出により変化した後の特定色で表示してもよい。このように、アクティブ表示におけるアイコンの一部または全部の表示色を、表示色変化演出により変化した後の特定色に応じて異ならせることで、表示色に応じた大当たり信頼度を遊技者が認識可能としてもよい。

20

【0349】

上記実施の形態では、アイコン表示変化演出が実行されることにより、アクティブ表示部AHAに表示されるアイコンを、「?」、「チャンス」、「激熱」のメッセージを報知する特定アイコンに変化させるものとして説明した。しかしながら、特定アイコンはメッセージを報知するものに限定されず、例えば銃、剣、薬などのアイテムや、リーチ演出において味方となる味方キャラあるいは敵方となる敵キャラなどのキャラクタといった、特定の形状、模様、色彩、あるいは、これらの組合せを示すものであればよい。特定アイコンとして表示されたアイテムやキャラクタに応じて、スーパーリーチのリーチ演出における演出態様（スーパーリーチの種類）を異ならせるように設定してもよいし、大当たり信頼度やリーチ信頼度といった所定の遊技価値が付与される可能性（信頼度）を異ならせるように設定してもよい。

30

【0350】

上記実施の形態では、例えば図20(A)および図20(B)に示すような割合で表示変化パターンを決定した後、図22および図23に示すような割合で表示変化タイミングパターンを決定することにより、保留表示であるかアクティブ表示であるかにかかわらず、表示色が変わった後の特定色に応じて可変表示結果が「大当たり」となる可能性を示唆するものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、例えば変化演出Bにおける保留表示変化演出により保留表示の表示色が赤色に変化した場合と、変化演出Bにおけるアクティブ表示変化演出によりアクティブ表示の表示色が赤色に変化した場合とでは、大当たり期待度が異なるように表示変化パターンと表示変化タイミングパターンとを組み合わせてもよいし、いずれの場合も大当たり期待度が同程度となるように表示変化パターンと表示変化タイミングパターンとを組み合わせてもよい。

40

【0351】

50

上記実施の形態における表示変化パターンや表示変化タイミングパターン、アイコン表示変化パターンなどの各種パターンを決定する場合、あるいは、変化演出Bの有無や種別、表示変化の有無、アイコン表示変化演出の有無を決定する場合といった、各種の決定を行う場合において、複数の決定結果のうちいずれか1の決定結果とする割合が、他の決定結果とする割合よりも高くなることには、1の決定結果とする割合が100%となることが含まれてもよいし、他の決定結果とする割合が0%となることが含まれてもよい。1の決定結果とする割合が100%となるときには、他の決定結果とする割合が0%となる。また、他の決定結果とする割合が0%となるときには、1の決定結果とする割合が100%以外でも0%でない所定割合であれば、1の決定結果とする割合が、他の決定結果とする割合よりも高くなる。

10

【0352】

上記実施の形態では、可変表示時間や飾り図柄の可変表示態様などを示す変動パターンを演出制御基板12の側に通知するために、可変表示を開始するとき1つの変動パターン指定コマンドを送信する例を示したが、2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを演出制御基板12の側に通知してもよい。具体的には、2つのコマンドにより通知する場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、1つ目のコマンドでは擬似連変動の有無、滑り演出の有無等、リーチとなる以前（リーチとならない場合には、いわゆる第2停止の前）の可変表示時間や可変表示態様を示すコマンドを送信し、2つ目のコマンドではリーチの種類や再抽選演出の有無等、リーチとなった以降（リーチとならない場合には、いわゆる第2停止の後）の可変表示時間や可変表示態様を示すコマンドを送信してもよい。この場合、演出制御基板12では、例えば演出制御用CPU120が2つのコマンドの組合せから導かれる可変表示時間に基づいて可変表示における演出制御を行うようにすればよい。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ100の方では2つのコマンドのそれぞれにより可変表示時間を通知し、それぞれのタイミングで実行される具体的な可変表示態様については演出制御用CPU120の方で選択を行うようにしてもよい。2つのコマンドを送る場合、同一のタイマ割込内で2つのコマンドを送信してもよいし、1つ目のコマンドを送信した後、所定期間が経過してから（例えば次のタイマ割込において）2つ目のコマンドを送信してもよい。なお、それぞれのコマンドで示される可変表示態様はこの例に限定されるわけではなく、送信する順序についても適宜変更可能である。このように2つ乃至それ以上のコマンドにより変動パターンを通知することで、変動パターン指定コマンドとして記憶しておかなければならないデータ量を削減することができる。

20

30

【0353】

なお、図柄の可変表示について、変動中に表示されるものは1種類のハズレ図柄だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を繰り返すようにしてもよい。更に変動中に表示されるものも、図柄の停止時に表示されるものでなくてもよい（例えば、表示機器が7セグメントなどの場合に、変動中は真ん中の横棒の点灯と消灯の繰り返しだが、表示結果としては真ん中の横棒だけが表示されることはない等）。

【0354】

また、上記実施形態では、遊技媒体となる遊技球を遊技領域に発射して、特別図柄や飾り図柄を可変表示するパチンコ遊技機1に、特定演出が実行されることを認識可能に報知するための構成や、操作内容に応じて異なる特典を付与するための構成などを、設けるものとして説明した。しかしながら、この発明はこれに限定されず、スロットマシンなどの他の遊技機にも、この発明の特徴となる構成や機能を適用することができる。例えば、スロットマシンにおいては、未だ開始されていない可変表示についてその可変表示における有利状態への移行（例えば、ボーナスやアシストタイムやこれらの高確率状態への移行）又は特定事象の発生（例えば、アシストタイムのセット数又は回数の上乗せ報知やリールの回転の仮停止の発生や特定役の成立等）の期待度を特定表示として表示するとともにし、実行中の可変表示についてその可変表示における有利状態への移行又は特定事象の発生の期待度等を対応表示として表示するものについて、本願発明を適用することができる。

40

50

【 0 3 5 5 】

その他にも、遊技機の装置構成やデータ構成、フローチャートで示した処理、各種遊技や演出の決定割合、画像表示装置 5 における画像表示動作やスピーカ 8 L、8 R における音声出力動作さらには遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED などの発光体における点灯動作を含めた各種の演出動作などは、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、任意に変更および修正が可能である。加えて、本発明の遊技機は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機に限定されるものではなく、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機にも適用することができる。

【 0 3 5 6 】

本発明を実現するためのプログラムおよびデータは、例えばパチンコ遊技機 1 などの遊技機に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラムおよびデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

10

【 0 3 5 7 】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

20

【 符号の説明 】

【 0 3 5 8 】

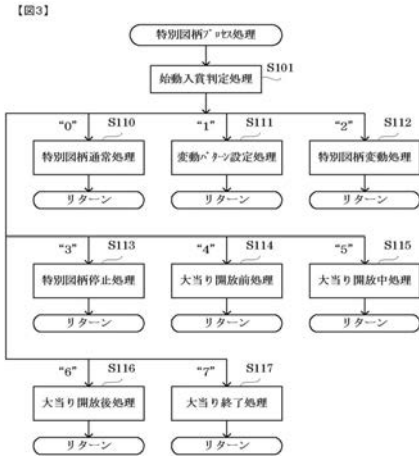
- 1 ... パチンコ遊技機
- 2 ... 遊技盤
- 3 ... 遊技機用枠
- 4 A、4 B ... 特別図柄表示装置
- 5 ... 画像表示装置
- 6 A ... 普通入賞球装置
- 6 B ... 普通可変入賞球装置
- 7 ... 特別可変入賞球装置
- 8 L、8 R ... スピーカ
- 9 ... 遊技効果ランプ
- 1 1 ... 主基板
- 1 2 ... 演出制御基板
- 1 3 ... 音声制御基板
- 1 4 ... ランプ制御基板
- 1 5 ... 中継基板
- 2 0 ... 普通図柄表示器
- 2 1 ... ゲートスイッチ
- 2 2 A、2 2 B ... 始動口スイッチ
- 2 3 ... カウントスイッチ
- 1 0 0 ... 遊技制御用マイクロコンピュータ
- 1 0 1、1 2 1 ... ROM
- 1 0 2、1 2 2 ... RAM
- 1 0 3 ... CPU
- 1 0 4、1 2 4 ... 乱数回路
- 1 0 5、1 2 5 ... I/O

30

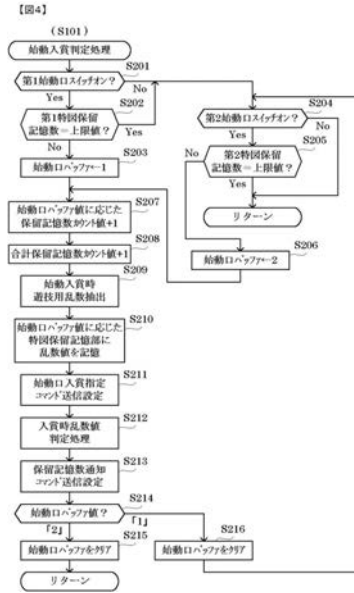
40

50

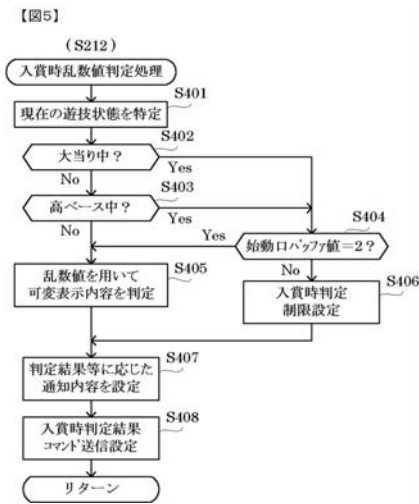
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

【図6】

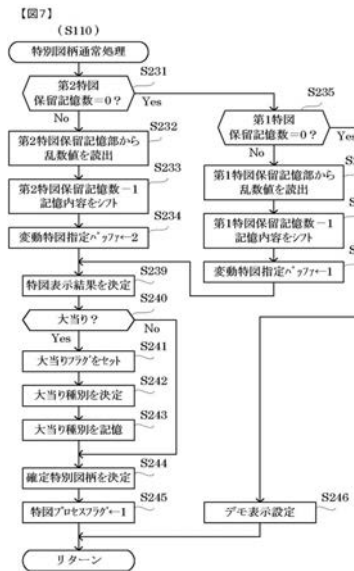
(A)

MODE	EXT	名称	内容
B1	00	第1始動口入賞指定	第1始動入賞口への入賞を指定
B2	00	第2始動口入賞指定	第2始動入賞口への入賞を指定
C1	XX	第1保留記憶数通知	第1特回保留記憶数を通知
C2	XX	第2保留記憶数通知	第2特回保留記憶数を通知
C4	XX	入賞時判定結果	始動入賞時の判定結果を通知

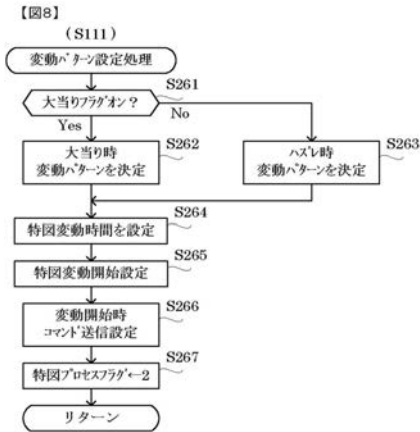
(B)

MODE	EXT	通知内容
C4	00	入賞時判定制限中
	01	大当り
	02	ハズレ時スピーチ確定
	03	ハズレ時リチ確定
	04	ハズレ時一般

【図7】



【図8】

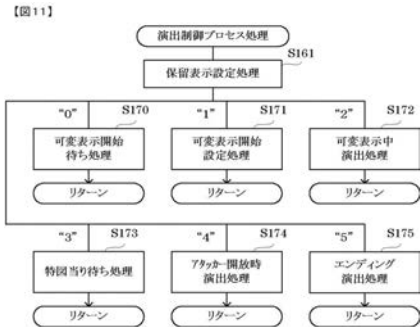


【図9】

【図9】

変動パターン	特図変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	通常時のボーナス(ハズレ)
PA1-2	6000	通常時のボーナス(ハズレ)
PA1-3	4000	通常時のボーナス(ハズレ)
PA1-4	18000	極低速変動(100)ボーナス(ハズレ)
PB1-1	9000	時短中のボーナス(ハズレ)
PB1-2	6000	時短中のボーナス(ハズレ)
PB1-3	3000	時短中のボーナス(ハズレ)
PA2-1	20000	ボーナス(ハズレ)
PA2-2	20000	極低速変動(100)ボーナス(ハズレ)
PA2-3	32000	極低速変動(200)ボーナス(ハズレ)
PB2-1	50000	ボーナス(ハズレ)
PB2-2	50000	極低速変動(100)ボーナス(ハズレ)
PB2-3	62000	極低速変動(200)ボーナス(ハズレ)
PB2-4	68000	極低速変動(300)ボーナス(ハズレ)
PA3-1	30000	ボーナス(大当り)
PA3-2	30000	極低速変動(100)ボーナス(大当り)
PA3-3	32000	極低速変動(200)ボーナス(大当り)
PB3-1	50000	ボーナス(大当り)
PB3-2	50000	極低速変動(100)ボーナス(大当り)
PB3-3	62000	極低速変動(200)ボーナス(大当り)
PB3-4	68000	極低速変動(300)ボーナス(大当り)

【図11】



【図12】

【図12】

保留表示データ記憶部

保留番号	入賞時判定結果	表示変化 パターン	表示変化タイミン パターン
1	ハズレ時一般	なし	なし
2	ハズレ時スーパースピード確定	ZHP1-2	TP1-1
3	ハズレ時一般	なし	TP1-1
4	大当り	ZHP1-3	TF0-1

【図10】

【図10】

(A) 大当り変動パターンの決定例

変動パターン	決定割合
PA2-1~PA2-3	2/100
PB3-1~PB3-4	98/100

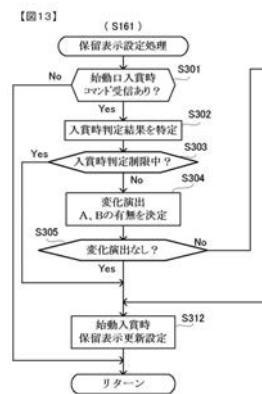
(B1) ハズレ変動パターンの決定例 (通常時)

第1特図 保留記憶数	変動パターン	決定値
0	PA1-1	1~180
	PA1-2	181~210
	PA1-4	211~240
	PA2-1~PA2-3	241~291
1	PB2-1~PB2-4	292~300
	PA1-1	1~120
	PA1-2	121~240
	PA1-4	241~270
2以上	PA2-1~PA2-3	271~294
	PB2-1~PB2-4	295~300
	PA1-1	1~60
	PA1-2	61~150
2以上	PA1-3	151~255
	PA1-4	256~270
	PA2-1~PA2-3	271~294
	PB2-1~PB2-4	295~300

(B2) ハズレ変動パターンの決定例 (時短中)

第2特図 保留記憶数	変動パターン	決定割合
0	PB1-1	1~225
	PB1-2	226~255
	PA1-4	256~270
	PA2-1~PA2-3	271~294
1	PB2-1~PB2-4	295~300
	PB1-2	1~240
	PB1-1	241~261
	PA1-4	262~276
2以上	PA2-1~PA2-3	277~294
	PB2-1~PB2-4	295~300
	PB1-3	1~264
	PB1-2	265~279
2以上	PB1-1	280~288
	PA2-1~PA2-3	289~294
	PB2-1~PB2-4	295~300

【図13】



【図14】

【図14】

変化演出Aの決定例 (S309)

保留番号	入賞時判定結果	演出有無	決定割合
2~4	ハズレ時一般	演出なし	90/100
		演出あり	10/100
	ハズレ時スーパースピード確定	演出あり	85/100
		演出なし	15/100
1	ハズレ時スーパースピード確定	演出なし	80/100
		演出あり	20/100
	大当り	演出なし	75/100
		演出あり	25/100
1	ハズレ時一般	演出なし	95/100
		演出あり	5/100
	ハズレ時スーパースピード確定	演出なし	90/100
		演出あり	10/100
大当り	演出なし	85/100	
	演出あり	15/100	

【 図 1 5 】

【図15】

変化演出Aの表示変化内容

変化演出A 表示変化パターン	表示変化内容
YHP1-1	白→白→青
YHP1-2	白→白→緑
YHP1-3	白→青→緑
YHP2-1	白→青→緑→赤
YHP2-2	白→青→緑→赤
YHP3-1	1回目:白→白→青, 2回目:青→緑→赤
YHP3-2	1回目:白→青→青, 2回目:青→緑→赤

【 図 1 6 】

【図16】

変化演出Aの表示変化パターン決定例(S309)

保留番号	表示変化パターン	決定割合	
		大当り	ハズレ
1	YHP1-1	1/100	8/100
	YHP1-2	10/100	45/100
	YHP1-3	19/100	32/100
	YHP2-1	30/100	10/100
	YHP2-2	40/100	5/100
	YHP3-1	1/100	5/100
2,3,4	YHP1-1	9/100	30/100
	YHP1-2	10/100	25/100
	YHP1-3	15/100	20/100
	YHP2-1	30/100	15/100
	YHP2-2	15/100	3/100
	YHP3-1	20/100	2/100

【 図 1 7 】

【図17】

変化演出Aの表示変化タイミングパターン決定例(S310)

保留番号 (表示変化パターン)	決定割合			
	TPA0(777/777)	TPA1(保留1)	TPA2(保留2)	TPA3(保留3)
1	100/100			
2				
YHP1-1,1-2,2-1,2-2	30/100	80/100		
3				
YHP3-1,3-2		100/100		
4				
YHP1-1,1-2,2-1,2-2	20/100	30/100	50/100	
5				
YHP3-1,3-2		40/100	60/100	
6				
YHP1-1,1-2,2-1,2-2	10/100	20/100	30/100	40/100
7				
YHP3-1,3-2		25/100	35/100	40/100

【 図 1 9 】

【図19】

(A) 変化演出Bの表示変化内容

演出種別	表示変化パターン	表示変化内容
変化演出あり(1)	ZHP1-1	白→青
	ZHP1-2	白→緑
	ZHP1-3	白→赤
	ZHP2-1	白→青→緑
	ZHP2-2	白→青→赤
	ZHP2-3	白→緑→赤
	ZHP3-1	白→青→緑→赤
変化演出あり(2)	ZHP10	白→緑→青
	ZHP11	白→緑→青
	ZHP12	白→緑→赤
	ZHP13	白→緑→赤

(B) 変化演出Bの表示変化タイミングパターン

表示変化タイミングパターン	表示変化タイミング (保留番号)	
TP0-1	A	
TP1-1	1	
TP1-2	2	
TP2-1	2	A
TP2-2	2	A
TP2-3	2	1
TP2-4	2	1 A
TP3-1	3	
TP3-2	3	A
TP3-3	3	1
TP3-4	3	2
TP3-5	3	1 A
TP3-6	3	2 A
TP3-7	3	2 1

A:777が表示中

【 図 1 8 】

【図18】

(A) 変化演出Bの決定例 (S309)

保留番号	入賞時判定結果	演出有無・種別	決定割合
2~4	ハズレ時一般	変化演出なし	80/100
		変化演出あり(1)	18/100
		変化演出あり(2)	2/100
		変化演出なし	60/100
		変化演出あり(1)	36/100
		変化演出あり(2)	4/100
	ハズレ時スピーチ確定	変化演出なし	40/100
		変化演出あり(1)	40/100
		変化演出あり(2)	20/100
		変化演出なし	20/100
		変化演出あり(1)	40/100
		変化演出あり(2)	40/100
1	ハズレ時一般	変化演出なし	90/100
		変化演出あり(1)	10/100
		変化演出あり(2)	70/100
	ハズレ時スピーチ確定	変化演出なし	30/100
		変化演出あり(1)	50/100
		変化演出あり(2)	30/100
大当り	変化演出なし	50/100	
	変化演出あり(1)	50/100	
	変化演出あり(2)	70/100	

(B) 表示変化有無の決定例 (S309)

入賞時判定結果	表示変化あり決定割合
ハズレ時一般	20/100
ハズレ時スピーチ確定	60/100
ハズレ時スピーチ確定	80/100
大当り	100/100

【 図 2 0 】

【図20】

変化演出Bの表示変化パターン決定例(S309)

(A) 演出種別「変化演出あり(1)」, 入賞時判定結果「大当り」の場合

保留番号	表示変化パターン	決定割合
3,4	ZHP1-1	2/100
	ZHP1-2	8/100
	ZHP1-3	10/100
	ZHP2-1	10/100
	ZHP2-2	15/100
	ZHP2-3	15/100
	ZHP3-1	40/100
2	ZHP1-1	3/100
	ZHP1-2	13/100
	ZHP1-3	17/100
	ZHP2-1	17/100
	ZHP2-2	25/100
	ZHP2-3	25/100
1	ZHP1-1	10/100
	ZHP1-2	40/100
	ZHP1-3	50/100

(B) 演出種別「変化演出あり(1)」, 入賞時判定結果「ハズレ時スピーチ確定」の場合

保留番号	表示変化パターン	決定割合
3,4	ZHP1-1	10/100
	ZHP1-2	25/100
	ZHP1-3	10/100
	ZHP2-1	25/100
	ZHP2-2	10/100
	ZHP2-3	10/100
	ZHP3-1	10/100
2	ZHP1-1	11/100
	ZHP1-2	28/100
	ZHP1-3	11/100
	ZHP2-1	28/100
	ZHP2-2	11/100
	ZHP2-3	11/100
1	ZHP1-1	22/100
	ZHP1-2	56/100
	ZHP1-3	22/100

【 図 2 1 】

【図21】

変化演出Bの表示変化パターン決定例(S309)

(A) 演出種別「変化演出あり(2)」, 入賞時判定結果「大当り」の場合

表示変化パターン	決定割合
ZHP10	1/100
ZHP11	30/100
ZHP12	30/100
ZHP13	49/100

(B) 演出種別「変化演出あり(2)」, 入賞時判定結果「ハズレ時スピーチ確定」の場合

表示変化パターン	決定割合
ZHP10	1/100
ZHP11	43/100
ZHP12	33/100
ZHP13	23/100

【図22】

【図22】

変化演出Bの表示変化タイミングパターン決定例(S310)
入賞時判定結果「大当り」の場合

表示変化パターン	保留番号	表示変化タイミングパターン	決定割合
ZHP1-1~ ZHP1-3	4	TP0-1	20/100
		TP1-1	20/100
		TP2-1	30/100
		TP3-1	30/100
		TP0-1	29/100
	3	TP1-1	29/100
		TP2-1	42/100
		TP0-1	50/100
		TP1-1	50/100
		TP0-1	100/100
ZHP2-1~ ZHP2-3, ZHP11~ ZHP13	4	TP1-2	10/100
		TP2-2	15/100
		TP2-3	15/100
		TP3-2	20/100
		TP3-3	20/100
	3	TP3-4	20/100
		TP1-2	24/100
		TP2-2	38/100
		TP2-3	38/100
		TP1-2	100/100
ZHP3-1	4	TP2-4	20/100
		TP3-5	20/100
		TP3-6	30/100
		TP3-7	30/100
	3	TP2-4	100/100
ZHP10	4	TP1-1	30/100
		TP2-1	30/100
		TP3-1	40/100
	3	TP1-1	50/100
		TP2-1	50/100
2	TP1-1	100/100	

【図23】

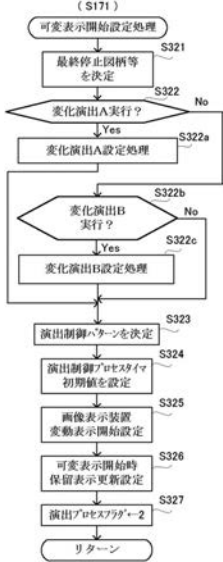
【図23】

変化演出Bの表示変化タイミングパターン決定例(S310)
入賞時判定結果「ハズレ時スルー確定」の場合

表示変化パターン	保留番号	表示変化タイミングパターン	決定割合
なし	4	TP1-1	40/100
		TP2-1	30/100
		TP3-1	30/100
	3	TP1-1	60/100
		TP2-1	40/100
ZHP1-1~ ZHP1-3	2.1	TP1-1	100/100
		TP0-1	30/100
		TP1-1	30/100
		TP2-1	20/100
		TP3-1	20/100
	3	TP0-1	38/100
		TP1-1	38/100
		TP2-1	24/100
		TP0-1	50/100
		TP1-1	50/100
ZHP2-1~ ZHP2-3, ZHP11~ ZHP13	1	TP0-1	100/100
		TP1-2	20/100
		TP2-2	20/100
		TP2-3	20/100
		TP3-2	15/100
	4	TP3-3	15/100
		TP3-4	10/100
		TP1-2	34/100
		TP2-2	35/100
		TP2-3	35/100
ZHP3-1	4	TP1-2	100/100
		TP2-4	30/100
		TP3-5	30/100
		TP3-6	20/100
	3	TP3-7	20/100
ZHP10	4	TP2-4	100/100
		TP1-1	40/100
		TP2-1	30/100
	3	TP1-1	60/100
		TP2-1	40/100
2	TP1-1	100/100	

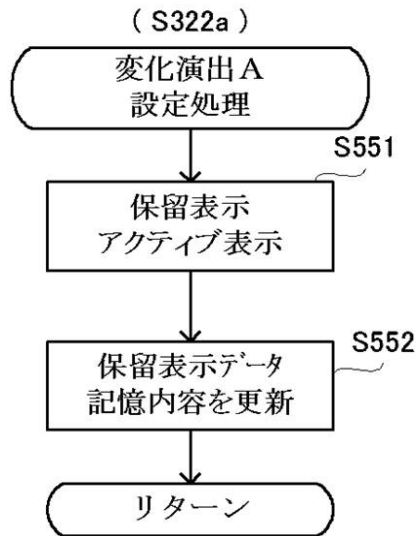
【図24】

【図24】

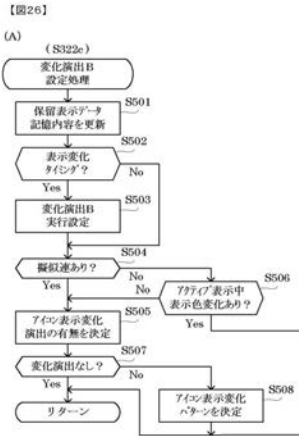


【図25】

【図25】



【図26】



(B) アイコン表示変化演出の決定例(S505)

可変表示内容	アイコン表示変化演出 変化演出なし	変化演出あり
非リチ(ハズ)	90/100	10/100
チ(ハズ)	50/100	50/100
非確変(大当り)	25/100	75/100
確変(大当り)	30/100	80/100

【図27】



【図28】

【図28】
アイコン表示変化パターン決定例(S508)

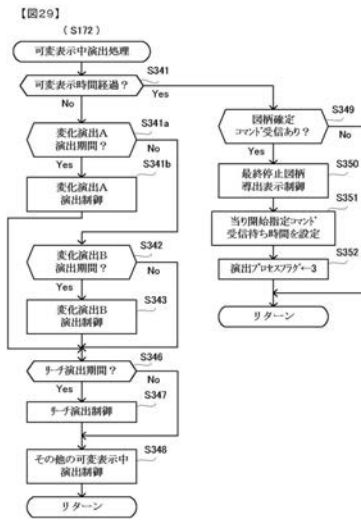
(A) 疑似連変動なしの場合

可変表示内容	アイコン表示変化 パターン	決定割合
非リチ(ハズ)	なし	5/100
	YAP1	90/100
	YAP2	5/100
リチ(ハズ)	なし	5/100
	YAP1	65/100
	YAP2	30/100
非確変(大当り)	YAP1	5/100
	YAP2	90/100
	YAP3	5/100
確変(大当り)	YAP1	1/100
	YAP2	39/100
	YAP3	60/100

(B) 疑似連変動3回の場合

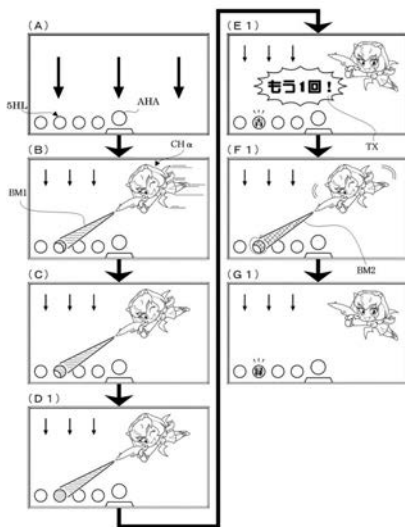
可変表示内容	アイコン表示変化 パターン	決定割合
スーパーリチ(ハズ)	YDP1-1	1/100
	YDP1-2	5/100
	YDP1-3	20/100
	YDP1-4	5/100
	YDP2-1	15/100
	YDP2-2	5/100
	YDP2-3	15/100
	YDP2-4	5/100
	YDP3-1	15/100
	YDP3-2	5/100
	YDP3-3	7/100
	YDP3-4	2/100
非確変(大当り), 確変(大当り)	YDP1-1	0
	YDP1-2	5/100
	YDP1-3	5/100
	YDP1-4	10/100
	YDP2-1	5/100
	YDP2-2	10/100
	YDP2-3	5/100
	YDP2-4	10/100
	YDP3-1	5/100
	YDP3-2	15/100
	YDP3-3	5/100
	YDP3-4	25/100

【図29】



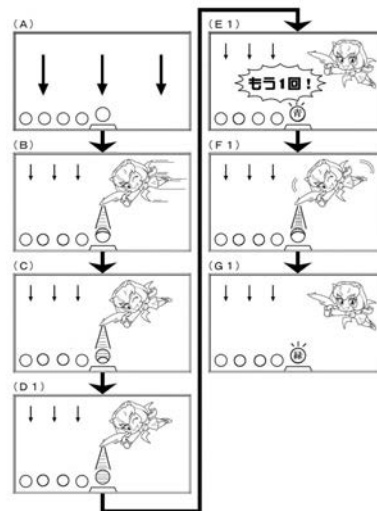
【図30】

【図30】
変化演出Aの表示変化パターンTP1-3,表示変化デザインパターンTPA3



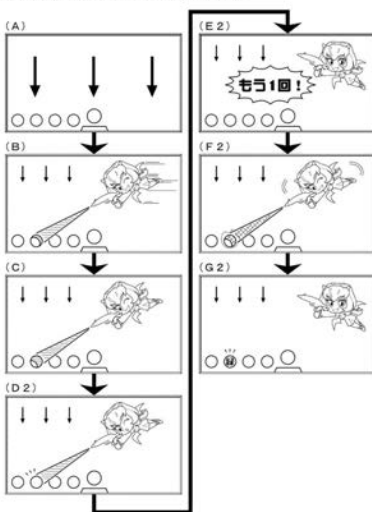
【図31】

【図31】
変化演出Aの表示変化パターンTP1-3,表示変化デザインパターンTPA6



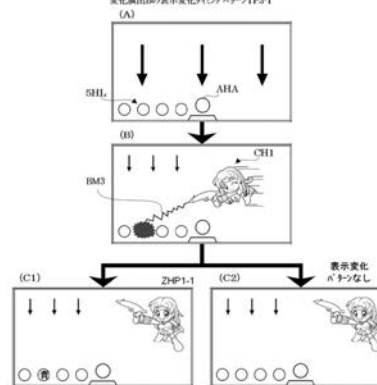
【図32】

【図32】
変化演出Aの表示変化パターンTP1-2,表示変化デザインパターンTPA3



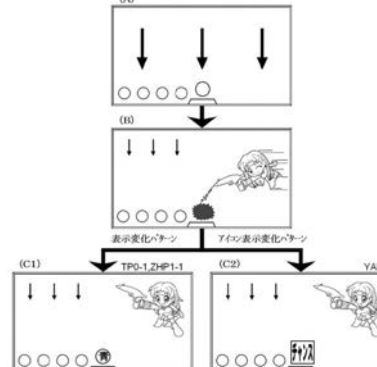
【図33】

【図33】
変化演出Bの表示変化デザインパターンTP3-1



【図34】

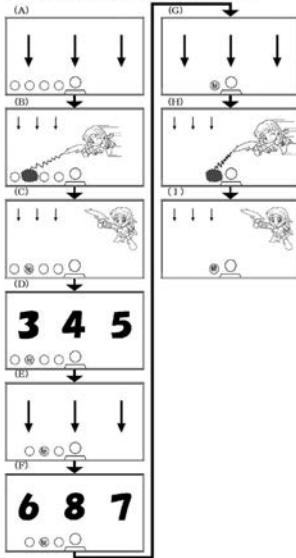
【図34】



【図35】

【図35】

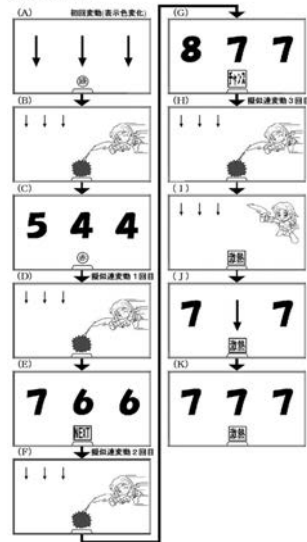
変化演出時の表示変化パターン22IP12、表示変化タイプパターンTP33



【図36】

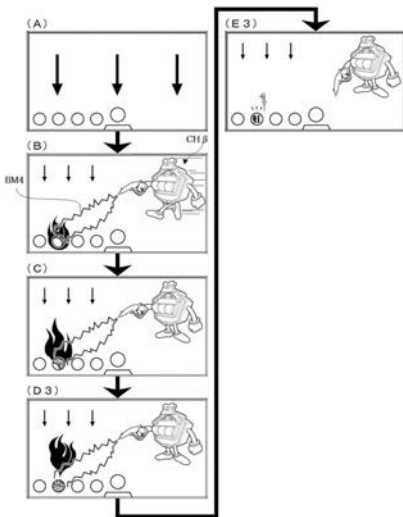
【図36】

連続変動3回の場合



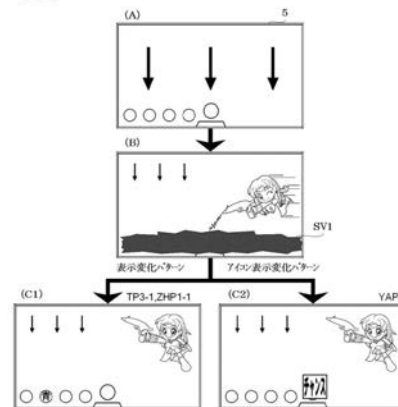
【図37】

【図37】



【図38】

【図38】



【 図 3 9 】

【 図 3 9 】

